

研究紀要第60号 令和5年度

「TOKKATSU」

よりよい人間関係や生活をつくり、自己のよさを生かす特別活動



人間関係形成
社会参画 自己実現



東京都小学校特別活動研究会

2023/11/21

東京都小学校特別活動研究会
令和5年度
研究紀要第60号

目次

○ 目次	1
○ これまでの研究集録・研究紀要一覧	2
○ 会長挨拶	3
○ 研究の基調	4
○ 研究の構想	5
○ 令和5年度研究発表大会要項	6
○ 都小特活ホームページ紹介	8
○ 各活動部の研究活動	
I 学級活動	9
II 児童会活動	25
III クラブ活動	41
IV 学校行事	57
○ 本年度の研究の成果と今後の課題	73
○ 東京都小学校特別活動研究会会則	74
○ 顧問・役員・本部幹事・理事・副理事名簿	76
○ あとがき	79

これまでの研究集録・研究紀要一覧

第 1 号	(昭和 39 年度)	特別教育活動における指導計画作成上の諸問題
第 2 号	(昭和 40 年度)	特別教育活動の本質をふまえた指導計画のあり方
第 3 号	(昭和 41 年度)	特別教育活動の本質をふまえた望ましい指導計画と実施計画
第 4～5 号	(昭和 42～43 年度)	望ましい指導計画による実践事例とその考察
第 6～7 号	(昭和 44～45 年度)	改訂指導要領実施のための具体的方策と問題点
第 8 号	(昭和 46 年度)	新教育課程実践上の諸問題
第 9 号	(昭和 47 年度)	教育課程実践上の諸問題
第 10 号	(昭和 48 年度)	特別活動と他領域との関連
第 11～13 号	(昭和 49～51 年度)	ひとりひとりを生かす特別活動の特質と指導のあり方
第 14～16 号	(昭和 52～54 年度)	楽しく充実した学校生活をめざす特別活動
第 17～19 号	(昭和 55～57 年度)	豊かな人間を育てる特別活動
第 20～21 号	(昭和 58～59 年度)	特別活動の特質をふまえ豊かな人間性の育成
第 22～23 号	(昭和 60～61 年度)	実践力を育てる集団活動のあり方
第 24～26 号	(昭和 62～平成元年度)	個が生きる集団活動の育成
第 27～28 号	(平成 2～3 年度)	望ましい人間関係を育てる特別活動の計画と実践
第 29～31 号	(平成 4～6 年度)	特別活動における新しい学力観と評価
第 32～34 号	(平成 7～9 年度)	学校週 5 日制と新しい特別活動の創造
第 35～37 号	(平成 10～12 年度)	生きる力をはぐくむこれからの特別活動の創造
第 38～40 号	(平成 13～15 年度)	豊かな学校生活を創造する特別活動
第 41～43 号	(平成 16～18 年度)	子どもたちの社会性をはぐくむ特別活動
第 44～46 号	(平成 19～21 年度)	自立を促す望ましい集団活動の創造
第 47～49 号	(平成 22～24 年度)	特別活動で育つ子供たちの力
第 50～52 号	(平成 25～27 年度)	よりよい人間関係を形成する特別活動の在り方
第 53～55 号	(平成 28～30 年度)	自己の有用感を高める望ましい集団活動
第 56 号	(令和元年度)	集団や自己の生活上の課題を解決し、『自己実現』を目指す力を育てる特別活動
第 57～60 号	(令和 2～5 年度)	よりよい人間関係や生活をつくり、自己のよさを生かす特別活動

あ い さ つ



東京都小学校特別活動研究会会長
世田谷区立芦花小学校長 石田 孝士

本会は、昭和37年に発足し昨年度創立60周年を迎えました。そして、今年度は61周年目にあたり新たな第一歩を踏み出しました。今年度発行するこの研究紀要は、第60号目となります。昭和40年3月8日に発行された第1号の研究収録の冒頭に第2代会長の斎藤敏夫先生が、「遠路を重い資料を抱えられ、夜遅くまで精力的に努力された姿に対して、心から感謝と敬意の念を捧げる。」とあります。この精神は、現在の都小特活にも連綿と受け継がれ会員の皆様のたゆまぬ研究への思いと献身的な活動に支えられています。これからも創立当初の思いを後輩たちにバトンを引き継いでまいりたいと思っております。

さて、「よりよい人間関係や生活をつくり、自己のよさを生かす特別活動」を主題に掲げた研究も4年目を迎えました。コロナ禍などで実質的な研究は3年目となり、この研究主題の最終年度であります。

現行学習指導要領では、「人間関係形成」「社会参画」「自己実現」の3つの視点を手がかりとし、「集団や社会の形成者としての見方・考え方」を働かせ、様々な集団活動に自主的、実践的に取り組み、互いのよさや可能性を発揮しながら集団や自己の生活上の課題を解決していく経験を積み重ねていくことが、特別活動に求められています。そして、特別活動の目標を達成していくためには、学級活動、児童会活動、クラブ活動、学校行事の4つの内容の関連を図っていくことが重要です。そこで、3年目から学級活動部、児童会活動部、クラブ活動部、学校行事部の4部は、研究の視点を共通にし、今年度は、各部2回ずつの研究授業と部員の日々の授業実践を通して各部の手だての有効性について検証してきました。これまでの研究を踏まえて、今年度深めた内容を加えての研究紀要です。ぜひ、東京都における特別活動の広がりや寄与できれば幸いです。

特別活動は、児童が「自分たちの学校生活を自分たちの力でよりよくしていく」自発的・自治的な活動であり、将来の社会の形成者としての資質・能力をはぐくんでいく重要な領域です。しかし、『働き方改革』の名のもと学校行事の精選という名目で削減が行われ、クラブ活動も昨年度の実施授業時間数が10時間を切る学校もあるなど現状は大変厳しいものがあります。一方、海外ではエジプトなどをはじめ中東やアジアを中心にTOKKATUが注目されてきました。本家である日本の特別活動がより充実・発展するために都小特活が果たす使命は更に大きくなってきています。この使命を果たすべく、研鑽に励み、しっかりとした組織づくりを行い、懸命に努力を行ってまいります。

結びに、本日の研究発表大会でご講演賜ります文部科学省初等中等教育局視学官 安部 恭子 先生をはじめ、これまで御指導・御助言をくださいました講師の先生方、日頃よりご支援いただいております東京都教育委員会、各地区教育委員会及び理事の皆様、関係研究団体の皆様、研究会場をご提供くださいました学校関係者の皆様方に、厚く御礼申し上げます。

令和5年度 研究の基調提案

研究部長 平松 隆行（板橋区立若木小学校長）

1 研究主題

よりよい人間関係や生活をつくり、自己のよさを生かす特別活動

2 主題設定の背景及び理由

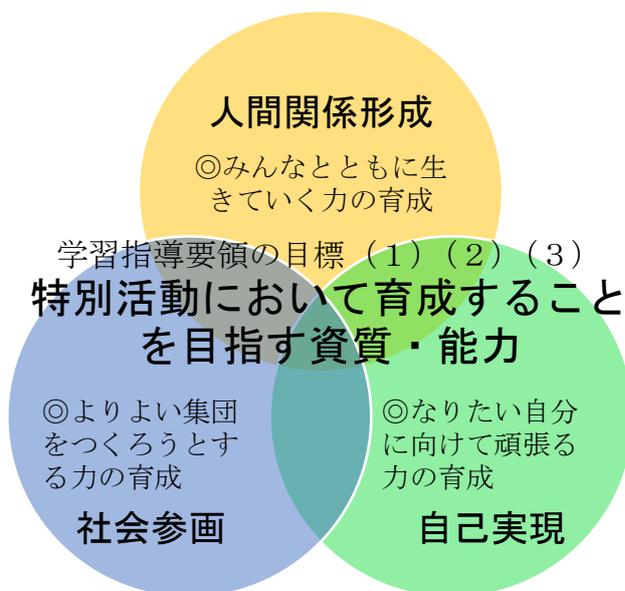
本研究会では、特別活動において育成を目指す資質・能力における3つの視点である「人間関係形成」「社会参画」「自己実現」を研究主題に設定して研究に取り組んできた。平成25年度より3年間「人間関係形成」、平成28年度より3年間「社会参画」、そして、令和元年度より「自己実現」を柱に研究を進める予定であったが、令和元年度の研究を通して、「自己実現」の捉え方や特別活動の目標などについての議論を行い、研究主題の再検討が行われた。

特別活動において育成することを目指す資質・能力は、3つの視点を手がかりとしながら育んでいくことが求められている。また、その3つの視点は切り離せない相互関係にあることから、令和2年度より研究主題を「よりよい人間関係や生活をつくり、自己のよさを生かす特別活動」と修正し、3つの視点を関連させながら、学級活動・児童会活動・クラブ活動・学校行事において研究を深めることとした。

新型コロナウイルス感染予防のため、令和2年度は研究授業が行えず、研究授業を再開した令和3年度が理論・仮説検証の実質的な1年目となった。各部の研究主題をそろえた上で研究仮説をたて、そのための手だてを3つの視点「人間関係形成」「社会参画」「自己実現」に関連させ、整理した。

令和4年度は、4研究部が、研究の考え方や進め方について、共通理解を図りながら足並みをそろえて研究を進めた。育成を目指す資質・能力は同じであるが、それぞれの活動の特質に合わせた手だてを示し、共有できた。

令和5年度は、この研究主題の最終年度となる。特別活動において育成をめざす資質・能力を育む手だての検証を通して、より汎化した提案を行う。



3 研究計画

- ① 令和元年度…仮説に基づく授業実践
○各活動、学校行事における「自己実現」を明確にし、共通理解を図る。
○各活動、学校行事における学習過程（課題解決）を構築する。
- ② 令和2年度…理論構築
○1年目の研究を踏まえ3つの視点を関連付け、育成する資質・能力について共通理解を図る。
- ③ 令和3年度…理論・仮説の検証（1年目）
- ④ 令和4年度…理論・仮説の検証（2年目）
○理論・仮説の検証のための授業実践ならびに汎用性・再現性の追究
- ⑤ 令和5年度…手だての一般化、汎用性・再現性のある提案

研究の構想

特別活動の目標

集団や社会の形成者としての見方・考え方を働かせ、様々な集団活動に自主的、実践的に取り組み、互いのよさや可能性を発揮しながら集団や自己の生活上の課題を解決することを通して、資質・能力を育成することを目指す。

(1) 多様な他者と協働する様々な集団活動の意義や活動を行う上で必要となることについて理解し、行動の仕方を身に付けるようにする。

【知識・技能】 ①何を理解しているか、何ができるか。

(2) 集団や自己の生活、人間関係の課題を見だし、解決するために話し合い、合意形成を図ったり、意思決定したりすることができるようにする。

【思考・判断・表現力等】 ②理解していること・できることをどう使うか。

(3) 自主的、実践的な集団活動を通して身に付けたことを生かして、集団や社会における生活及び人間関係をよりよく形成するとともに、自己の生き方についての考えを深め、自己実現を図ろうとする態度を養う。

【学びに向かう力 人間性等】 ③どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか。

特別活動で育成すべき資質・能力の3つの視点

○人間関係形成

○社会参画

○自己実現

研究主題

「よりよい人間関係や生活をつくり、自己のよさを生かす特別活動」

各活動・学校行事の研究主題

学級活動部	児童会活動部	クラブ活動部	学校行事部
よりよい人間関係や生活をつくり、自己のよさを生かす学級活動	よりよい人間関係や生活をつくり、自己のよさを生かす児童会活動	よりよい人間関係や生活をつくり、自己のよさを生かすクラブ活動	よりよい人間関係や生活をつくり、自己のよさを生かす学校行事

<研究の進め方>

- 各活動、学校行事における資質・能力の3つの視点について共通理解
- 各活動、学校行事における学習過程（課題解決の過程）の構築
- 各活動、学校行事における具体的な手だての明確化
- 理論・仮説の検証のための授業実践ならびに汎用性・再現性の追究
- 汎用性・再現性のある提案【今年度】

<共通の研究の視点>

視点1 人間関係形成

みんなとともに生きていく力を育てる
指導の工夫

視点2 社会参画

よりよい集団をつくろうとする力を育てる
指導の工夫

視点3 自己実現

なりたい自分に向けて頑張る力を育てる
指導の工夫

令和5年度 東京都小学校特別活動研究会研究発表大会要項

1 研究主題 よりよい人間関係や生活をつくり、自己のよさを生かす特別活動

2 日 時 令和6年2月22日（木）13時15分受付開始

3 会 場 世田谷区立芦花小学校 体育館

4 時 程

○受付 13:15～13:45

○開会のことば 13:45～14:10

挨拶

基調報告

○研究発表 14:10～15:35

○講演 15:35～16:40

○閉会のことば 16:40～16:45

5 次 第

進 行 庶務部長 酒井敬子
(大田区立おなづか小学校長)

①開会のことば 副会長 出町桜一郎
(国分寺市立第一小学校長)

②挨拶 会 長 石田孝士
(世田谷区立芦花小学校長)

③来賓挨拶・紹介 副会長 吉田有子
(清瀬市立清瀬第七小学校長)

東京都教育委員会
世田谷区教育委員会
全国特別活動研究会
全国道徳特別活動研究会
全国小学校学校行事研究会
関東地区特別活動研究会
東京都小学校学校行事研究会
多摩地区特別活動連絡協議会
本研究会顧問・参与

④基調報告

研究部長 平松 隆行
(板橋区立若木小学校長)

⑤研究発表

司会 研究副部長 米持 淳一
(小平市立上宿小学校副校長)

	学級活動	児童会活動	クラブ活動	学校行事
研究主題	よりよい人間関係や生活をつくり、自己のよさを生かす学級活動	よりよい人間関係や生活をつくり、自己のよさを生かす児童会活動	よりよい人間関係や生活をつくり、自己のよさを生かすクラブ活動	よりよい人間関係や生活をつくり、自己のよさを生かす学校行事
部長	高橋 美衣 (中央・月島第二小・主幹教諭)	渋井 洋子 (東久留米・神宝小・指導教諭)	矢部 聡 (世田谷・尾山台小・主任教諭)	竹田 桃子 (中野・鷺宮小・主任教諭)
発表者	二本木 基 (日野・日野第五小・主幹教諭) 若月 雅人 (西東京・けやき小・主任教諭) 細貝 俊稀 (立川・第五小・主任教諭) 越川 祐太郎 (江戸川・下鎌田西小・教諭) 岸野 航太 (日野・日野第五小・教諭)	菊地 佑太 (小金井・東小・教諭) 山木 大将 (世田谷・芦花小・教諭) 久良木 優有 (立川・上砂川小・教諭) 松川 浩美 (立川・第二小・教諭)	中本 健太郎 (江戸川・第四葛西小・主幹教諭) 大月 香織 (足立・古千谷小・教諭) 山口 哲郎 (港・筈小・教諭) 高畠 誠 (足立・保木間・教諭)	松本 明子 (北・浮間小・主任教諭) 小山 雅人 (世田谷・祖師谷小・主任教諭) 伊勢 祐美子 (世田谷・若林小・主幹教諭) 平山 かおり (目黒・鷹番小・主任教諭)
記録	奥山 優子 (中央・月島第三小・主任教諭) 小野田 有希 (江東・豊洲北小・主任教諭)	川崎 真琴 (青梅・第五小・主任教諭)	島田 泰子 (墨田・曳舟小・教諭)	檜山 真理子 (北・西浮間小・主任教諭) 船倉 大輔 (板橋・蓮根小・教諭)
全体記録	関 拓也 (品川・延山小・校長)	伊勢 祐美子 (世田谷・若林小・主幹教諭)	藤井 美貴子 (渋谷・上原小・主任教諭)	関田 裕子 (世田谷・芦花小・主任教諭)

⑥記念講演

演題「よりよい人間関係や生活をつくり、
自己のよさを生かす特別活動」

文部科学省初等中等教育局視学官

安部 恭子 先生

⑦閉会のことば

副会長 田村 亜紀子
(練馬区立大泉南小学校長)

東京都小学校特別活動研究会 ホームページ【<https://www.tosho-tokkatsu.tokyo>】

東京都小学校特別活動研究会（以下、「都小特活」）では、ホームページを通して、研究内容や研究会の活動の様子、会報「都小特活」や研究紀要の閲覧・ダウンロード、研究授業・研究発表会の参加申込などを行っています。

[トップページ](#)

1. SNSアイコン

2. 東京都小学校特別活動研究会 TOSHO-TOKKATSU 都小特活

ホーム 会長挨拶 特別活動とは 都小特活の研究 研究発表会・研究授業 会報「都小特活」 研究紀要 リンク

学級活動

学級活動は、学校生活で最も身近で基礎的な所属集団である「学級」において、よりよい集団づくり、人間関係を築き、学校生活の向上を図ります。

READ MORE

3. 令和5年度 研究発表大会のご案内

ト活花子 2024年1月17日

クラブ活動 児童会活動 学校行事 学級活動 特別活動 研究発表会

令和6年2月22日（金）、世田谷区立芦花小学校で行われる「令和5年度 研究発表大会」の案内です。当日は、現地参集とオンライン配信（ZOOM）によるハイブリッド型の開催となります。事前申込はありません。

4. 学校行事部 研究授業2

ト活花子 2023年12月12日 学校行事 特別活動 研究授業

令和5年12月5日（火）、北区立浮間小学校で、学校行事部の2回目の研究授業（検証授業）が行われました。3年生の音楽会の事後指導を学級活動（3）の授業で行いました。音楽会を通して、児童が身に付けた力を児童自身で探り、その力をこれからの生活のどこで生かしていくかを話し合いました。講師として、本会会長の北区立西浮間小学校長 小島 みつる先生に指導・講評をいただきました。

研究発表会・研究授業案内

1. **トップ&サイドバーメニュー**
メール・SNS へのアクセスができます。

お問い合わせメール

都小特活 twitter

都小特活 youtube

研究発表会
研究授業
案内ページ

2. **メインメニュー**
各ページにアクセスできます。

東京都小学校特別活動研究会

会長挨拶

よりよい人間関係や生活をつくり、自己のよさを生かす特別活動

会長 石田 孝士 (世田谷区立芦花小学校校長)

3. **最新情報**
都小特活の最新情報がブログ形式で表示されます。twitter でも配信します。

@Tokkatsu2019のツイート

ト活 花子

12月23日（木）、大田区立入船小学校で12月の総会が行われました。2月25日【金】に開かれる令和5年度の研究発表会について、各学年で話し合いました。

4. **研究発表会・研究授業案内**
研究授業の日程を掲載しています。

研究発表会・研究授業

今年度は、事前申込は行いません。各会の日程は、下記に掲載していますので、お気配へ参画ください。

令和5年度研究発表会

期日 令和5年2月22日（木）

場所 世田谷区立芦花小学校

（協賛） 東京都教育委員会 東京都立大学

内容 今年度の研究についての発表
議題 次世代学習者や中等教育論をテーマ
発演 花子 先生

I 学級活動部

研究主題

「よりよい人間関係や生活をつくり、自己のよさを生かす学級活動」

- 1 本年度の研究について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 10
- (1) 研究構想図
- (2) 研究主題設定の理由
- (3) 研究の視点
- 2 実践事例・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 17
- (1) 実践事例1 江戸川区立下鎌田小学校
第2学年3組 教諭 越川 祐太郎
議題「2の3うんどう会をしよう」
- (2) 実践事例2 西東京市立けやき小学校
第3学年2組 主任教諭 若月 雅人
議題「302スマイルスポーツ大会をしよう」
- 3 成果と課題・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 24

研究の経過

令和5年	6月13日(火)	6月学級活動部定例会	中央区立月島第二小学校
	7月25日(火)	7月学級活動部定例会	中央区立月島第二小学校
	8月4日(金)	8月学級活動部定例会	世田谷区立芦花小学校
	9月12日(火)	9月学級活動部定例会	江戸川区立下鎌田小学校
10月	5日(木)	第1回検証授業	江戸川区立下鎌田小学校
		講師 東京都小学校特別活動研究会 第38代会長 上野 研二先生	
10月	20日(金)	10月学級活動部定例会	中央区立月島第二小学校
11月	21日(火)	第2回検証授業	西東京市立けやき小学校
		講師 有明教育芸術短期大学 副学長 長田 信彦先生	
12月	1日(金)	12月学級活動部定例会	中央区立月島第二小学校
12月	26日(火)	研究紀要の内容検討・作成	中央区立月島第二小学校
令和6年	1月～2月	研究発表大会準備	

1 本年度の研究について

(1) 研究構想図

<p>今日的課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・互いのよさを認め合い、生かそうとする力の育成 ・様々な視点から、解決の仕方を工夫しようとする力の育成 ・自己や集団の成果や課題を様々な視点から見つめ次に生かそうとする力の育成 	<p>目指す児童像</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分たちが決めた「学級の目標」の実現に向けて、学級の一員として、自分のよさや役割を自覚し行動する子 (人間関係形成) ・理由を明確にして考えを伝えたり、自分と異なる意見も受け入れたりしながら合意形成を図り実践する子 (社会参画) ・よりよい学級生活づくりに向けて、すすんで自らのよさを生かそうとし、友達と協力し合いながら、活動を進めようとする子 (自己実現) 	<p>児童の実態</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学級会を自分たちの力で進めようとしている。 ・友達と仲よく活動することを楽しんでいる。 ・自分のよさを十分に理解したり、発揮したりできていない。
--	---	---

<p>研究主題</p> <p>「よりよい人間関係や生活をつくり、自己のよさを生かす学級活動」</p>

<p>研究仮説</p> <p>みんなとともに生きていく力・よりよい集団をつくろうとする力・なりたい自分に向けて頑張る力を育てる指導を工夫すれば、「よりよい人間関係や生活をつくり、自己のよさを生かす学級活動」になるだろう。</p>

研究の視点と指導の手だて		
<p>【視点1】 みんなとともに生きていく力を育てる指導の工夫 (人間関係形成)</p>	<p>【視点2】 よりよい集団をつくろうとする力を育てる指導の工夫 (社会参画)</p>	<p>【視点3】 なりたい自分に向けて頑張る力を育てる指導の工夫 (自己実現)</p>
指導の手だて1	「よりよい合意形成を図るために、提案理由を深める (提案理由の深化) 工夫」	
指導の手だて2	「振り返りの時間や、振り返りカードの工夫」	
指導の手だて3	「活動のよさを認め、価値付ける終末の助言の工夫」	
指導の手だて4	「『学級活動レター』による自他のよさの共有の工夫」	

学級活動(1)における一連の学習過程
<ol style="list-style-type: none"> 1 問題の発見・確認 (①議題と提案理由を学級全員で決定する。②計画委員会の中で、司会グループが当日の話し合いの役割分担を行い、話し合いの計画を立てる。③司会グループより、話し合いの計画を知らされ、解決に向けて自分の考えをもつ。) 2 解決方法等の話し合い (学級会の実践：よりよい生活づくりのために、取り組む内容や方法、役割分担などについて意見を出し合ったり、比べ合ったりしながら話し合う。) 3 解決方法の決定 (学級会の実践：意見の違いや多様性を認め合い、折り合いを付けるなど集団としての考えをまとめたり決めたりして「合意形成」を図る。) 4 決めたことの実践 (集会活動などの実践：決定したことについて、自己の役割を果たしたり、互いのよさを生かしたりして実践する。) 5 振り返り (①振り返りカードや、振り返りシートを活用したり、振り返りの時間を設けたりして、一連の実践の成果や課題を振り返る。②①を分析し成長を実感したり、次の課題解決に生かしたりするなど、実践の継続や新たな課題の発見につなげる。) →次の課題解決へ

学級活動部 研究主題

「よりよい人間関係や生活をつくり、自己のよさを生かす学級活動」

(2) 研究主題設定の理由

学習指導要領解説には、学級活動は「学級生活の充実と向上を目指し、他者と協力したり、個人として努力したりしながら、自主的・実践的に取り組むことにより、活動することの楽しさや成就感・達成感を得たり、自己有用感を高めたりすることにつながる。」とある。また、特別活動がこれまで教育課程上果たしてきた役割を踏まえて、「人間関係形成」「社会参画」「自己実現」の3つを視点としつつ、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力・人間性等」の3点の柱に沿って、資質・能力が整理されている。

本研究会の主題である「よりよい人間関係や生活をつくり、自己のよさを生かす特別活動」を受け、学級活動部では、「自己のよさを生かす」を「自分の興味のあることや自信のあることが分かること。」「自分の興味があることや自信のあることを行い、友達や学級に貢献すること。」「自分の思いや願いをかなえられること。」「学級の中に自分の居場所や役割があること。」と捉えた。

学級活動(1)では、学級という集団の中で、様々な問題を自分たちで見付け、解決方法について話し合い、合意形成を図り、合意形成したことをもとに実践し、解決につなげていく中で、自他のよさや可能性を広げたり、活動することへの達成感や充実感を得たり、自己有用感を感じたりすることができる。

そして、その経験の積み重ねが生涯にわたって、集団や社会の一員として、また社会の形成者として、たくましく生き抜く資質や能力へとつながると考えた。

主題を設定して4年目となる今年度は、学級活動における「人間関係形成」「社会参画」「自己実現」を捉え直し、本時の活動(解決方法の話合い・解決方法の決定)における児童の言動を、具体的に価値付けることを重視して、研究を推進していく。また、指導の手だての一般化を図るために、昨年度まで行ってきた多くの手だてから、今年度は4つの手だてにしぼり検証していく。

(3) 研究の視点

視点1 「みんなとともに生きていく力を育てる指導の工夫」(人間関係形成)

視点2 「よりよい集団をつくろうとする力を育てる指導の工夫」(社会参画)

視点3 「なりたい自分に向けて頑張る力を育てる指導の工夫」(自己実現)

学級活動部 指導の手だて

指導の手だて1 「よりよい合意形成を図るために、提案理由を深める(提案理由の深化)工夫」

指導の手だて2 「振り返りの時間や、振り返りカードの工夫」

指導の手だて3 「活動のよさを認め、価値付ける終末の助言の工夫」

指導の手だて4 「『学級活動レター』による自他のよさの共有の工夫」

手だて1 提案理由の深化 (よりよい合意形成を図るために、提案理由を深める)

提案理由は、合意形成を図るためのよりどころとなるように、「何のために活動するのか」、「何のために話し合うのか」を、明確に示すことを意識して指導する。明確に示した提案理由は、学級全体で共通理解を図り、全員が同じ基準で話し合えるように事前の指導を行う。よりよい合意形成を図るために、提案理由を深める場を設ける。また、より明確化された提案理由にできるように、提案理由の中のキーワードとなる言葉について共通理解を図る場を設ける。

議題

6の1一人一人のことを知ろう会をしよう

提案理由は、

- ① 現状の課題
 - ② 活動することで
 - ③ 実践後の学級
- このイメージの3段階で示すようにした。
こうすることで、今回の活動の目的が明確になり、実践後の自分たちの姿をイメージしながら話し合うことができた。

① 現状の課題
みんなのことを
まだ知らない

② こうすることで
一人一人のことを
知ることで

③ こうなる!
仲を深める
きっかけになる!

○提案理由の明確化

「今回の活動は、
何のためにやるのですか？」

「一人一人のことを
知る」ため

「知る」は、
どんなイメージですか？」

一人一人のことを
全体で共有したい!

活動の目的を問い掛けたり、具体的なイメージを確認したりすることで、提案理由が具体的な子供の姿に近付いた。「心をついに」や「なかよく」、「助け合う」などの言葉が提案理由にある場合は、計画委員会や朝や帰りの会などの学級全体で具体的な姿を考えさせ、提案理由をさらに深めることができた。

○提案理由の深化

「一人一人の何を知ることで、
仲を深めるきっかけに
なりますか？」

よいところや得意なこと

・「苦手なこと」も知りたい
→ 苦手なことも知ることができ、
助け合って生活できる

キーワードにした「一人一人のことを知る」を、さらに深めていく。「どんなことを」知ることができると、提案理由の仲を深めるきっかけになるかを計画委員会や朝や帰りの会などの学級全体で問い掛ける。どんなことを知りたいのか、提案理由を深めるとともに、学級全体で共通理解を図って承認することで、同じ土俵で話し合うことができた。

手だて2 振り返り 〈振り返りの時間や、振り返りカードの工夫〉

学年の実態に応じて学習者用端末を活用した、「学級会シート」に取り組んだ。学習者用端末を活用したことで、ノートを集める手間が無くなるると同時に、いつでもどこでも、みんなの意見を確認することができるようになった。計画委員会を学習者用端末上でできるようになったことから、司会グループの軽減にもつながった。

また、いつでも友達のことを見て自分の考えを深められるようになり、自分の思いを伝えやすくなった。

自分の考え	自分のめあて
<p>①キャラクター キャラクターはふじたろうがいいと思います。なぜなら、5-2の学級目標のキャラクターで親しみやすいし、前に向かって進んでいるように見えるので、前向きに過ごせるんじゃないかなと思ったからです。</p> <p>②ポーズ ポーズはピースで星型を作るのがいいと思います。なぜなら、五人で団結している姿を表しているのかな、と思ったからです。</p> <p>③報告した人とされた人 報告した人とされた人同士はお互いのいいところを言い合うがいいと思います。なぜなら、いいところを言い合うことで相手のいいところを再確認したり、より相手と仲良くなれると思ったからです。</p> <p>④復活ミッション 復活ミッションは二人でできるポーズを取って写真撮影がいいと思います。なぜなら、写真なら形として残るし、二人でしかできないポーズをすることで、協力感？みたいなものが生まれるかな、と思ったからです。</p> <p>⑤終わったあと 終わったとは模造紙に楽しかったことを書くがいいと思います。なぜなら、みんなと楽しかったことを模造紙で共有すると、ふと見たときに「あ、あのときの報告中、楽しかったな〜」などと思えるからです。</p> <p>⑥ビー玉迷路の工夫 ビー玉迷路の工夫は、木の棒をさして輪ゴムをお好みですがいいと思います。なぜなら、自分で難易度を調節できるので自分にあったコースで楽しめると思ったからです。</p> <p>⑦ボウリングの工夫 ボウリングの工夫は、ピンの倒れた数を点にしてさらに同じ絵の描いてあるピンを倒したら+〇〇点がいいと思います。(合体) なぜなら、ピンの倒れた数を点にするのは普通のルールでみんなわかるので、そこにオリジナルのルールを追加するのがいいと思ったし、絵合わせみたいで楽しめると思ったからです。</p>	<p>前回の反省の司会グループの手助けをもっとできるようにするを意識する。</p> <p>9:51 10月2日</p> <p>細かく書いてあったりしてわかりやすかったよ だからあまり発言してみたらいいと思うよ!?</p> <p>他 2 件の返信を表示</p> <p>14:50 10月31日</p>

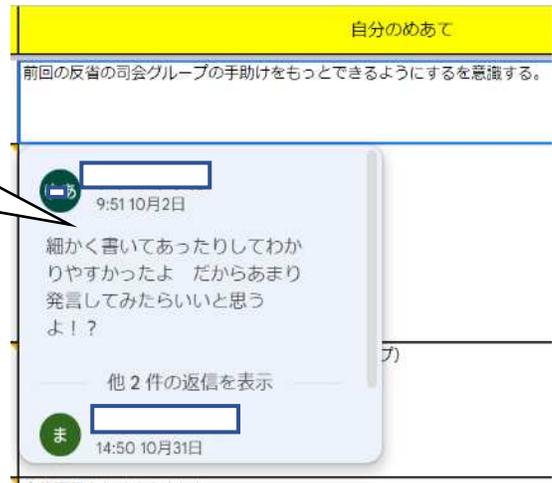
上記資料拡大

自分の考え
<p>①キャラクター キャラクターはふじたろうがいいと思います。なぜなら、5-2の学級目標のキャラクターで親しみやすいし、前に向かって進んでいるように見えるので、前向きに過ごせるんじゃないかなと思ったからです。</p> <p>②ポーズ ポーズはピースで星型を作るのがいいと思います。なぜなら、五人で団結している姿を表しているのかな、と思ったからです。</p> <p>③報告した人とされた人 報告した人とされた人同士はお互いのいいところを言い合うがいいと思います。なぜなら、いいところを言い合うことで相手のいいところを再確認したり、より相手と仲良くなれると思ったからです。</p> <p>④復活ミッション 復活ミッションは二人でできるポーズを取って写真撮影がいいと思います。なぜなら、写真なら形として残るし、二人でしかできないポーズをすることで、協力感？みたいなものが生まれるかな、と思ったからです。</p> <p>⑤終わったあと 終わったとは模造紙に楽しかったことを書くがいいと思います。なぜなら、みんなと楽しかったことを模造紙で共有すると、ふと見たときに「あ、あのときの報告中、楽しかったな〜」などと思えるからです。</p> <p>⑥ビー玉迷路の工夫 ビー玉迷路の工夫は、木の棒をさして輪ゴムをお好みですがいいと思います。なぜなら、自分で難易度を調節できるので自分にあったコースで楽しめると思ったからです。</p> <p>⑦ボウリングの工夫 ボウリングの工夫は、ピンの倒れた数を点にしてさらに同じ絵の描いてあるピンを倒したら+〇〇点がいいと思います。(合体) なぜなら、ピンの倒れた数を点にするのは普通のルールでみんなわかるので、そこにオリジナルのルールを追加するのがいいと思ったし、絵合わせみたいで楽しめると思ったからです。</p>

提案理由に沿った意見が書けるように、意見+理由+提案理由となるように指導している。

コメント機能を活用して相互評価を行った。友達のコメントを読むことで、「自分の意見に自信をもつことができた。」
「話し合いで、思いを伝えやすくなった。」と振り返る児童が増えた。

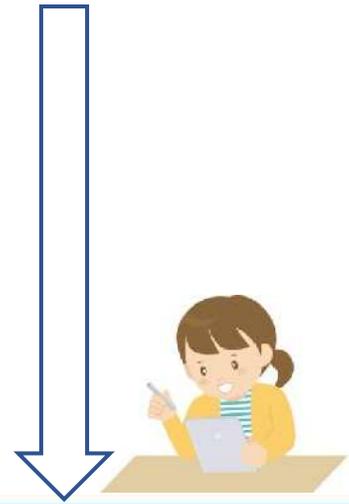
一人1台の学習者用端末を活用して、自分の意見、振り返りを蓄積し、毎回積み重ねることができるようにした。学級会前に決めた「自分のめあて」に対して、達成することができたのか、何が原因で達成できなかったのかを振り返った。



学級会毎に積み重なって行く

	自分や友達のよかったところ	次の学級会に向けて
第〇回学級会→	<ul style="list-style-type: none"> ・合意意見がたくさんあって、より多くの意見を活かせたと思います。 ・<input type="checkbox"/>さんが改善策をたくさん言ってくれたことが良かったです。 	<ul style="list-style-type: none"> ・一つのことでも「あれがいい」とか「これがいい」とかみんなが自分の意見を言い合わないようにする。(今回は、先生も言っていたけれど、くじ、自分たち、どっちで決めるかを決めるのにそうなってしまったから。) ・自分の意見をしっかりと言う。
第〇回学級会→	<ul style="list-style-type: none"> ・今回は、みんなが自分自身の意見を言っていて、いいなと思った。自信をもって、発言できた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・次回の学級会ではたくさん手が挙げられるといいなと思ったし、相手の意見は、リアクションしながら聞けるといいなと思った。
第〇回学級会→	<ul style="list-style-type: none"> ・合意意見など、多くの意見を生かした。 ・<input type="checkbox"/>さんと<input type="checkbox"/>さんがたくさん発言していた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・下げられたい意見も別のどこかで生かす。 ・賛成の数より提案理由に合っている意見を大切に

自分や友達のよかったところ	
<ul style="list-style-type: none"> ・合意意見がたくさんあって、より多くの意見を活かせたと思います。 ・<input type="checkbox"/>さんが改善策をたくさん言ってくれたことが良かったです。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今回は、みんなが自分自身の意見を言っていて、いいなと思った。自信をもって、発言できた。
<ul style="list-style-type: none"> ・合意意見など、多くの意見を生かした。 	<ul style="list-style-type: none"> ・<input type="checkbox"/>さんや<input type="checkbox"/>さんがたくさん発言していた。



今までの振り返りを見ながら書く(入力する)ことで、前回の学級会を見つめ直し、めあてを決めたり、今までの振り返りを確認して話し合いに生かしたりすることができるようになった。



次の学級会に向けて	
<ul style="list-style-type: none"> ・一つのことでも「あれがいい」とか「これがいい」とかみんなが自分の意見を言い合わないようにする。(今回は、先生も言っていたけれど、くじ、自分たち、どっちで決めるかを決めるのにそうなってしまったから。) 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の意見をしっかりと言う。
<ul style="list-style-type: none"> ・次回の学級会ではたくさん手が挙げられるといいなと思ったし、相手の意見は、リアクションしながら聞けるといいなと思った。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・下げられたい意見も別のどこかで生かす。 	<ul style="list-style-type: none"> ・賛成の数より提案理由に合っている意見を大切に

手だて3 終末の助言〈活動のよさを認め、価値付ける終末の助言の工夫〉

よりよい集団や人間関係をつくる上で、「終末の助言」の工夫は欠かせないものである。話し合いや実践後に何を価値付けたか、何を次につなげる課題として児童に問い掛けたかで、今後の集団や人間関係は大きく変化してくる。「終末の助言」では、主に「称賛」を2つか3つ、「課題」を1つ伝え、そのときには、以下の取り上げる内容と方法を大切にしてきた。

○終末の助言で取り上げる内容

- | | |
|------------------------|--------------------------|
| (1) 前回から成長が見られた言動 | (2) 議題、提案理由やめあてに戻って考えた発言 |
| (3) 事前を含めた司会グループの工夫や努力 | (4) 友達、学級全体のことを考えた言動 |
| (5) 話し合いをまとめるような建設的な発言 | (6) めあてや前回の振り返りを生かした発言 |
| (7) 実践、生活への意欲付けや次時への期待 | (8) 次への成長のために気付かせたいこと |

○終末の助言の具体的な方法

・称 賛

これからの活動に対する意欲を高め、話し合いや児童の人間関係をよりよくする言動を定着させるために、具体的な事例と名前を挙げて「どうしてよかったのか。」を考えさせる。言動のよさを認め、価値付けたことを学級全体で共有し、次の活動につなげていくことがポイントである。

教師：決まらなかった意見を別の機会に生かそうと考えて、発言をした人がいます。誰だか分かりますか？

児童：Aさんです。決まらなかった〇〇は、係の活動で行うとよい。と言っていました。

教師：Bさん、よく聞いていましたね。このように、そのときは決まらなかった意見も、係活動やクラス遊びなど別の機会に生かすことで、より多くの意見を生かした話し合いにすることができますね。

・課 題

課題を直接伝えたいところではあるが、ここを児童に考えさせることがポイントである。課題そのものを指摘するのではなく、話し合いの場面を振り返らせ、「〇〇のとき、どう思ったかな？」「どうしたらよかったと思う？」のように児童に問い掛けることで、児童が答えを見いだすことができるように助言する。そうすることで、答えを見いだした児童も称賛することができる。

教師：Aさんの意見が下げられてしまったとき、Aさんはどんな気持ちでしたか？

児童A：せっかく伝えた意見を下げられてしまって、悲しかったです。でも、言えませんでした。

教師：そうだったのですね。では、今後はどうすればよいとみなさんは思いますか？

児童B：決定する前に、意見を出してくれた人に必ず確認すればよいと思います。

教師：そうですね。これからは、決めるときに意見を言ってくれた人、そして全体にもう一度確認をしてから、全員が納得したことを確認して決められるとよいですね。

○終末の助言の留意点

- ・教師が期待する気付きが出なくても深追いはしない。あくまでも児童の「気付き」を尊重する。「自分たちの力でできた」達成感を味わわせる。
- ・司会グループの称賛を必ず伝える。意欲的な学級会にするためには、司会グループの頑張りが欠かせない。「司会グループをやってよかった」と思えるようにすることが大切である。

○終末の助言の蓄積（可視化）

終末の助言を行う際にプレゼンテーションソフトを活用することで、終末の助言で価値付けた内容を蓄積することができる。教師はこれまでに指導してきた指導事項を確認することができ、児童はいつでも終末の助言の内容を確認することができるので、めあてを決める際などに生かすことができる。

手だて4

『学級活動レター』

〈自他のよさの共有の工夫〉

「学級活動レター」は、一連の活動の中で見られた児童の協働につながる姿や一人一人の成長、学級全体の変容を価値付けるものである。教師が価値付けることによって、児童一人一人が認められていることに気付かせたり、次への活動に自らすすんで取り組んだりすることができるようにした。また、必要に応じて次回への課題を問い掛けることで、さらなる意欲につながるようにする。

○活用の方法

話し合い活動・実践活動の教師の終末の振り返りで取り上げることができなかった児童や、視点につながる言動が見られた児童を中心にレターを作成することで、教師が児童の言動を認め価値付けていく。

令和5年10月5日 江戸川区立下鎌田小学校2年3組 第1回検証授業資料

②学級活動レター

2年3組 学びゆう活どうレター
だい6かい 学びゆう会「クラスオリジナルキャラクターをつくろう」
提案理由…オリジナルキャラクターがあれば、クラスが楽しくなるし、いろんなところにつかえるから。
2の3らしい明るく、元気で、楽しいキャラクターにしよう。
れいわ5年9月15日(金)はっこう

①自分ががんばったこと
○さん…かみきろくで、さいしょはだいじょうぶかなと思ったけど、がんばってできたこと。
○さん…司会を楽しくできたこと。
○さん…かみきろくで、かみにきれいに書いたこと。
○さん…ちゃんとももたちの話を聞いたこと。
○さん…3かい発表できたこと。ゆう気が出た。
○さん…こくばんきろくで、いろいろなことを書いたり、いどうしたりできたこと。
○さん…りゆうもしっかりと書いたこと。

②ともたちのよかったところ
○さんが、こくばんきろくで、しっかりと人数を見ていたこと。(さんより)
○さんが、ちゃんとりゆうを言っていたこと。(さんより)
○さんが、しかいで、さんの話を聞いて、みんなにつたえていたこと。みんなに聞こえる声で言っていたこと。(さん、さんより)
○さんが、かみきろくでがんばって書いていたこと。(さんより)
○さんが、いろいろなとどなりでおしえてくれたこと。(さんより)
○さんが、分かりやすいことを言ってくれたから、話し合いがすすんだこと。いろいろなときに、りゆうもつてはっぴょうしていったこと。(さん、さん、さんより)

③クラスのよかったところ
○さん…みんなが大きな声ではっぴょうしていたこと。

④つぎの学びゆう会でなりたいこと
○さん、さん…もっとアピールをいっぱいすればよかった。
○さん…みんながちょっとでもかえてくれたらすすんだ。
○さん…いどうできなかったから、つぎはいどうしたい。
○さん…きめるのがむずかしかった。つぎはきまるようにしたい。

⑤つぎの学びゆう会でがんばりたいこと
○さん…自分のいけんを言うようにがんばりたい。
○さん…つぎはもっとアピールをしたい。
○さん…今回はアイデアがでなかったから、つぎは言うようにしたい。
○さん…もっといいいけんを出したい。
○さん、さん…つぎは手をあげてはっぴょうできるようにしたい。
○さん…つぎしかいをやるときは、もっとスラスラ言うようにがんばりたい。

よかったところ!!
◎しかいさんがじゅんびをしっかりと、2の3らしいあかるく、元気で、楽しいキャラクターがよいとみんなにつたえたり、先にキャラクターをかいてもらったりしていましたね。
◎しかいさんがこまったときにさんとさんが、「りゆうを聞いてみたらいいよ。」と、アドバイスしていましたね。
▲『2の3らしいオリジナルキャラクター』を作ることをいしきて、どのキャラクターがふさわしいのが、もういちどみんな考えてみましょう。

○留意点

- ・年間を通して作成し、学級全員が掲載されるように配慮する。
- ・人間関係形成、社会参画、自己実現の資質・能力の3点の視点を意識して掲載する。
- ・学級活動ノート（ファイル）に貼り重ねたり、クラウド上で共有したりして次への活動の際に振り返ることができるようにする。

②自分が頑張ったこと
③友達のよかったこと
④クラスのよかったこと
★自他のよさや頑張りに気付かせる。
(人間関係形成・自己実現)

- ④次の学級会で頑張りたいこと
- ⑤次の学級会で気を付けたいこと
- ★集団としての成長や課題に気付かせる。(社会参画)

学級活動レターは、ICTを活用して作成することで、簡略化し一般化を図ることができる。

教師：考えてみましょう！ 児童：はい！

ここで終わってしまう児童がいることが考えられる。

例えば、提案理由の「2の3らしいオリジナルキャラクター」にするためには、どのキャラクターのどんなところが合っているのかな？という問い掛けになると答えが見だしやすくなる。

どの児童も自分で答えが考えられるように、学級活動レター上でも問い掛けていく。



2 実践事例

(1) 実践事例1 第2学年 学級活動(1)

① 日時、場所、対象、授業者

授業日 令和5年10月5日(木)

対象 2年3組

場所 江戸川区立下鎌田小学校

授業者 教諭 越川 祐太郎

② 議題 「2の3うんどう会をしよう」

【提案理由】「うんどうが にがてな人がいる。2の3 みんなが楽しくきょうりよくできることをして、うんどうをすきになってほしいから。」

2年3組の児童が共通認識した「きょうりよく」とは

たすけあい 手つだう 一人ではなくてみんなで 何かいっしょにできる

③ 一連の活動の流れ

事前の活動

- ・司会グループが議題を選定し、学級全体で話し合い、議題を決定する。
- ・提案理由を深め、提案理由の中の鍵となる言葉の共通理解を図る。
- ・学級会ノートに自分の考えを書く。
- ・司会グループが、一人一人の考えを短冊に書いたり、話し合いの進め方の確認をしたりする。

本時の展開

【ねらい】 みんなで協力して話し合いを進めることができる。

- ・はじめの言葉 ・司会グループの自己紹介 ・議題の確認 ・提案理由の確認
- ・話し合いのめあての確認 ・決まっていることの確認
- ・話し合い(何の競技をするか、何の担当を誰がするか)
- ・決まったことの発表 ・今日の学級会の振り返り ・先生の話 ・終わりの言葉

【話し合いの様子】

- ・少人数の児童しか意見を伝えなかったため、考えがあまり出されなかった。学級会ノートに全員が考えを書いていたので、まだ出ていない考えを発表するように助言をした。その結果、11個の考えが出された。
- ・「協力できる。」「仲よくできる。」と提案理由を意識した発言が多く見られた。
- ・11個あった考えから、似ている考えを合体していき、4個にまとめることができた。
- ・「つなひきは、あぶない。」という意見が出て、安全に行うための工夫として、「マットを敷く。」「人数を少なくする。」などが出たが、どの意見も全員が納得することがなく、話し合いが途中で終わってしまった。



事後の活動

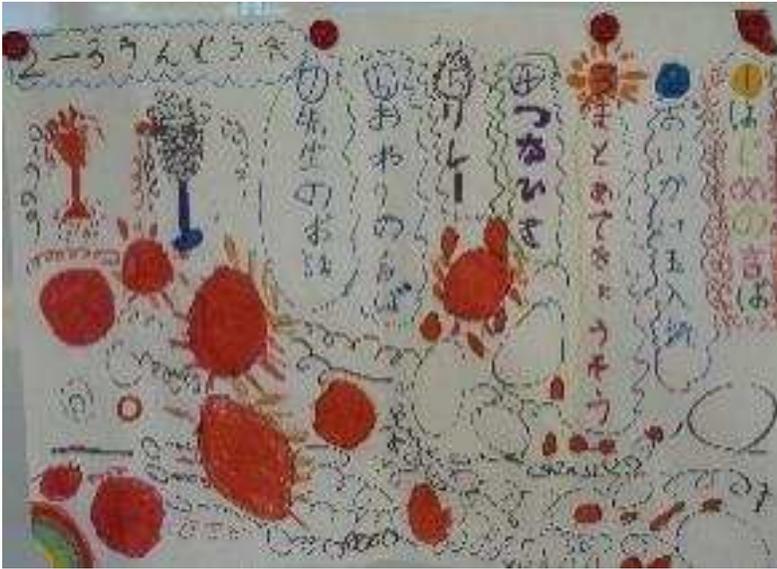
- ・綱引きをどのように行うか話し合う。「紐の先にコーンを付け、ペアで片側から引いて、リレー形式で行えば大丈夫。」という考えが出て、全員が納得した。
- ・「2の3うんどう会」に取り組んだ。
- ・振り返りを行った。

【教師の手だて】

- ・活動を見守り、終末の助言に生かせるように記録を取る。
- ・振り返りを行い、よかった点や改善点を児童から出させ、後日学級活動レターで知らせる。
- ・自分の態度を振り返るとともに、自分の役割を果たすことや友達のよかったところについても認められるように助言する。

【実践活動の様子】 実施日 10月23日(月) 5校時

- ・おいかげ玉入れでは、相手チームが行っていて待っているときに、チーム関係なく応援することができた。
- ・的当て競争では、自分たちが行いたいことができ楽しむことができた。
- ・綱引きでは、安全に気を付けてペアで紐を引っ張ることができ、話合いで不安を感じていた児童も楽しむことができた。
- ・障害物リレーでは、担当児童だけでなく、みんなで助け合いながら、マットやコーンなどの場の準備をすることができた。
- ・4つの競技が全部、みんなが協力して、楽しくできる工夫があり、笑顔がたくさん見られた。
- ・集会活動を通して、週末に行われる運動会本番へ向けて意欲が高まった。
- ・振り返りでは、楽しかったことや友達のよかったところをたくさん伝えることができた。



④ 手だての検証・成果

終末の助言の工夫

教師が何を価値付けたか、何を次への課題としていたのかを明確にし、これまでどのような助言を行ってきたのかをまとめることで、学級の実態を把握した。それをもとに、適切な助言を行うことで、児童の実践意欲を高めたり、自主性を育んだりすることができた。

実際に行った終末の助言(1学期分) ○称賛 ▲課題

第1回学級会「たからさがしをしよう」

- 初めての学級会で、司会がしっかりと進行し、「この中でいいものはありますか。」「これで大丈夫ですか。」と確認していたことを称賛した。
- 友達の発言が聞こえなかったときに「もう一度言ってください。」と確認していたことを称賛した。
- ▲自分の考えを理由とともに発言できていなかったため、どうしてその考えがいいのか分からなくなっていた。その中でWさんが「黄色の折り紙で宝を作る。黄色はお宝みたいな色だから。」と理由を言っていて、みんながその考えがよいと思っていた場面を思い出させ、理由を言うとういことに気付かせた。

第2回学級会「たからさがしをしよう」

- 司会が「これでいいですか。嫌な人はいませんか。」と確認していたことや、黒板記録が短冊を移動しながらみんなが分かるようにしていたことを称賛した。
- 提案理由の「なかよく」を意識して発言できていたことを称賛した。
- 話合いのめあてに「理由を言う。」と入れて、みんながしっかりと理由を言っていたことを称賛した。
- ▲宝探しのルールで「5人ずつのグループになる」と決まったが、その他にでていた「取った人におめでとうと言う。」「何も見つけていない友達と協力して探す。」はなしでよいのかを聞き、ルールは必ずしも一つに絞る必要はないことに気付かせた。

<p align="center">第1回集会活動「たからさがし」</p> <p>○進行役がいなくて困っていたときに、進行役以外の児童が「始めよう。先に1～3班が隠そう。」と声掛けをしていたことを称賛した。</p> <p>○まだ見付けていない友達と協力して、場所を教えたり、見付けた友達に「すごい。」と言ったりしていたことを称賛した。</p> <p>▲時間を決めておらず、後半組が探す時間が短くなっていましたので、どうすればよかったか問い掛け、役割を事前に考えておく必要があることに気付かせた。</p>
<p align="center">第3回学級会「おにごっこをしよう」</p> <p>○みんなが楽しめることを意識した発言が多く見られたことを称賛した。</p> <p>○出された考えを合体させてすべての意見を大切にしようとしたことを称賛した。</p> <p>▲他に決めることはないかを問い掛けて、役割分担を行い、準備をする必要があることに気付かせた。</p>
<p align="center">第4回学級会「おにごっこをしよう」</p> <p>○司会グループが前回の集会活動の経験を生かし、事前に役割を決める必要があると考えられたことを称賛した。</p> <p>○役割分担で人数が偏ったときに、譲り合って決めることができたことを称賛し、次回同じような状況の時は自分が譲る側になれるとよいことを伝えた。</p>
<p align="center">第2回集会活動「2の3おにごっこ」</p> <p>○活動の見通しをもって、事前にルールの確認等をしたことを称賛した。</p> <p>○司会を中心にみんなで協力して、すぐに活動を行えたことを称賛した。</p> <p>▲事前にルールを伝えても、理解できていない児童がいた。分からないことはそのままにせず、分かるまで聞いておくことで活動時間が長くなることに気付かせた。</p>
<p align="center">第5回学級会「なつまつりをしよう」</p> <p>○司会がスムーズに進行したり、みんながすすんで自分の考えを伝えたりしていたため、1回で決めることができたことを称賛した。</p> <p>○普段、発言ができていなかった児童が自分の考えを言えたことを称賛した。</p> <p>○合体するのはとてもよいことだが、合体しすぎると大変だと気付いたことを称賛した。</p>
<p align="center">第3回集会活動「なつまつり」</p> <p>○みんなが楽しめるように休み時間も使って準備をして、全員が笑顔で活動を終えられたことを称賛した。</p> <p>○自分たちで時計を見て、前半と後半の役割を変えられたことを称賛した。</p>

⑤指導講評

講 師 東京都小学校特別活動研究会 第38代会長 上野 研二先生

【検証授業に関して】

議題について

- ・学級活動部は、よりよい生活づくり、よりよい人間関係づくりを掲げているので、「人権感覚上よいのだろうか。」という考えを常にもって、議題や提案理由を考えていってほしい。議題の選択は児童に任せていく。

合意形成について

- ・総合的で、建設的な話し合いにしていくためには、合意形成をどのように行っていくか、学級をどう伸ばしていきたいか、学級活動の中でどう成長させていきたいかを考えていくとよい。活動への意欲を高め、最後は「楽しみだ。」と終わらせたい。そのためにどのようなプロセスを踏むのか、部として検証していってほしい。

中途助言について

- ・全体に伝えることで、次につながる。教師の言葉は、全て意味があるとする必要がある。

振り返りカードについて

- ・書かせる時間を確保する。次回へのアドバイスを丁寧に行っているため、継続して取り組んでほしい。

終末の助言について

- ・何を育てたいかによって、どこを称賛するとよいか考えていく。一人一人の活動を具体的にどうだった全体に分かるように、もっとしっかり称賛することが大切である。

発言の活発化について

- ・発言することが目的になってはいけない。実践に向けて、子どもたちをどのように育てていくか考えることが大切である。

【学級活動について】

- ・集団思考は楽しい。話し合っていく中で変わっていくことはあるので、それを教師も一緒に楽しんでいってほしい。みんなで立ち止まって、何について話し合うかを確認し合い、集団思考の場面をどう作っていくか考えるのは教師の仕事である。

一人一人の児童にどのように働きかけるか

- ・教師は、児童に「どのような経験」、「どのような学び」をさせたいかを、「児童の実態」と連携させて考えていくことが大切である。「頑張れた。」にするために、どのような手だてをとるかが重要である。
- ・本時で、どのようなことを挑戦させたいか、経験させたいかを座席表に入れるのも一つの方法である。

学級づくり

- ・居場所をつくり、一人一人のよさが生かされる学級にしていくことが大切である。
- ・一人一人が「自分を出せる」学級にしてほしい。そういう場を意図的に作っていく必要がある。
- ・友達を大切にする雰囲気づくりや、環境づくりを通して、友達の意見を大切にしていこう指導していく。
- ・学級活動（１）を中心に、学級活動（３）にも力を入れていく。各学校の年間指導計画では、１年間どうやっていくかデザインされているので、それにそって進めていくとよい。どのような手だてを取って、アプローチしていくかが大切になる。

話し合いについて

- ・共同の問題にしていく。児童は好みで話をしているので、それに気付かせていく必要がある
- ・みんなで考えるという学習活動にしていくために、「思考力を育てる。」「スキルを育てる。」「具体的に話す。」「考えを広げる。」「考えに理由をつける。」など、各教科でも育て、往還的な学びとなるようにしていくことが大切である。
- ・全員参加の充実した学級会をしていくためには、教師の適切な指導が大切である。話し合いの質をどのように高めていくか。「みんなですることを、みんなで話し合っていて決めている。」という実感をもたせていくことが大切である。
- ・個別最適な学びと、共同的な学びを学級活動部としてどのように実践していくのか、今後の研究で探求してほしい。

（２）実践事例２ 第３学年 学級活動（１）

① 日時、場所、対象、授業者

授業日 令和５年１月２１日（火）

場 所 西東京市立けやき小学校

対 象 ３年２組 ２８名

授業者 主任教諭 若月 雅人

② 議題 「３０２スマイルスポーツ大会をしよう」

【提案理由】「勝ち負けがあるスポーツで、互いの気持ちを考えられずに仲よくできないことが多い。だから、友達の気持ちを考えられるスポーツ大会をして、仲間や相手チームと仲よくスポーツができるようになりたいから。」

③ 一連の活動の流れ

事前の活動

- ・２学期最初に議題集めを行い、学級全体で話し合いを行い、議題を決定した。
- ・提案理由を深めるための助言を行い、みんなで提案理由を練り上げた。
- ・提案理由の中の曖昧な言葉の共通理解を図った。
- ・学級会ノートに自分の考えと理由を書いた。
- ・司会グループが前回の司会グループが作成した台本を見ながら、話し合いの進め方を確認した。
- ・教師も司会グループの話し合いに加わり、どのようにして意見をまとめるのか問い掛けた。

本時の展開

【ねらい】 提案理由に沿って話し合いを進め、解決方法について理由などを比べ合いながら合意形成を図ることができる。

- ・あいさつ ・司会グループの自己紹介 ・議題の確認 ・提案理由と話し合いのめあての確認
- ・決まっていることの確認 ・話し合い(行う競技を決める、オリジナルルールを決める)
- ・決まったことの発表 ・振り返り ・先生の話

【話し合いの様子】

- ・提案理由をよく考えながら、自分の意見を発表した児童が多くいた。
- ・今までの集会の経験を振り返って理由を伝えたり、これまでの学級会で出た「話し合いを進める言動」を基に発言したりして、学級会の積み重ねが見られた。
- ・どうしたら提案理由が達成できるのか、詳しく伝える「アピールの意見」を発表し、それを聞いて納得した上で意見を変える児童が多くいた。
- ・「アメリカンドッジボールがやりたい。」という意見の児童が一人になったときに、「休み時間のクラス遊びで、その子が考えたオリジナルルールで行うのはどうか。」と提案する児童がいた。その新たな提案に納得し、最後は3つのスポーツに決まった。
- ・オリジナルルールの作成では、「応援団を作る。」「最後に勝っても、負けても握手をする。」「全チームに表彰状をつくる。」など、提案理由を意識したオリジナルルールが出された。
- ・提案理由から逸れているオリジナルルールがあった。また、たくさんのオリジナルルールを、競技ごとに整理分類することが課題として残った。



事後の活動

- ・翌日の朝の時間にみんなで役割分担を行い、役割分担ごとに協力して準備をしていた。
- ・学級会で、一人一人の頑張ったことを学級活動レターで児童と保護者に伝えた。
- ・302スマイルスポーツ大会に取り組んでいた。
- ・振り返りを行い、終末の助言の中で、次の学級会や集会の課題を確認した

【実践活動の様子】 実地日 12月4日(月) 3校時

- ・始めの言葉の後に、応援団が作成したオリジナルの振り付けで全員にエールを送ることができた。
- ・ドリブルサッカーでは、ルールが複雑で混乱してしまう児童がいたが、最後はオリジナルルールどおり握手を行い、よい雰囲気のでることができた。
- ・キックベースでは、試合前に円陣を組むチームがあり、楽しくできた。
- ・ソフトバレーボールでは、得点が入る度に喜ぶ姿が見られた。しかし、ワンプレーごとにどちらかのチームに得点が入るため、喜ぶ頻度が多く、その行為を煽り行為だと感じ、怒る児童が出てきてしまった。そのため、最後は気持ちよく終わることができなかったチームが幾つかあった。
- ・スポーツのルールは、遊びのルールよりもより全員が分かっていないと難しいことを教師が伝えた。また、最後まで集会のめあてを意識するにはどうしたらよいか問い掛けた。



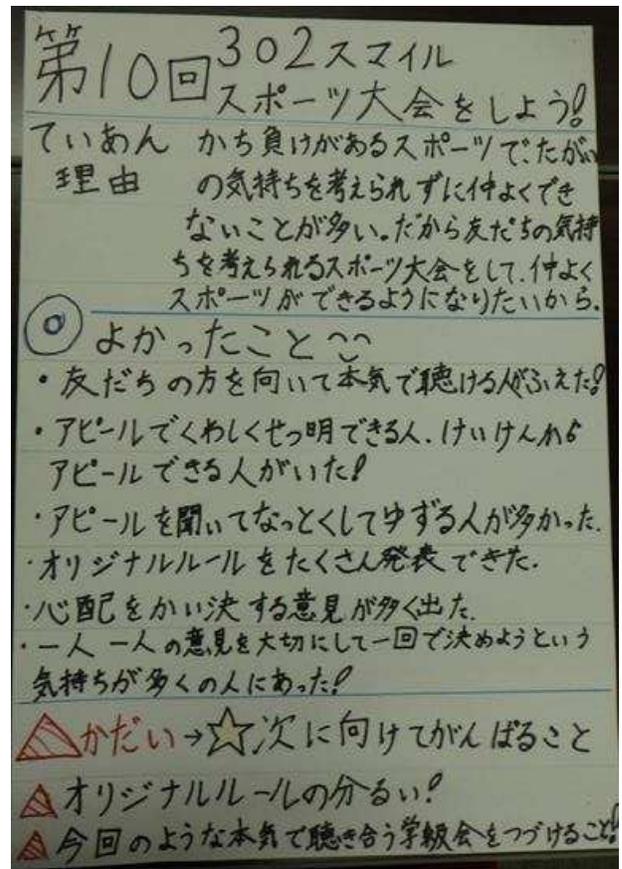
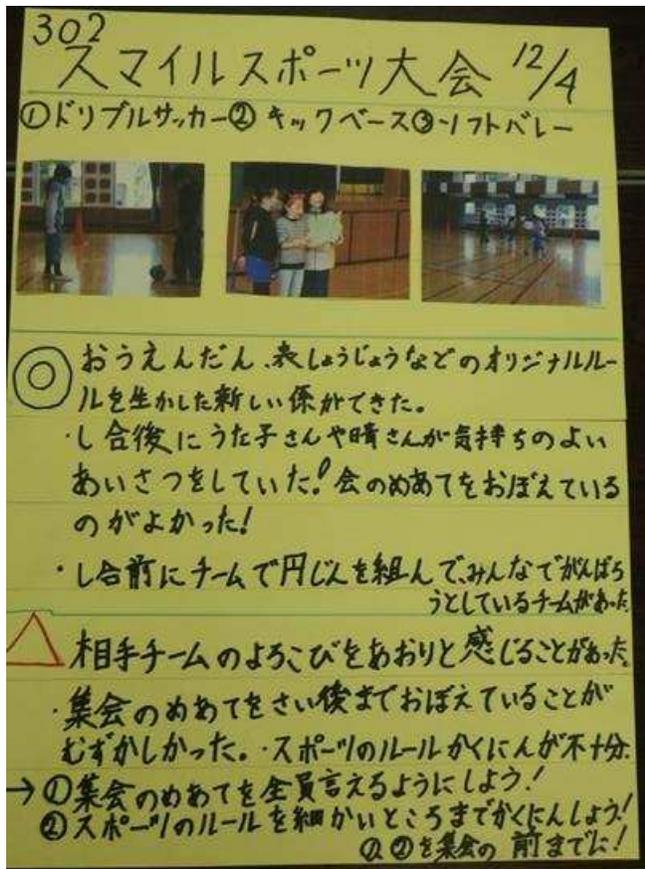
④ 手だての検証・成果

振り返りの工夫

- ・「学級活動レター」では、必ず全児童を認めているため、どの児童もレターの発行を楽しみにしている。また、保護者にも配布しているため、児童が保護者にも認められるようになり、多くの児童が意欲的に学級会に取り組むようになった。
- ・毎学級会と毎学級集会の振り返りを新聞に作成し掲示した。児童は、計画委員会で提案理由を練ったり、議題を考えたりする際によく見ている。集会の経験を基に学級会で理由を言う児童が増えた。2学期からは児童自身が自主的に作成している。

振り返りシートの工夫

- ・児童が自分の成長や課題、学級のよさに気付けるように、振り返りを蓄積できるようにした。教師が必ず目を通し、励ましや期待のコメントを毎回伝えることで、自分のめあてを適切に設定し意欲的に学級会に臨めるようになった。



⑤指導講評

講師 有明教育芸術短期大学 副学長 長田 信彦先生

【東京都小学校特別活動研究会 学級活動部に関して】

- ・本研究会の研究主題「よりよい人間関係づくりとよりよい生活づくりから、自己のよさを生かす」の自己のよさとは何かを、しっかりと理解して研究していくことが大切である。
- ・課題の発見から振り返りまでの学級会の学習過程の中で、「達成感・充実感・自己有用感」を感じることで、将来をたくましく生きぬく能力につながる。

【検証授業の指導案に関して】

学級の実態について

- ・勝ち負けでけんかになるのは、発達段階を考えると当たり前と言える。相手の気持ちを考えることや誰とでも協力していくことが課題であると指導者が捉えていたが、徐々に一人一人を大切にしようという思いで学級会に臨めるようになってきたのは、指導者の指導の成果である。
- ・『学級の目標』が特別活動に絡んでいて、大切な部分となっている。よさを生かすということは、教師がまず個人のよさや可能性を理解していくことが大切である。

手だてについて

- ・終末の助言では、必ず課題を伝えられるとよい。
- ・振り返りの工夫にある「学級活動レター」は、焦点を定めて児童の発言や振り返りを記載できるとよい。また、「振り返り新聞」については、新聞を活用して、過去の提案理由をうまく活用できるようになるとよい。
- ・振り返りシートに書く内容は、児童の発達段階や実態を考慮して定められるとよい。
- ・提案理由の深化の際に、提案理由がぶれないように『学級の目標』も大切にできるとよい。提案理由がぶれないよう、『学級の目標』に立ち返るといふ日頃からの指導が大切である。また、「共通理解をする」という指導があることで、初めて話合いの土俵がつくられる。

【検証授業に関して】

- ・児童の発言が「人権に配慮したものかどうか。」を、教師が記録していく中で見取ることが大切である。
- ・児童が意見を変えたり本当に納得しているか分からなかったりしたまま、話合いが先に進んだ際には、教師が中途助言で理由を丁寧に確認するとよい。
- ・合意形成が図れていた。アピールタイムを「この児童はよく考えて発言していた。」と捉えるかは、教師がよく考えるとよい。
- ・「話し合っていることは何か。」を、児童全員がしっかりと分かっているような工夫をするとよい。
- ・話し合うこと2は、「仲よくなって楽しくなるための工夫」の方が合っていたかもしれない。オリジナルルール目的が何なのかを、はっきりさせることが重要である。
- ・出た意見をなくさないように、活用できる方法を考えている児童が多かった。支持的風土が育っている。
- ・児童は、「合意形成すること」が最終の目標ではない。終末の助言は、このことを念頭に置くことが大切である。

※研究資料

発達段階による「とらえておきたい『学級会』の観点」は右のQRコードでダウンロードできます。



3 成果と課題

(1) 成果

視点1「みんなとともに生きていく力を育てる指導の工夫」(人間関係形成)

- ・学級活動レターや学級会シートを手だてとしたように、学級の実態に合った方法で児童一人一人のよさを見取り、価値付けることで、児童自身が学級の中で活躍する姿が多く見られるようになった。また、児童同士が互いのよさを理解し、人間関係がより一層深まった。

視点2「よりよい集団をつくろうとする力を育てる指導の工夫」(社会参画)

- ・学級会の終末の助言や学級活動レターを活用し、「よさ」と「課題」を適切に伝えてきた。学級会の回を重ねるごとに、話し合いの方法がよりよく変化し、児童が友達の「よさ」に気が付くようになった。

視点3「なりたい自分に向けて頑張る力を育てる指導の工夫」(自己実現)

- ・提案理由の深化を手だてにしたことで、提案理由がより具体的になると同時に児童間での共通理解が図れるようになった。話し合いの目的や意義が明確になり、話し合い活動や実践活動を通して、なりたい自分に向けて頑張る児童の姿が多く見られるようになった。

(2) 課題

視点1「みんなとともに生きていく力を育てる指導の工夫」(人間関係形成)

- ・「自治的活動の範囲」に立ち返り、人権上の問題や配慮が必要な事項は、助言や指導をする機会を逃さず「誰一人欠けない、落とさない指導」を目指していく。

視点2「よりよい集団をつくろうとする力を育てる指導の工夫」(社会参画)

- ・学級活動レターの発行と配布のみでは、自分の課題や成長だけを読むだけで終わってしまう児童もいるそのため、学級全体で共有する時間も確保していく。
- ・振り返りのカードやシートの最後に、視点を設定せず思ったことや気付いたことを自由に記述させることにより、児童の生の声を聞いていく。

視点3「なりたい自分に向けて頑張る力を育てる指導の工夫」(自己実現)

- ・学級活動(1)に焦点を当てて研究を行ってきたが、来年度以降は学級活動(2)(3)についても、部員同士が授業実践を持ち寄り学び合うことで、自己実現を図る力を養う検証を行っていく。

研究に携わった人(今年度の授業者○)

部長 高橋 美衣	中央・月島第二小	副部長 大野 和代	足立・千寿第八小
副部長 二本木 基	日野・日野第五小	副部長 金澤 勇輝	稲城・稲城第三小
会計 奥山 優子	中央・月島第三小	会計 小野田有希	江東・豊洲北小
庶務○越川祐太郎	江戸川・下鎌田小	○若月 雅人	西東京・けやき小
吉田 司	三鷹・南浦小	細貝 俊稀	立川・第五小
岸野 航太	日野・日野第五小	増田 琴	千代田・富士見小
大久保秀晃	三鷹・大沢台小	五十嵐拓斗	文京・大塚小
田中 映輝	江戸川・船堀第二小	高橋 佳大	江戸川・第四葛西小
兼近 真慈	新島・新島小	川村 容平	町田・七国山小
矢部 織生	世田谷・八幡小	佐藤 麻美	豊島・高松小
新居 逸郎	昭島・つつじが丘小	田村 優樹	稲城・長峰小
秋嶺 創大	青梅・河辺小	神山 卓也	練馬・北町小
鴨下 晃大	三鷹・第四小	梶原 真唯	調布・飛田給小
市川 敦也	日野・日野第五小	矢瀧 亮	西東京・けやき小
棚橋 正太	東久留米・第六小	久司浦邦弘	西東京・けやき小
嶋田 香織	日野・日野第一	岡田 悠希	八王子・東浅川小
春野 真也	板橋・前野小	城村紗桜里	東村山・東萩山小
長谷川和輝	中央・月島第二小	市川 秀弥	瑞穂町・第二小
佐藤 純	町田・七国山小	小林 芽生	三鷹・南浦小
猪岡 仁	世田谷・桜丘小	山田 由佳	町田・七国山小
星野 祐希	中野・北原小	岡田 育知	目黒・中目黒小
田川 聡子	中央・日本橋小	岡野 旭真	目黒・中目黒小
西田 将基	江戸川・西小松川小		下鎌田小学校、けやき小学校の教職員の方々

Ⅱ 児 童 会 活 動 部

研究主題

「よりよい人間関係や生活をつくり、自己のよさを生かす児童会活動」

- 1 本年度の研究について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 26
 - (1) 研究構想図
 - (2) 研究主題設定の理由
 - (3) 研究の視点
- 2 実践事例・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 29
 - (1) 実践事例1 小金井市立東小学校
代表委員会「ミッションスタンプラリーをしよう」
 - (2) 実践事例2 世田谷区立芦花小学校
栽培委員会「全校を盛り上げる植物スタンプラリー第2弾」
- 3 成果と課題・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 40

研究の経過

令和5年	5月25日(木)	定期総会	世田谷区立芦花小学校
	6月20日(火)	第1回児童会活動部会	東久留米市立神宝小学校
	8月1日(火)	第2回児童会活動部会	東久留米市立神宝小学校
	8月4日(金)	夏季集中研修	世田谷区立芦花小学校
	8月29日(火)	第3回児童会活動部会	小金井市立東小学校
	10月2日(月)	第1回検証授業	小金井市立東小学校
		講師 有明教育芸術短期大学副学長 長田 信彦 先生	
	10月12日(木)	第4回児童会活動部会	世田谷区立芦花小学校
	11月2日(木)	第5回児童会活動部会	世田谷区立芦花小学校
	11月16日(木)	第2回検証授業	世田谷区立芦花小学校
		講師 有明教育芸術短期大学教授 石井 友行 先生	
令和6年	1月4日(木)	第6回児童会活動部会	世田谷区立芦花小学校
	1月11日(木)	拡大研究部会	板橋区立若木小学校
	1～2月	研究発表準備	
	2月22日(木)	研究発表大会	世田谷区立芦花小学校

1 本年度の研究について

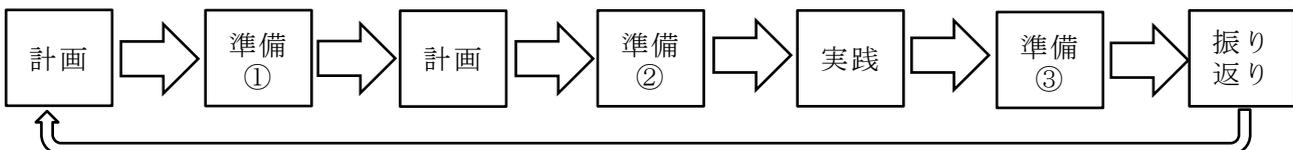
(1) 研究構想図

<p>今日的課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・よりよい人間関係を築く力の育成が必要である。 ・失敗にくじけない強い心の醸成が大切である。 ・社会に参画しようとする意欲の醸成が重要である。 	<p>目指す児童像</p> <ul style="list-style-type: none"> ・上級生が下級生を思いやる気持ちを、下級生が上級生にあこがれる気持ちをもちながら、異年齢交流活動を楽しむことができる児童 (人間関係形成) ・「思いやり」や「あこがれ」の気持ちを基に互いの考えを尊重し、自らの発意・発想を生かした自治的活動を通して、よりよい異年齢集団をつくらうとする児童 (社会参画) ・異年齢交流活動の目的や意義を理解し、全校のみんなのためにそれを達成するとともに、異年齢集団の中で自分らしい生き方を実現する児童 (自己実現) 	<p>児童の実態</p> <ul style="list-style-type: none"> ・優しい児童が多い。 ・自己主張できる児童が多い。 ・異年齢で関わった経験が少ない。 ・自ら挑戦できず、失敗するとなかなか立ち直れない。 ・言われたことはするが、すすんで活動しようとしなない。
---	---	--

<p>研究主題</p> <p>よりよい人間関係や生活をつくり自己のよさを生かす児童会活動</p>
<p>研究仮説</p> <p>発意・発想を生かした活動の場を保障し、上級生が思いやりの心をもったり、下級生があこがれの思いをもったりするような振り返りを大事に指導すれば、異年齢交流活動を通して『よりよい人間関係や生活をつくり自己のよさを生かす』ことができるだろう。</p>

研究の視点と指導の手だて		
<p>【視点1 人間関係形成】 みんなとともに生きていく力を育てる指導の工夫</p>	<p>【視点2 社会参画】 よりよい集団をつくらうとする力を育てる指導の工夫</p>	<p>【視点3 自己実現】 なりたいたい自分に向けて頑張る力を育てる指導の工夫</p>
<ul style="list-style-type: none"> ○全校児童から意見を収集する。 ○収集した全ての意見を大切にす 	<ul style="list-style-type: none"> ○児童の発意・発想を生かした自治的活動を保障する。 ○全校児童のことを考えて話し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○提案理由 (=活動の目的や意義) を深める。 ○委員会のめあてをもとに、個人のめあてを明確にする。
<ul style="list-style-type: none"> ○メッセージボードを設置し、リーダー側とフロア側が思いを共有する。 		<p>※「異年齢集団活動の中で、『自分のなりたいたい姿』を目指して、全校のみんなのために、その活動の目的や意義を達成していくこと」を、児童会活動における「自己実現」と捉えた。</p>
<p>【よりよい児童会活動にするための手だて】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年度当初にオリエンテーションを実施する。 ・事前に、代表委員会活動や各委員会活動に向けて、話し合い活動の活動計画作成や準備 (児童会計画委員会) を行う。 ・自分の意見やその根拠を明確にするために活動計画カードを活用する。 ・異年齢交流を図れる座席配置やグループ構成にする。 ・各学級における学級活動(1)の充実を図る。 ・教職員と活動内容の共通理解を図る。 		

児童会活動の活動過程 (7つの場面)



※学校として児童会活動とは別に、日常生活の中で継続的に異年齢交流を行う活動 (いわゆるたてわり班活動) を設定している場合には、そこで組織された異年齢集団を活用することも可能であることも指導した。

児童会活動部 研究主題

「よりよい人間関係や生活をつくり自己のよさを生かす児童会活動」

(2) 研究主題設定の理由

これまで児童会活動部では、「人間関係形成」、「社会参画」、「自己実現」の3つの視点を以下のように捉え、研究を進めてきた。

人間関係形成	社会参画（自己有用感）	自己実現
よりよい人間関係を築くために、児童会活動では「上級生は下級生に対して思いやりの気持ちをもって接し、下級生は上級生にあこがれの気持ちを抱いて協力できる」ような、異年齢集団活動を通して、他の学年との人間関係を豊かに形成する力を付けることが必要であると考えた。このことは、児童が、自身の発意・発想を生かした活動に参画していくことで身に付けられると考えた。	児童の発意・発想を生かした異年齢集団活動に参画することを通して、よりよい学校生活づくりに寄与していくことが自己有用感の醸成につながる。本部会では、自己有用感を「『自分は必要とされている』『自分は役に立っている』と思える感情」と定義し、それは他者に認められてはじめて得られるものであると考えた。このことは、人間関係を豊かにすることと関連が深いと考えた。	異年齢集団活動の中で、「全校のみんなのために、その活動の目的や意義を達成すること」と「自分のめあてを達成すること」を『自分のなりたい姿』と捉えた。このことは、「社会参画」をしていく活動を通して、実現していくものと考えた。

昨年度に引き続き、今年度の研究についてもコロナ禍の影響を少なからず受け、各校の児童会活動は全校児童の発意・発想を十分に生かしきれない状況となっている。また、これまででも当番的な活動に終始してしまうことが多く、全校児童の発意・発想を生かした自治的活動の積み重ねが不十分になってしまうことも少なくない。

そこで、研究の視点に沿って、以下のような手だてを講じることで、全校児童がよりよい学校生活づくりに参画し、異年齢の人間関係を深め、活動の意義を達成することで自己実現を図っていけるようにした。

(3) 研究の視点

視点1 「みんなとともに生きていく力を育てる指導の工夫（人間関係形成）」

児童会活動において「みんなとともに」の「みんな」は、「全校児童」である。児童の発意・発想を生かした自治的活動を行いながら、上級生への「あこがれ」と下級生への「思いやり」をもたせていくことが、よりよい人間関係形成につながると考えた。

みんなの声 〈全校児童から意見を収集する〉

代表委員会活動では、活動の目的や意義をもとに、全校児童から意見を収集する。このことを通して、全校児童の思いを知り、学校全体のことを考えて活動していきけるように指導する。また、全校児童が実践活動に対する意見や思いを交流できるように児童会活動メッセージボードを設置する。各委員会活動では、活動後の全校児童の声をカードに書いて、掲示してもらい、全校児童が閲覧できるようにすることで、「あこがれ」と「思いやり」の気持ちを出させるように指導する。

全てを大切に 〈収集した全ての意見を大切に〉

代表委員会活動では、全校児童から収集した一つ一つの意見を大切にしていけるために、それらをどのように生かしていくかを以下のように考え、全校児童に伝えるように指導する。

- ・他の委員会でやろう（児童会として各委員会の活動につなげていく）
- ・クラスでやろう（学級活動で提案して活動につなげる）
- ・休み時間にやろう（係活動で取り組んだり、友達同士で楽しんだりする）
- ・一人一人で行おう（全校児童では取り組めないようなときは、各個人で取り組んでみる）
- ・家でやろう（学校では取り組めないものは、家庭で取り組んでみることを勧める）
- ・コロナ禍だから少し待ってね（感染症予防の取組が緩和されたら実現可能なことを知らせる）
- ・みんなだけでは決められないよ（自治的活動の範囲を超えている場合は、指導する）

各委員会活動では、実践活動後に児童会活動メッセージボードに寄せられた全校児童からのメッセージを受け取り、称賛する内容は委員会児童への「あこがれ」として自己有用感を高めさせていく。また、活動への要望やアドバイスを基にして、今後の活動に反映していくことで、「下級生」への「思いやり」をもたせていくことにつながる。

視点2「よりよい集団をつくろうとする力を育てる指導の工夫（社会参画）」

児童会における「よりよい集団」とは、児童間（特に異年齢）の「あこがれ」や「思いやり」の気持ちが醸成される集団である。また、自分の発言や行動が、他者（下級生・上級生・同級生・教師）から認められることによって、自分自身の価値に気付き、自己有用感を高めていくことのできる集団であると考えた。児童会活動の特質である異年齢交流を通して、「あこがれ」や「思いやり」の気持ちを醸成させたり、自己有用感を高めたりすることが大切であると考えた。

自治的活動 〈児童の発意・発想を生かした自治的活動を保障する〉

よりよい集団をつくるためには、当番的な活動や学校行事に関わる活動に終始せず、児童の発意・発想を生かした活動に取り組むことが必要である。児童自身が活動を創り上げていけるように指導する。

対全校児童 〈全校児童のことを考えて話し合う〉

前述のように、全校児童から収集した意見を大切にすると同時に、全校児童のことを念頭において話し合ったり、よりよい学校生活づくりに向けて工夫したりすることができるよう指導する。また、「あこがれ」や「思いやり」の気持ちを醸成させるために、下級生も分かりやすく楽しみやすい活動を考えながら、話し合い活動を進めていけるよう指導する。さらに、委員会の児童が自分の所属する学級の児童に、上級生としてのやりがいを伝えるようにも指導する。

メッセージボード 〈リーダー側とフロア側が思いを共有する〉

実践活動後に、委員会の児童に対する全校児童や教師の声（「集会のよかったところ」「委員会へのお願い」）を児童会メッセージボードに掲示してもらい、委員会の児童が見ることで、自己有用感を高められるようにする。

視点3「なりたい自分に向けて頑張る力を育てる指導の工夫（自己実現）」

児童会活動における「自己実現」とは、異年齢集団活動の中で、その活動の目的や意義を理解し、全校のみんなのために活動を行い、また、それぞれの委員会のめあてを基に、自分のめあてを明確にもって実践活動に参画することである。児童の発意・発想を生かした活動を行う中で、「なりたい自分」を目指そうとすることが、児童の一人一人の自己実現につながっていくと考えた。

目的・意義 〈提案理由（＝活動の目的や意義）を深めさせ、それを全校児童に周知する〉

「自己実現」を図るためには、活動の目的や意義を明確にしておくことが大切である。提案理由は、その活動の目的や意義を言い替えたものと言っても過言ではない。そこで、全校の現状から（今）を踏まえて、どのように（手だて）、どうなっていきたいか（ゴール）を明確にして児童とともに提案理由を練り上げる。そして、全校児童から意見を収集する際に提案理由を周知していく。全校児童が活動の目的や意義を理解していないと、それを達成することは難しい。そこで、事前に「〇〇委員会だより」を配布したり、各教室に出向いて活動の内容を説明したりする。各学級担任に協力を仰ぎ、集会活動の目的や意義を学級で説明してもらうようにする。実践活動では、集会の始めに、その活動の目的と意義を伝え、終わりには、教師が活動の価値づけをする。

活動のめあて 〈活動のめあてを全校児童で共有し、活用する〉

委員会のめあてを達成することは児童会活動部で定義した「自己実現」の一つと考える。したがって、委員会のめあてを基にして設定した活動のめあて（提案理由＝活動の目的や意義）を明確にしていくことが大切である。各委員会は活動をすすめる際に、全校児童へ活動のめあてを伝える。また、活動後に、委員会のめあてについて振り返りを積み重ね、一年間を通して目的の達成に迫るようにした。

自分のめあて 〈活動に向けての「自分のめあて」を具体的にする〉

実践活動にむけて、自分のめあてをもって活動に参画することを重視した。このことを通して、全校児童のために自分が何をすべきなのか明確になる。実践活動時には、自分のめあての達成感を感じやすくなり、自己実現につながると考えた。

2 実践事例

(1) 実践事例1 小金井市立東小学校 代表委員会

①日時、場所、対象、授業者

日時 令和5年10月2日(月) 場所 小金井市立東小学校

対象 全校児童 授業者 菊地 佑太 山村 修 小野塚 結莉

②活動名 代表委員会「ミッションスタンプラリーをしよう」

③一連の活動の流れ

事前

活動日	活動内容	指導の留意点
7月中旬	・東小をよりよくする意見を全校児童から集める。	・代表委員の児童が各教室に行き、短冊を配り説明する。
7月下旬	・集めた意見を分類・整理する。	・7つの視点で分類する。
9月1日 委員会活動日	・代表委員会で企画する活動を決める。	・委員会のめあてに沿って決めるようにする。
9月20日	・代表委員全員で提案理由(活動の目的や意義)を具体的かつ明確にする。	・全校のみんなでスタンプラリーをすることで、どのような東小にしたいか共通のゴールイメージをもつことができるようにする。
9月25日の 中休みまで	・計画委員会で活動計画書を作成する。	・活動の目的や意義を共通理解した上で、話し合い活動を進めることができるようにする。
9月27日	・代表委員全員に活動計画書を配布し、本時の活動内容を確認する。	・事前に自分の考えをもって話し合いに参加できるようにする。

本時

- ・議題 「ミッションスタンプラリーをしよう」
- ・提案理由 現 状：他学年と関わる機会があっても、自分からあまり関わっていない。
手だて：だから他の学年とミッションスタンプラリーをして
ゴール：自分から他学年と関わり、仲が良い東の子になりたい。
- ・本議題について

代表委員会のめあて「全校のみんなの考えを生かして、全校のみんながよりよい学校生活を送れるようにする代表委員会」を達成するためにどのような活動ができるか、全校児童から意見を収集した。それを代表委員で7つに分類し、「ミッションスタンプラリー」を代表委員会で企画・運営することに決まった。

本校の児童は話し合い活動の経験が少ない。そのため、今回行う「ミッションスタンプラリー」では、教師が大枠(日時、順路など)を設定し、児童は「ミッションの内容」を話し合うようにした。事前に、ミッションの内容を出し合い、8～10の

意見に絞ることで、当日は、「自分から他学年と関わり、仲良くなる工夫」に焦点を当てて話し合うことができるようにした。

・本時のねらい

提案理由に沿って話し合い、よりよい合意形成ができる。

・本時の展開

児童の活動	指導上の留意点 (○) と評価 (★)
1. 始めの言葉 2. 計画委員の役割紹介 3. 議題の確認 4. 提案理由の確認	○目的を確認し、一人一人が自分事として捉える。
5. 話し合い ○話し合うこと① 「3種類のミッションを決める」 ○話し合うこと② 「役割分担」	○児童の話し合いをできる限り見守る。 ○事前に意見を出しておき、本時では意見を比べ合うことから始める。 ○児童の自治的活動の範囲を超えた場合や話し合いが混乱した場合は、その場で指導する。 【児童の自治的範囲を超える例】 ・個人情報やプライバシーの問題 ・相手を傷付けるような結果が予想される問題 ・教育課程の変更に関わる問題 ・校内のきまりや施設、設備の利用の変更などに関わる問題 ・金銭の徴収に関わる問題 ・健康、安全に関わる問題 ★ 全校児童のことを考えて意見を伝えている。 (よりよい生活を築くための知識・技能) ★ 提案理由の達成に向けて発想を広げている。 (集団や社会の形成者としての思考・判断・表現) ★ 全校児童のことを考えて、実践活動への見通しをもって話し合おうとしている。 (主体的に生活や人間関係をよりよくしようとする態度)
6. 決まったことの確認 7. 先生の話 8. 振り返り 9. 終わりの言葉	○「①計画委員のねざらい②提案理由を意識した発言③全校児童のことを考えた建設的な発言④今後に向けて」について話す。 ○担当教員で話すことを決めておく。 ○評価の観点に沿って実名を挙げ、具体的に称賛する。 ○実践に向けての意欲付けをする。

・話し合い活動の様子

代表委員会のめあてである「全校のみんなの考えを生かして、全校のみんながよりよい学校生活を送れるようにする代表委員会」を達成するためには、自分から他学年と関わり、仲良くなるとよいと考え、「3種類のミッション」の内容について話し合うことにした。

代表委員の児童が話し合った「自分から他学年に関わり、東小のみんなが仲良くなるミッション」については以下の9つである。

東小クイズ・東小のよいところを3つ言う・東小SDGsクイズ・ものまねクイズ・体ジャンケン・〇〇順にならぶ・じゃんけん大会・テレパシーゲーム・30秒折り紙チャレンジ

話し合うこと①では、それぞれのミッションに対して様々な意見が出た。それぞれのミッションのよさを考え、最もよいと思うものを話し合う中で、心配意見も多く挙がった。また、「[東小SDGsクイズ]をすると、東小SDGsをもっと知ってもらえる」「[じゃんけん大会]をすると盛り上がる」など、目的とは違った視点による意見も挙がった。しかし、最後には、小グループで自然と話し合いが生じるという視点から「東小クイズ」「ものまねクイズ」「〇〇順にならぶ」という3つのミッションに決まった。

心配意見が多く出たり、提案理由から逸れたりしたこともあったが、話し合う中で目的に立ち返り、提案理由に沿った理由でミッションを決めることができた。

話し合うこと②では、ミッションスタンプラリー当日の担当教室の分担をした。どの教室も3人程度になるように分担する中で、「代表委員もこの活動を通して他学年と関わるとよい。」という理由から、4～6年生が各教室に一人ずつ入ることになった。希望する教室に名前マグネットを貼っていくと中で偏りがあったが、譲り合って決めていくことができた。

事後

活動日	活動内容
10月3日(火)～	・スタンプラリーに向けて準備する。
1回目 10月16日(月) 赤1～2、青、黄色グループ	・たてわり班のグループを半分に分けて活動する。
2回目 18日(水) 赤3～5、緑、ピンクグループ	・活動日に該当しない学年は、体育館でミニ集会を行う。 ・決まった計画に沿って実践する。
10月19日(木)	・実践の振り返りをする。

話し合い活動の翌日の休み時間には、3グループ(「東小クイズ」「ものまねクイズ」「〇〇順にならぶ」)に分かれて、ミッションの詳細について話し合った。クイズの内容やお題を決めていき、当日をイメージしながら練習した。本番の1週間前には、リハーサルの時間を設定し、代表委員会の児童同士でミッションを見合い、気付いたことを伝え合う中で修正点やそろえることを共有した。

代表委員の中でミッションスタンプラリーの具体的なイメージが湧いてきたところで、代表委員会便りを各学級に配布したり、給食の時間に放送を入れたりして、

「めあて」「日時」「場所」「ルール」などを周知した。また、教員間で活動のめあてや詳細を共通理解し、学級で改めて伝えるようにした。

【活動の様子】

ミッションスタンプラリーは、中休みを2回使って実施した。たてわり班活動の班を3グループに分け、8～10人程度の小グループで活動した。当日は、6年生が下級生を先導し、5年生が後ろから見守るように列を作り、小グループごとに校内を回った。活動中でも、下級生が、6年生に行き先を訪ねたり、次のミッションについて話したりしている様子が見られた。「東小クイズ」を行った教室では、グループで相談したり、上級生が下級生に答えさせてあげたりしている様子が見られた。「ものまねクイズ」を行った教室では、参加者全員にお題に合った同じものまねをしてもらうことで、どのようなポーズにするか相談したり、上級生が下級生に教えたりしている様子が見られた。「〇〇順にならぶ」を行った教室では、小グループの中で質問し合ったり、並べたときに称え合ったりしている様子が見られた。

また、ミッションスタンプラリーの参加日に該当しない児童は、体育館に集まり、集会委員会の進行で〇×クイズを行った。

全校でめあてを共有し、代表委員の児童が活動を工夫したことで、上級生から下級生を思いやった声掛けをしたり、下級生から上級生を尊敬する声を聞いたりすることができた。代表委員がとったアンケートからも、全校児童の意見を聞いて活動している実感をもったり、他学年と関わることが楽しいと思ったりしている児童が増えたことが分かった。

【活動を終えて】

《代表委員会の児童の振り返り》

- ・他学年の子同士が楽しそうに話している姿が見られて嬉しかった。
- ・クイズに対して、協力して解いてくれていたからうれしかった。

《参加した児童の振り返り》

- ・ミッションが楽しかった。(低学年)
- ・他の学年の人と関わることができて楽しかった。(中学年)
- ・6年生の1年生にスタンプを押させてあげている思いやりがすごかった。(高学年)

以上のような振り返りから、児童がミッションや人との関わりに目を向けて活動していることが分かった。

一方、これまで異学年交流が盛んに行われていなかったことから、他の学年との関わり方やミッションに戸惑っていた児童がいたことが分かった。

今回の活動を通して、代表委員の児童は、全校児童の思いや意見を聞き、東小学校がもっとよくなるような活動をしていきたいという意欲が高まった。また、友達や他学年の人、教員から活動の感想を聞いたことで自己有用感につながった。

今後も児童が主体となって活動を考え、実践を積み重ねていけるように、指導していきたい。



④視点1～3の手だての検証・成果

視点1 みんなとともに生きていく力を育てる指導の工夫（人間関係形成）

全校児童から、全校でどんな活動に取り組みたいかという意見の収集を行った。収集した全ての意見を大切にすため、それらを分類し、どのように生かしていくかを代表委員会便りで全校児童に周知した。その結果、これまでよりも多くの児童が活動に参加し、よりよい学校生活づくりに参画しようとする意識の向上につながった。

視点2 よりよい集団をつくろうとする力を育てる指導の工夫（社会参画）

実践活動後、メッセージボードを活用し、全校児童の意見や思いを交流できるようにした。全校児童の誰もが自由に記入できるようにすることで、上級生への「あこがれ」と、下級生への「思いやり」の気持ちを表出できるようにした。また、代表委員が全校児童のことを考えて活動できるようにすることや、全校児童が活動の目的や意義を達成できるようにすることを、教師が指導した。そのために代表委員は各学級で提案理由を伝えた。1～3年生の学級については、学級担任から伝えた。その結果、全校児童が活動の目的や意義を理解し、すすんで他学年の児童と交流する姿が見られた。また、メッセージボードを通して、全校児童からの意見や思いを代表委員に伝えたことで、よりよい学校生活を送っていこうとする意欲につながった。

視点3 なりたい自分に向けて頑張る力を育てる指導の工夫（自己実現）

提案理由（＝活動の目的や意義）が明確になるように指導した。具体的には、全校の現状（今）を踏まえて、何をして（手だて）、どうなりたいか（ゴール）を明確にした。児童とともに提案理由を練り上げることを通して、合意形成の指針となるようにした。その結果、児童が提案理由を基に話し合い、合意形成するだけでなく、実践でも提案理由（＝活動の目的や意義）の達成に向けて、活動する姿が見られた。メッセージボードにも、「ありがとう」「他学年の人と関わって楽しかった」などの感想があり、異年齢交流を通して、「あこがれ」や「思いやり」の気持ちが醸成された。

⑤講師紹介、指導講評

有明教育芸術短期大学 副学長 長田 信彦先生

○研究構想図について

- ・児童会活動部は、特別活動（代表委員会活動）の学習過程のサイクルを大切に指導を積み重ねていることがよい。

○人間関係形成について

- ・全校児童からの意見を吸い上げて、活動の実現を図ろうとする取組がよい。
- ・今後、メッセージボードを活用していくことで、上級生への「あこがれ」の気持ちと、下級生への「思いやり」の気持ちが更に醸成されていくことが期待できる。

○社会参画について

- ・今回は、児童が何をするのが明確ではなかった。「他学年と仲良くなれるスタンプラリーをしよう」など、活動内容が明確になるような議題名にするとよい。
- ・提案理由に、「今、○○だから」「何をして」「どうなりたいのか」が書かれていることがよい。
- ・話し合う内容は、「何をするか」よりも、「どう工夫するか」にするとよい。話し合い活動の積み重ねが不十分な場合、批判的な意見が多くなる傾向にある。肯定的な意見を大切にしながら合意形成に向かえるよう、教師の適切な助言が必要である。

他学年と仲よくなれるミッションスタンプラリーをしよう

今：他学年と関わる機会があっても、あまり自分から関わっていない。

何をして：他学年とミッションスタンプラリーをして
どうなりたいか(ゴール)：自分から他学年と関わり、仲がよい東の子になりたい。

決まって
いること
日にち…10月16日(月)赤1～2、青、黄、18日(水)赤3～5、緑、ピンク
時間…10時10分～40分 場所…校舎内 ミッション…5～6人の小グループで協力できること

決めたミッション ①東小クイズ ②ものまねクイズ ③〇〇順に並ぶ

自分の役わり ※16日…〇年〇組、18日…〇年〇組、自分が担当するミッション…〇〇

16日…2年4組 18日…2年2組 ミッション…ものまねクイズ

自分の役割に
対するめあて

挑戦する人がスムーズに行動できるように声掛けをして上手くサポートをする。

めあてについて振り返ろう

※がんばったこと、うまくいったこと、次の活動に向けて

- ・挑戦する人がわかりやすいようにミッションを伝えることができた。
- ・挑戦する人が教室に入ってきたり出ていたりしやすいように教室の机を移動させて広い通路をつくった。
- ・他学年の子どうしが楽しそうに話す姿が見れて嬉しかった。

(2) 実践事例2 世田谷区立芦花小学校 栽培委員会

①日時、場所、対象、授業者

日時 令和5年11月16日(木) 場所 世田谷区立芦花小学校
 対象 全校児童 授業者 山木 大将 宇都宮 菜々子
 長岡 恭平 櫻澤 辰実

②活動名 栽培委員会「全校を盛り上げる植物スタンプラリー第2弾」

③一連の活動の流れ

事前

活動日	活動内容	指導上の留意点
9月11日	・芦花小のみんなが花を好きになるような活動の計画を立てる。	・初めての活動なので、教師が活動例をたくさん挙げながらイメージをもたせる。
10月16日	・クイズスタンプラリーの計画を立てる。	・5、6年生が協力して活動できるよう見守る。
10月24日 10月25日 中休み	・クイズスタンプラリーの準備を進める。	・それぞれの役割を遂行できるように見守る。
11月1日～ 11月8日 中休み	・クイズスタンプラリーを実施する。	・全校のみんなでスタンプラリーをすることで、全校のみんなに学校の植物のことを知ってもらうことができるように見守る。
11月9日 昼休み	・活動の振り返りをする。	・めあてに沿って活動をしたかできたか振り返りをさせる。
11月13日 中休み	・活動計画書を作成する。	・活動の目的や意識を共通理解した上で、話し合い活動を進めることができるようにする。
11月14日 中休み	・活動計画書を配布し、自分の考えを記入する。	・事前に自分の考えをもって話し合いに参加できるようにする。

本時

- ・議題 「さらに工夫したスタンプラリーの計画を立てよう」
- ・提案理由「スタンプラリーの活動をしてみて、参加人数が減っていった。だから、全校のみんなが最後まで参加したくなるような工夫をして、植物に興味をもってもらい、全校のみんなで話ができるようになりたいから。」
- ・本議題について
栽培委員会のめあて「みんなが花を好きになるようにみんなで活動しよう！」を達成するために、芦花小植物プロジェクトの一環として、「～食欲の秋！スポーツの秋！植物スタンプラリーの秋～」を実施した。実施後、「ろっかっ子ボード」に寄せられたメッセージをもとに本議題を設定した。



栽培委員会のみんなに
お手紙を書こう！



全校児童からの「またやってほしい」、「もう一度やりたい」という声や、実際に栽培委員会がスタンプラリーを実施してみてもっと工夫したいところがあるという気持ちから、話し合いの計画を立てた。

本校の児童は、全校児童を対象にした発意・発想を生かした自治的活動の経験が少ない。そのため、今回行う「スタンプラリー」では、「前回の活動をもとに、よりよい活動になるように合意形成を図る」ことを目標に話し合いを行った。

・本時のねらい

提案理由を達成できるように活動内容を工夫する。

全校児童のことを考えて、実践活動への見通しをもった話し合い活動をする。

・本時の展開

児童の活動	指導上の留意点（○）と評価（★）
1. 始めの言葉 2. 計画委員の役割紹介 3. 議題の確認 4. 提案理由の確認	○目的を確認し、一人一人が自分事として捉える。
5. 話し合い 話し合うこと① 「全校のみんなが最後まで参加したくなる工夫を決めよう」 話し合うこと② 「役割分担」	○児童の話し合いをできる限り見守る。 ○事前に意見を出しておき、本時では意見を比べ合うことから始める。 ○児童の <u>自治的活動の範囲を超えた場合</u> 、話し合いが混乱した場合は、その場で指導する。 【児童の自治的範囲を超える例】 ・個人情報やプライバシーの問題 ・相手を傷付けるような結果が予想される問題 ・教育課程の変更に関わる問題 ・校内のきまりや施設、設備の利用の変更などに関わる問題 ・金銭の徴収に関わる問題 ・健康、安全に関わる問題 ★全校児童のことを考えて意見を伝えている。 （よりよい生活を築くための知識・技能） ★提案理由の達成に向けて発想を広げている。 （集団や社会の形成者としての思考・判断・表現）

	<p>★全校児童のことを考えて、実践活動への見通しをもって話し合おうとしている。 (主体的に生活や人間関係をよりよくしようとする態度)</p>
<p>6. 決まったことの確認 7. 先生の話 8. 振り返り 9. 終わりの言葉</p>	<p>○「①計画委員のねざらい②提案理由を意識した発言③全校児童のことを考えた建設的な発言④今後に向けて」について話す。 ○担当で話すことを決めておく。 ○評価の観点に沿って実名を挙げ、具体的に称賛する。 ○実践に向けての意欲付けをする。</p>

・話し合い活動の様子

全校のみんなが最後まで参加したくなるような工夫について、意見を活発に出し合った。一度スタンプラリーを行っているので、全員が実際のイメージをもって話し合いに参加することができた。「一つ一つの意見をしっかり聞く」という話し合いのめあてに向かって話し合いが進められた。友達の見解につなげて発言したり、前に発言した人の意見をさらによくする発言をしたりすることもできた。今回は出された意見を集約していき、全ての意見を採用することにまとまった。

事後

当日は、下級生がスタンプラリーの台紙を片手に校庭を走り回る姿が見られた。前回の課題だった上級生の参加を促すために、クイズを難しくするなどの工夫を取り入れ、活動を行った。栽培委員の周りにたくさんの児童が集まってきた。その様子を見て、栽培委員の児童も笑顔になった。声掛けの仕方が優しくなり、丁寧に説明する姿に思いやりの気持ちが表れていた。下級生は、やりたいと思ったことを実施してくれる上級生との触れ合いを喜び、こんなことをやってみないと、憧れの気持ちを抱いていた。実践活動後の振り返りでは、「高学年が来てくれた」「下級生が楽しんでくれてうれしかった」という感想が多く見られた。前回の経験をもとに、さらに工夫した活動を行うことができ、栽培委員会の児童のやる気がさらに高まった。



④視点1～3の手だての検証・成果

視点1 みんなとともに生きていく力を育てる指導の工夫（人間関係形成）

全校児童が集会活動に対する思いを自分の言葉で伝えることができるよう「ろっかっ子ボード」を設置した。下級生が取り組みやすいよう高さや場所などを考慮して設置したり、思いを書きやすいようメッセージカードを作成して「ろっかっ子ボード」前に配置したりしておくことで、自由に自分の思いを書き込む児童が多く見られた。「またやりたい!」「もっと他の活動にも参加してみたい!」と、今後の活動を楽しみにする下級生の声が多かった。思いを可視化することで、集会後の振り返りにも活用することができた。栽培委員会の児童は、自分たちが考え実施した活動が受け止められたことや、全校のみんなが次の活動を楽しみにしてくれていることを知ることができた。

視点2 よりよい集団をつくろうとする力を育てる指導の工夫（社会参画）

よりよい集団をつくろうとする力を育てるためには、児童の発意・発想を生かした自治的活動の確保が必要不可欠である。児童自身が活動を創り上げていけるよう教師は話し合い活動を見守りながら助言をする流れをつくることで、児童は「自分たちの力で活動をつくろう」と思うようになった。特に準備の段階では、教師の言葉掛けがなくともスタンプラリーの台紙を作成し、全校児童がどうしたら楽しく参加してくれるかを考えながら工夫して活動していた。また、集会活動では集まってくる下級生に声を掛け、場が混乱しないようにしたり、栽培委員会同士で連携を図りながら集会を進めたりする姿が見られた。事後の振り返りでは、集会活動中だけでなく準備中の児童の良さを伝えることで、次の活動への意欲につなげることができた。

視点3 なりたい自分に向けて頑張る力を育てる指導の工夫（自己実現）

集会活動に向けた話し合いの活動計画表だけでなく、集会活動の実践活動の振り返りカードも事前に配布し、自分のめあてを書くことができるようにした。児童は集会活動に向けて、どんなめあてを持って取り組むか事前によく考えることができた。また、教師が事前にめあてを把握しておくことで、実践活動中の頑張りを個々に褒めることもできた。なりたい自分に向けて頑張る力を育てるためには、活動計画表の活用が必要だと感じた。

⑤講師紹介、指導講評

有明教育芸術短期大学 教授 石井 友行先生

○人間関係形成について

- ・合意形成していくことが難しい。出た意見を何とかして全部やろうとする態度が大切であり、反対意見への対策をみんなで考えていきたい。

○社会参画について

- ・よりよい集団にしていくことが大切。この経験がないと集団は同調するものになってしまう。それに向けて、発言できている児童だけでなく準備などで頑張っていたところをしっかりと称賛する事が大切である。

○自己実現について

- ・委員会のめあてを意識して活動することが大切である。しかし、児童の実態に応じて、まずは参加児童を楽しませることを意識して実践するということも考えられる。それによって、実践に参加する児童が増える。それから委員会のめあてを意識するよう調整していく方法でもよい。

3 成果と課題

(1) 成果

視点1 みんなとともに生きていく力を育てる指導の工夫（人間関係形成）

メッセージボードを活用し、上級生への「あこがれ」と下級生への「思いやり」をもたせていくことが、よりよい人間関係形成につながるということが再確認された。

視点2 よりよい集団をつくろうとする力を育てる指導の工夫（社会参画）

アンケートの結果から、年度当初のオリエンテーションを大切にすることや、計画から振り返りまでの一連の活動を継続すること、児童の発意・発想を生かした自治的活動の場を保障することで、「全校のみんなのために」という目的や意義を達成する活動につながることを確認できた。

視点3 なりたい自分に向けて頑張る力を育てる指導の工夫（自己実現）

アンケートの結果から、委員会のめあてをもとに、個人のめあてを明確にすることで「(本部会で定義した)自己実現」を図ることにつながることを確認できた。

(2) 課題

視点1 みんなとともに生きていく力を育てる指導の工夫（人間関係形成）

全校児童から収集し整理・分類した意見を全校児童に伝えることで、児童会活動の目的や意義を共通理解していけるように、継続して指導を進めていくことが大切である。児童会のめあてを達成するための活動を積み重ねていくことが必要である。

視点2 よりよい集団をつくろうとする力を育てる指導の工夫（社会参画）

基本的な代表委員会や委員会活動の在り方（「児童の発意・発想を生かした自治的活動」の場を保障すること、「計画」から「振り返り」までの活動を一連の活動として捉えること）、活動に関する教員間の共通理解をさらに見直し、より多くの学校に広めていく。

視点3 なりたい自分に向けて頑張る力を育てる指導の工夫（自己実現）

提案理由を深めることだけでなく、今後も、児童会のめあての活用、「思いやり」と「あこがれ」の気持ちの醸成、活動の振り返り(自己評価・相互評価)からもアプローチしていくことが必要である。

研究に携わった人

部長	渋井 洋子	東久留米・神宝小	久良木優有	立川・上砂川小
副部長	星野 良明	足立・東湊江小	松川 浩美	立川・第二小
〃	大藏 久美	小平・小平第三小	矢野 雅子	杉並・桃井第三小
〃	尾形 俊亮	調布・調和小	吉井 貴彦	世田谷・松沢小
〃	丹治 良太	葛飾・南奥戸小	満山 寿子	北・赤羽小
〃	畑 理恵	世田谷・芦花小	島田 和崇	調布・柏野小
会計	山野奈央子	世田谷・玉川小	菊池 友也	新宿・四谷小
授業者	菊地 佑太	小金井・東小	吉沢 美和	町田・つくし野小
〃	山村 修	小金井・東小	尾形 希	立川・上砂川小
〃	小野塚結莉	小金井・東小	川崎 真琴	青梅・第五小
〃	山木 大将	世田谷・芦花小	安西 慎仁	青梅・第三小
〃	宇都宮菜々子	世田谷・芦花小	星野 哲朗	小金井・南中
〃	長岡 恭平	世田谷・芦花小	井上 貴恵	葛飾・道上小
〃	櫻澤 辰実	世田谷・芦花小	塚田 雅子	国分寺・第五小
〃	関田 裕子	世田谷・芦花小	山下 光恵	多摩・南鶴牧小
〃	佐藤 絢香	世田谷・芦花小	竹原 典子	荒川・尾久小
〃	佐藤 あかね	世田谷・芦花小	鈴木 敬太	江戸川・春江小
〃	星野 俊明	葛飾・川端小	高宮 良子	元部長
〃	赤松 栄介	江東・枝川小	味村美恵子	元部長

Ⅲ クラブ活動部

研究主題

「よりよい人間関係や生活をつくり、自己のよさを生かすクラブ活動」

1	本年度の研究について	42
(1)	研究構想図	
(2)	研究主題設定の理由	
(3)	研究の視点	
2	実践事例	44
(1)	実践事例1 江戸川区立第四葛西小学校「バレーボールクラブ」	
(2)	実践事例2 足立区立古千谷小学校「科学クラブ」	
	研究資料	
3	成果と課題	56

研究の経過

令和5年	5月25日(木)	定期総会	世田谷区立芦花小学校
令和5年	7月21日(金)	第1回クラブ活動部会	墨田区立曳舟小学校
令和5年	8月4日(金)	拡大研究部会 夏季集中研修	世田谷区立芦花小学校
令和5年	9月14日(木)	第2回クラブ活動部会	江戸川区立第四葛西小学校
令和5年	10月4日(水)	検証授業	江戸川区立第四葛西小学校
令和5年	10月10日(火)	第3回クラブ活動部会	足立区立古千谷小学校
令和5年	11月29日(水)	検証授業	足立区立古千谷小学校
令和6年	1月11日(木)	拡大研究会 研究紀要の検討	板橋区立若木小学校
令和6年	1月～2月	研究発表大会準備	
令和6年	2月22日(木)	研究発表大会	世田谷区立芦花小学校

1 本年度の研究について

(1) 研究構想図

<p>今日的課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・よりよい人間関係を築く力の育成 ・失敗にくじけない、強い心の育成 ・社会に参画しようとする意欲の育成 	<p>目指す児童像</p> <ol style="list-style-type: none"> ①異年齢集団の中で、同好の仲間とよりよい人間関係を築く児童（人間関係形成） ②共通の興味・関心を追求する活動を協力し合ったり、工夫したりしながら豊かなものにする児童（社会参画） ③自己の持ち味や得意なことを生かし、個性の伸長を図りながら、目標やめあてを達成しようと努力する児童（自己実現） 	<p>児童の実態</p> <ul style="list-style-type: none"> ・興味・関心のあることに、すすんで取り組む。 ・クラブ活動を楽しみにしている。 ・仲のよい仲間と活動したがる傾向がある。 ・考えて行動することが苦手である。
---	---	---

研究主題 「よりよい人間関係や生活をつくり、自己のよさを生かすクラブ活動」

研究仮説 共通の興味・関心を追求する活動の中で、ICTを活用しながらこれまでの手だてを有効に活用していくことで、個性の伸長を図りながら、活動を楽しく豊かにし、よりよい人間関係を築く児童が育つだろう。

研究の視点と指導の手だて				
<p>視点1 みんなとともに生きていく力を育てる指導の工夫（人間関係形成）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○めあての決定と可視化 ○クラブ通信の発行 ○よさを認め合うための工夫 	<p>視点2 よりよい集団をつくろうとする力を育てる指導の工夫（社会参画）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○クラブ全体の目標の決定 ○活動計画カードの活用 ○終末の助言の工夫 ○情報提供 	<p>視点3 なりたい自分に向けて頑張る力を育てる指導の工夫（自己実現）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○めあての決定 ○クラブカードの活用 ○自分の成長を振り返る時間の設定 ○児童理解を深めるための記録物の活用 		
<p>○パワーアップカードの活用</p> <p>計画、活動、振り返り、成果の発表のそれぞれの児童の様子について、記録したものを随時可視化していく。</p>				
<p>○情報共有ソフト・電子ホワイトボードの活用</p>				
<p>よりよいクラブ活動を展開していくための一連の指導の手だて（時系列）</p> <table border="0"> <tr> <td style="vertical-align: top;"> <p>クラブ活動の設置・所属 計画や運営についての説明 計画や運営方針の話合い・決定</p> <p>クラブを楽しむ活動 クラブの成果の発表 学期・年度末の振り返り</p> </td> <td style="vertical-align: top;"> <p>(1) 児童の発意発想を生かしたクラブの設立と所属決定を行う。</p> <p>(2) オリエンテーションを行う。</p> <p>(3) 自分たちのクラブの目標を作るよう指導する。</p> <p>(4) 計画委員会を開く。(5) 異年齢小グループで活動するよう指導する。</p> <p>(6) クラブカードを活用する。(7) 終末の助言を工夫する。</p> <p>(8) 成果の発表の場を設ける。</p> <p>(9) 一年間の成長や全体の成果を振り返る。</p> </td> </tr> </table>			<p>クラブ活動の設置・所属 計画や運営についての説明 計画や運営方針の話合い・決定</p> <p>クラブを楽しむ活動 クラブの成果の発表 学期・年度末の振り返り</p>	<p>(1) 児童の発意発想を生かしたクラブの設立と所属決定を行う。</p> <p>(2) オリエンテーションを行う。</p> <p>(3) 自分たちのクラブの目標を作るよう指導する。</p> <p>(4) 計画委員会を開く。(5) 異年齢小グループで活動するよう指導する。</p> <p>(6) クラブカードを活用する。(7) 終末の助言を工夫する。</p> <p>(8) 成果の発表の場を設ける。</p> <p>(9) 一年間の成長や全体の成果を振り返る。</p>
<p>クラブ活動の設置・所属 計画や運営についての説明 計画や運営方針の話合い・決定</p> <p>クラブを楽しむ活動 クラブの成果の発表 学期・年度末の振り返り</p>	<p>(1) 児童の発意発想を生かしたクラブの設立と所属決定を行う。</p> <p>(2) オリエンテーションを行う。</p> <p>(3) 自分たちのクラブの目標を作るよう指導する。</p> <p>(4) 計画委員会を開く。(5) 異年齢小グループで活動するよう指導する。</p> <p>(6) クラブカードを活用する。(7) 終末の助言を工夫する。</p> <p>(8) 成果の発表の場を設ける。</p> <p>(9) 一年間の成長や全体の成果を振り返る。</p>			

【クラブ活動部の活動の流れ】



クラブ活動部 研究主題

「よりよい人間関係や生活をつくり、自己のよさを生かすクラブ活動」

(2) 研究主題設定の理由

クラブ活動部における「自己のよさを生かす」

クラブ活動の目標は、同好の仲間と共通の興味・関心を追求する中で、異年齢集団活動の楽しさを味わい、自分たちの力で活動をつくり出すための方法の理解、人間関係をよりよく構築していくための相手を意識した思考力、自分の得意なことを生かしたり、多様な仲間の個性を受け入れ協力し合ったりして、よりよい人間関係を築こうとする態度といった資質・能力を育てることである。資質・能力を育てる過程において、児童が自他のよさや頑張りを認め合いながら異年齢の人間関係を育み、自分たちのクラブ活動をよりよくするための課題に気付き、その課題を解決しながら、自分のよさや可能性を将来にわたって追求しようとする態度を育む。これらの一連の活動の中では、自己肯定感や自己有用感の高まりも期待できる。

本主題を設定し、これまでの研究では、クラブ活動における「人間関係形成」「社会参画」「自己実現」を視点に、過去の研究の手だてを整理し、「人間関係形成」「社会参画」「自己実現」において、より効果的な指導に向けて指導の改善を図った。

その後、2年間で検証授業を4本行った。人間関係形成においては、教師が見取った活動のよさ、児童が見つけた互いのよさや可能性、終末の助言で取り上げた成果や課題などをクラブ通信にまとめ児童に配布した。児童は、振り返りや頑張りが紹介されるうれしさや達成感を感じ、次回の活動への意欲を高めることができた。また、学習者用端末を活用し、児童間のよいところ見付けや振り返りを共有することで、これまで以上に互いの考えやよいところに気付けるようになった。

社会参画においては、同好の仲間と自分たちの力で活動をつくり上げていくために、一人一人の思いを生かしてクラブ全体の目標を決定したり、4月に「クラブ活動でしたいこと」をアンケートに取ったりしたことで、毎時の全体のめあてが具体的になった。また、「活動計画カード」を活用し、めあての達成のための活動の工夫を考え、自分たちの力で活動をつくり上げることができるようになった。自己実現においては、短作文やクラブカードの内容の変容に着目するよう助言し、児童が自分のよさや可能性に気付けるように指導したことで、学期毎の個人目標や毎時の個人のめあてを決める際にも生かされ、自分の力を発揮しながら活動できるようになった。

3つの視点に関わる手だてとして、「パワーアップカード」を活用し、計画、活動、振り返り、成果の発表のそれぞれの児童の様子について、記録したものを随時可視化していくことで、回を重ねるごとに自分たちの頑張りが成長を実感できるようになった。また、児童間のよいところ見付けにも生かされたり、自分自身のことや異年齢とのかかわりについて成長したと実感したりしていた。

本主題を設定して4年目となる今年度は、研究のまとめとして、児童の自主的、実践的な取組を大切にしながら、これまでの研究で積み重ねてきた、毎時間及び年間の活動がよりよく展開されるよう指導の充実を図り、研究をより一層深めていくと共に、東京都小学校特別活動研究会の役割である一般化を図るための手だてについても広めていけるようにしたい。

(3) 研究の視点

視点1 「みんなとともに生きていく力を育てる指導の工夫（人間関係形成）」

クラブ活動における「みんなとともに生きていく力」とは、学年や学級の枠を超えた同好の児童が自治的に組織したクラブにおいて、よりよく交流し、自他のよさを認め合うことで、人間関係を深めていくことであると考えられる。

○可視化〈めあての決定と可視化〉

・個人のめあてを、ICTを活用しめあてを伝え、互いに意識できるようにする。

○クラブ通信の発行

・教師が見取った活動のよさ、児童が見つけた互いのよさや可能性、終末の助言で取り上げた成果や課題などをクラブ通信にまとめ、児童に配布する。

○カード〈よさを認め合うための工夫〉

・友達のよさや頑張りをカードに記入し、振り返りの場面で伝え合う。

視点2「よりよい集団をつくろうとする力を育てる指導の工夫（社会参画）」

クラブ活動における「よりよい集団をつくろうとする力」とは、よりよいクラブ活動に向けた課題を見だし、異年齢小グループで輪番で役割を果たす中で、それぞれの個性を發揮しながら協働して運営していくことであると捉える。

○クラブ全体の目標の決定

- ・視点1、2、3とクラブ全体の目標を関連付けて決められるようにする。
- ・毎回その目標を意識して活動できるようにするために、掲示し、目標が達成できているかどうかを適宜問い掛ける。
- ・同好の仲間と活動を作り上げていくために、一人一人の思いを生かした目標を決める。

○活動計画カードの活用

- ・自分たちの力で計画し、活動をつくり上げるために、司会グループで役割を分担したり活動のポイントになるところを相談したりする。

○終末の助言の工夫

- ・目標やめあてを意識して活動できたこと、全体の成長に気付いたことを取り上げ称賛する。また、クラブ全体の課題について伝え、よりよい活動にしていけるようにする。

○情報提供

- ・教師の見通しのもと、活動が広がるように情報提供したり助言したりする。

視点3「なりたい自分に向けて頑張る力を育てる指導の工夫（自己実現）」

クラブ活動における「なりたい自分に向けて頑張る力」とは、一人一人の児童がクラブ活動を通して身に付けたい力やなりたい自分を設定し、定期的に振り返りながら目標やめあての達成のために、自分の個性を發揮したり努力したりすることである捉える。

○めあての決定

- ・クラブ全体の目標を達成するために、毎時間、一人一人が何を頑張るのかを考え、めあてを決められるようにする。

○クラブカードの活用

- ・クラブカードの振り返りの記述から、自他の成長に気付いていることを取り上げ、個々に認め称賛したり、全体で紹介したりすることを積み重ねる。

○振り返る時間〈自分の成長を振り返る時間の設定〉

- ・学期末に、それまでの活動や自分の成長について、短作文を書く時間を設定する。
- ・短作文やクラブカードの内容の変容に着目するよう助言し、児童が自分のよさや可能性に気付けるようにする。

○記録物〈児童理解を深めるための記録物の活用〉

- ・児童の思いや活動への期待などを把握できるように、記録物や短作文などをまとめる。
- ・記録などから児童の実態を把握し、児童の思いが生かされるよう適切に指導・助言を行う。

視点1から3に共通する手だて

○パワーアップカードの活用

計画、活動、振り返り、成果の発表のそれぞれの児童の様子について、記録したものを随時可視化していく。

- ・児童間のよいところ見付けの視点を広げることができるようにする。 (視点1)
- ・より楽しく豊かな活動をしていくことができるようにする。 (視点2)
- ・次回のめあてを決め、達成を目指した活動ができるようにする (視点3)

○情報共有ソフト・電子ホワイトボードの活用

・活動中に見られた自他のよさや振り返りの場面で伝えられなかったものも、共有できるようにする。 (視点1)

- ・計画を立てる際の児童との連絡ツールとして活用したり、完成した活動計画カードを事前に共有したりする。 (視点2)
- ・自他のよさや頑張りを次回の活動のめあてに生かせるようにする。 (視点3)

2 実践事例

(1) 実践事例1 江戸川区立第四葛西小学校「バレーボールクラブ」

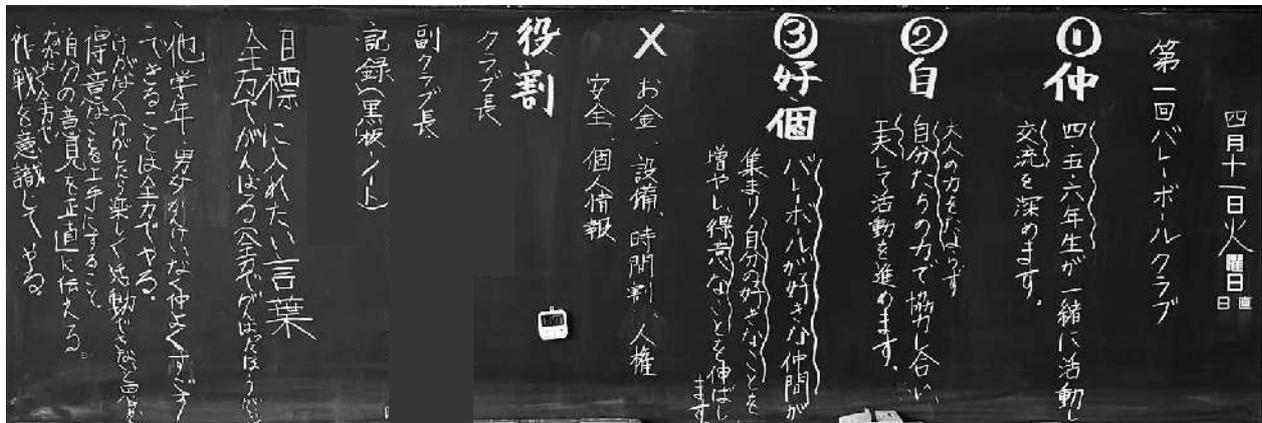
① 日時、場所、対象、指導者

授業日：令和5年10月4日(水)
場 所：江戸川区立第四葛西小学校 体育館
対 象：4年生6名 5年生13名 6年生5名 計24名
指導者：中本 健太郎主幹教諭 米本 光希教諭

② 内容

<第1回クラブ活動>

第1回のクラブ活動で、最初に担当教員がオリエンテーションを行った。ここでは、本校のクラブ活動の学習のめあてとして、①仲（人間関係形成）②自（社会参画）③好・個（個性の伸長・自己実現）の3点を指導した。また、学級活動（1）や児童会活動と同じように、クラブ活動も自治的活動範囲内で活動することも確認した。



次に役割分担を行った。クラブ長2名、副クラブ長6名、記録2名の児童が立候補した。

クラブの目標について意見を出し合い、一人一人の思いを大切に、クラブ長を中心に本校のクラブの目標に沿って案を考えた。第2回活動時に全員の承認を得て次のようにクラブの目標を決めた。

第四葛西小学校のクラブ活動の目標

- ①<仲>異年齢の友達が一緒に活動し交流を深める。
 - ②<自>自分たちの力で、協力し合い、工夫して活動する。
 - ③<好・個>〇〇が好きな仲間が集まり、自分の好きなことを増やし、得意なことを伸ばす。
- ※〇〇には、各クラブの活動内容が入る。

バレーボールクラブの目標

- ①<仲>異年齢わけへだてなく仲よくする。
- ②<自>自分の思いを伝え合い、みんなで協力し、工夫して活動する。
- ③<好・個>バレーボールを全力で楽しみ、かっこよく上手になる。

また、上学年の運動経験の豊富な児童が、下学年の友達に打ち方やルールなどを教え、互いに協力して活動する中で仲を深めることができるようにするとともに、試合の回数を多く設定するために、学年・学級が混ざった3つの異年齢小グループをつくることになった。

その後、児童の実態をつかむために短作文を書く時間を設定した。児童の記述から、次のような思いをもちバレーボールクラブを選択したり、活動しようとしていたりしていることが分かった。

作文に書かれていた児童の思い

- ・バレーボールを楽しみたい。上手になりたい。 ・かっこよくプレーしたい。 ・体力を向上させたい。
- ・球技を得意になりたい。 ・バレーボールを楽しみながら友達と交流したり仲を深めたりしたい。
- ・試合等のルールを工夫したい。 ・クラブ長を中心に自分たちの力で活動したい。

<1学期の活動>

第2回から第7回の活動では、次のように活動を進めてきた。

- ①異年齢小グループが輪番で司会グループを担当した。休み時間に計画を立て、活動計画カードを作成し、事前に情報共有ソフトで共有した。
- ②当初はラリーポイント制で10点先取したチームを勝ちとしていたが、1試合あたりの時間が長くなり2チームしか試合が行えなかった。その反省を生かし、1試合7点先取もしくは7分間で多く点を取ったチームの勝ちとした。
- ③バレーボールの経験のない児童がほとんどであったため、当初はラリーが成り立たなかった。教師が助言し、バレーボールを楽しむための工夫として、小グループで円になり、ボールを落とさずにつなぎ続ける基礎的な練習の時間を設定した。その後、ラリーが続くようになり、活動に活気が出てきた。
- ④毎回の活動の振り返りで、児童から次のような改善点が挙げられた。挙げられた改善点は、次の活動に生かせるように活動計画カードに記載した。
 - ・試合を待っている間は、大きな声で応援する。
 - ・ボールを相手に渡すときには、ネットの下をくぐらせる。

また、以下のことは、学級会での集会活動の経験や体育のゲーム領域で学習したことからの想起させ、限られた時間を有効に使いながら、みんなで協力して活動を進め、バレーボールを楽しむための工夫として児童が気付けるように指導・助言した。

<協力して活動するための工夫>

- ・司会の児童が話しているときには、ボールを触らない。
- ・司会はみんなを座らせてから話す。

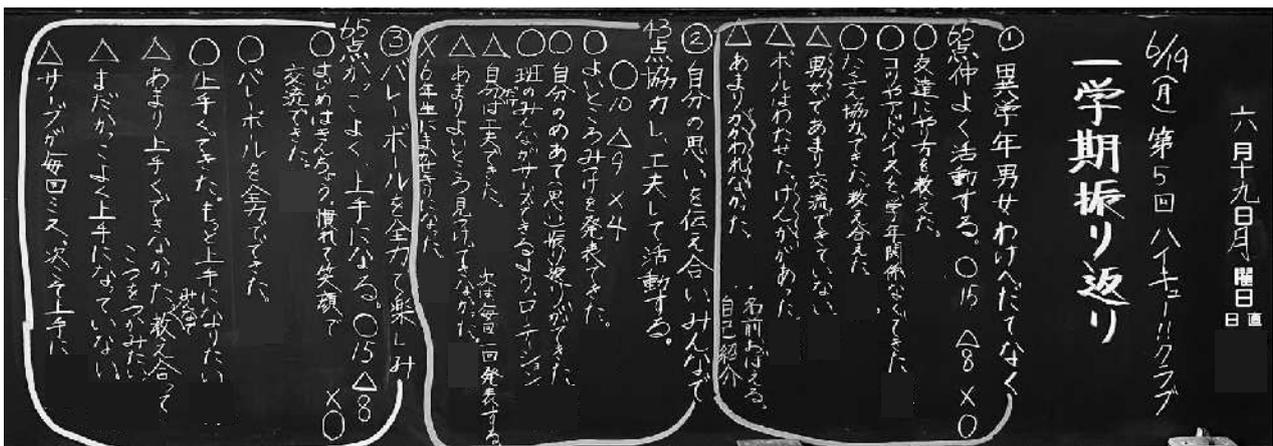
<バレーボールを楽しむための工夫>

- ・きちんと整列して挨拶をしてから試合を始める。
- ・交流作戦タイムでは、互いの名前を覚えられるよう確認したり、作戦を話したりしながら準備運動する。
- ・円陣を組み、気持ちが高まる掛け声を掛ける。
- ・みんながボールに触れるよう、ポジションはローテーションする。
- ・チームとしての一体感が出るよう、各チームのユニフォームとしてゼッケンを着用する。

第5回クラブ活動では、1学期の振り返りを行った。振り返りは、本クラブの3つの目標に沿って、「自分はその目標を達成できたか」という視点で自己評価(○△×)と評価した理由を5分で書かせた。「達成できた(○)」と評価した児童の割合を点数化し、各自の振り返りを互いに発表し、1学期の成長を確認し合った。今後改善が必要な課題(△×)は、「これからクラブの成長のポイント」として確認した。

1学期の振り返り

- ①<仲>異年齢わけへだてなく仲よくする。<65点>○15人 △8人 ×0人
 - 異年齢で教え合ったり交流したりすることができた。
 - △交流できていない友達もいる。かかわりが少ない。
 - 名前を覚える。自己紹介をする。
- ②<自>自分の思いを伝え合い、みんなで協力し、工夫して活動する。<43点>○10人 △9人 ×4人
 - よいところ見つけや、めあてや思いを発表できた。
 - みんながサーブを打てるようローテーションした。
 - △工夫が足りない。よいところ見つけの発表が少ない。
 - ×6年生に任せきりになった。
 - 全員で役割を分担して活動する。一人一人のめあてを意識して積極的に活動する。
- ③<好・個>バレーボールを全力で楽しみ、かっこよく上手になる。<65点> ○15人 △8人 ×0人
 - 全力で取り組めた。上手にできた。
 - △まだ「かっこよく上手に」はなっていない。サーブを毎回ミスしてしまう。
 - みんなで教えあってコツをつかみたい。



< 2学期の活動 >

2学期の始めに、1学期の振り返りを参考にしながら、これまでのクラブ活動で高めた力（パワーアップしたこと）や、今後に生かすことを確認をした。また、それらをクラブ通信にまとめて紹介することで、児童がさらに自分たちの成長や課題を意識して活動できるようにした。

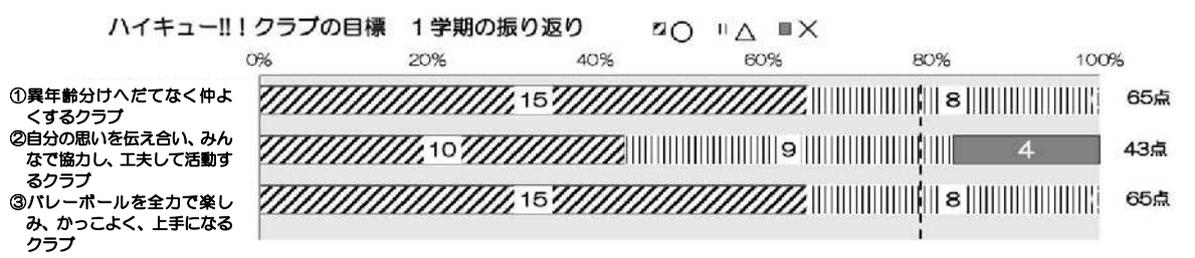
また、児童が毎時間の活動の成果や課題に気付き、さらに工夫して活動できるように、クラブ通信を発行し毎時間配布した。クラブ通信には教師が見取った活動の中で見られた児童の工夫や友達との関わりのよさを載せ、児童が今後の活動に生かせるようにした。

ハイキュー!!クラブ通信

9月11日(月) 第1号



1学期の活動を終え、少しずつ班の友達の名前を覚え、バレーボールのやり方が分かってきたのではないのでしょうか。2学期はさらに活動が盛り上がるよう期待しています。クラブのよいところ、がんばって欲しいところを、みんなでたしかめられるように、「ハイキュー!!クラブ通信」を発行することにしました。



1学期に工夫したこと・レベルアップしたこと

<p><仲>4、5、6年生と一緒に活動し交流を深めます。</p> <p>①学年関係なくアドバイスし、コツを教え合った。(5-200さん)</p> <p>②準備や片付けをみんなで協力して行った。</p>	<p><自>自分たちの力で協力し合い、工夫して活動を進めます。</p> <p>①班のみんながサーブできるよう、ローテーションした。(6-100さん)</p> <p>②グループごとに交代して、カードを作成し、司会を務めた。</p>	<p><好・個>バレーボールが好きな仲間が集まり、自分の好きなことを増やし、得意なことを伸ばします。</p> <p>①慣れてきたので、笑顔で交流できた。(5-40)</p> <p>②全力でバレーボールをすることができた。(4-400さん)</p> <p>③円陣を組んで盛り上げた。</p>
--	--	--

1学期の改善点 2学期にレベルアップしたいこと (「→」は改善策)

<p><仲></p> <p>5 男子と女子の交流が少ない。(5-200さん)</p> <p>②あまり関われなかった。(5-300さん)</p> <p>→名前を覚え名前を呼び合い、仲を深める(6-100君の「1年後の姿」)</p>	<p><自></p> <p>5 6年生に任せきりになった。(5-100さん)</p> <p>②自分ではできたが、みんなで一緒に工夫することはできなかった。(4-400さん)</p>	<p><好・個></p> <p>①サーブが毎回ミス。次こそ上手に!(00君)</p> <p>②あまり上手くできなかった。→みんなで教え合っってコツをつかみたい。(00君)</p> <p>→「ハイ!」「ドンマイ!」等の掛け声を大切に。</p> <p>→アンダー、サーブの工夫。</p>
--	--	---

③一連の活動の流れ

<事前>【活動計画カードの活用】

自分たちの力で計画し、活動をつくり上げるために、司会グループで毎時の全体のめあてを決めて、役割を分担する。また、毎時の全体のめあてを達成するための活動を計画し、活動の工夫やポイントを話し合う。活動計画カードは事前に情報共有ソフトを活用し、バレーボールクラブの全員が確認できるようにする。

<本時>【めあての決定】

クラブ全体の目標を意識しながら、毎時のめあてと、めあてに対する振り返りを書く欄を設ける。自分の成長や課題を踏まえ、次時のめあてを決められるように指導する。

クラブ活動ってどんな学習の時間？				
①「仲」4・5・6年生と一緒に活動し、交流を深めます。				
②「自」自分たちの力で、協力し合い、工夫して活動を進めます。				
③「好・個」〇〇が好きな仲間が集まり、自分の好きなことを増やし、得意なことを伸ばします。				
7	7/10	③	声かけをする！	味あがしいボールをした日時には声かけをたくさんした。また時にはボールを大きな声で言いました。
8	2学期 9/11	③	だれがうつのかわかるようにうしろに「はい」と言う！	「はい」がわかるように声かけをしてもらう。つないでいてくれる。2学期の副クラブ長としての活躍を期待しています。
9	9/25	③	「ファイス！」や「ドマイ！」と声かけをする！	指導員、司会として、責任感と責任感を感じた。

【よいところ見付け】

自他のよさや頑張りを認め合い異年齢の人間関係を深められるようにするために、よいところを見付け、互いに伝え合う。「誰の」「どんなところ」がよかったのか、多様なよさや可能性に気付けるように助言する。

日付	学年	名前	よかったところ
4/23	6年		工夫のあるアイデアを出してくれた。
6/12	5年		いいやり方をやさしく教えてくれた。
4/24	6年		司会のときにみんなに聞こえる声でしゃべっていた。
5/15	6年		時間をよく見て終わりの時間に声をかけていた。
5/15	5年		試合が終わった後にちゃんと挨拶をしていた。

<事後>【クラブ通信の活用】

教師が見取った活動のよさ、児童が見付けた互いのよさや可能性、終末の助言で取り上げた成果や課題等をクラブ通信にまとめ、児童に配布する。児童が、随時クラブ通信を見返すことができるよう、クラブ通信を貼りためるファイルを用意する。

④視点1～3の手だての検証・成果

視点1

【クラブ通信の発行】

- ・終末の助言では取り上げきれなかった、児童のよさや可能性、今後の課題について、クラブ通信でも価値付けることができた。
- ・クラブ通信を発行することで、教師が価値付けたいことを可視化し、蓄積することができた。

視点2

【目標の決定】

- ・オリエンテーションで本校のクラブ活動の目標を伝えたことで、その視点に沿ったバレーボールクラブの目標を作成できた。
- ・目標を活動計画カードに記載することで、児童が目標を意識してめあてを設定し活動できた。

視点3

【自分の成長を振り返る時間の設定】

- ・毎回の活動後に、自分のめあてを振り返り、クラブカードに蓄積した。学期末に、それまでの活動や自分の成長について、短作文を書く時間を設定した。その際、短作文やクラブカードの内容の変容に着目するよう助言した。学期末に全体で振り返りを行ったことで、児童が自分のよさや可能性、クラブの成長に気付くことができた。

視点1から3

【児童の発意発想を生かしたクラブの設立や所属決定】

- ・可能な限り児童の発意発想や願いを生かしたクラブが設立できるよう、教師間の共通理解を図った。また、児童が納得して設立や所属決定を行うことができるように、クラブ担当と担任が連携しながら、適宜助言した。児童の願いを生かしたクラブ設立と所属決定が行われ、年間を通してクラブ活動に対する児童の意欲を高めることができた。

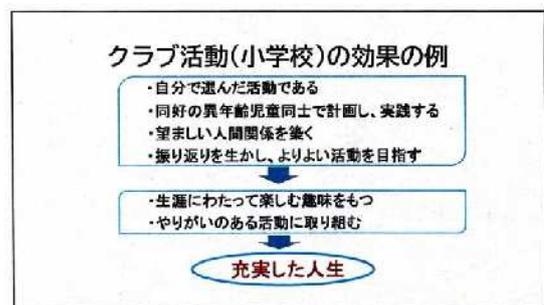
⑤講師紹介、指導講評、講師資料

玉川大学准教授 山口祐一先生

<指導講評>

- ・クラブ活動のよさ、楽しさを児童は感じていた。
- ・クラブ活動を通して、教師が児童の多面的なよさに気付けるようにしたい。
- ・教員間の役割分担をして終末の助言をするとよい。
- ・「改善するところはどこかな」と問いかけ、児童の気づきを大切にしたい。

<講師資料>



クラブ活動の醍醐味

異年齢の同好の児童が、自分たちで話し合っ
て目標や計画を立て、助け合ったり、認め合っ
たりしながら協力して楽しく活動し、さらに、
振り返りを生かして、よりよい活動を目指す姿
を見守ること。

※クラブ活動は、特別活動の各内容、各教科等
の学習との関連を生かす場である。

クラブ活動を楽しむために

○クラブ活動は、教師がお膳立てして児童を楽しませるレクリエーションで
はない。児童が試行錯誤しながら「なすことによって学ぶ」活動を通して
成長するための大切な授業である。

○クラブは、児童も教師も楽しむ時間

児童：自分たちでやりたいことを自分たちの力でやれる。
教師：児童の頑張る姿を見守り、終末の助言で成長（よさ）を認め課題に
気付かせる。「児童に任せられない条件」(小解説P47)は指導する。

○全員員で理解・・・所属決定、活動時間の確保、指導と見守り

○自発的、自発的活動の基礎は、学級活動(1)「学級会」(話し合い、係、委員会)
の実践の積み重ね。

○児童の活動意欲を高める日常の学級経営、教科等の授業、当番活動など
※目標づくりと振り返り

(2) 実践事例2 足立区立古千谷小学校「科学クラブ」

① 日時、場所、対象、指導者

授業日：令和5年11月29日(水)

場 所：足立区立古千谷小学校 理科室

対 象：4年生11名 5年生11名 6年生7名 計29名

指導者：大月 香織教諭 平井 彩夏主任教諭 押田 綾乃教諭

② 内容

<第1回クラブ活動>

第1回のクラブ活動で、クラブ活動の特質や活動の仕方を伝えるオリエンテーションを行った。組織づくりでは、クラブ長(1名)・副クラブ長(2名)・記録(2名)が立候補によって決定した。科学クラブの目標を決めるにあたり、どのようなクラブにしたいのかを聞き、全員の思いが入るように6年生が中心となりまとめ、以下のように決定した。

科学クラブの目標

- ① 不思議を集めて解き明かすクラブ
- ② 実験しながら仲良くなるクラブ
- ③ 協力して「自分たちで」いろいろな実験に取り組むクラブ

<前期の活動>

第2回の活動はスライム作りを行った。グループごとの活動にすることで、分量を量る際に声を掛け合う姿は見られたが、「自分のスライムが思うように作れたかどうか」について話す児童が多く、グループ内での交流があまり深まらなかった。

第3回の活動については、電気や音、磁石などについて知りたいという意見が出た中から、雷の不思議について解き明かすことになった。活動計画カードに、雷について不思議に思うことや知りたいことを書く欄を設け、「雷はどうやってできるのか」「音が鳴るのはなぜか」「なぜ光るのか」などの疑問を集めた。前半はグループ毎に本で調べて分かったことを黒板に書いて共有した。後半は風船を使って静電気を起こす実験を行ったが、静電気を起こすことができなかった。湿度が高く、うまくいかなかったのかもしれないという反省を基に、次回からは活動する時期も考えて計画を立てようという意見が出た。

第4回の活動は前期の振り返りを行った。クラブを楽しむ活動が2回しかできていないということもあり、不思議を解き明かすことや協力していろいろな実験に取り組むことについて満足感や達成感をあまり味わえていないようであった。これまで行った実験では担当教員が材料や道具の準備をしていたこともあり、見直しを行うと、③の目標に「自分たちで」という言葉を付け加えることになった。

<後期の活動>

後期から自分たちの力で活動をつくり上げていくために、司会グループが予備実験を行い、材料や手順、実験のポイントなどを活動計画カードに書き込んで事前に紹介することになった。

第5回の活動では、「レインボー水を作ろう」という活動を行った。司会の児童が予備実験の動画を見せながら「水をそっと入

れるのがポイント」だということを伝え、班ごとにレインボー水を作ることができた。

司会グループの5・6年生がレインボー水の予備実験をしたよ。



第 5 回 科学クラブ活動計画 (10月19日(木)作成)

主な活動 レインボー水をつくらう		活動場所 司会グループ	理科室 1班
時間	活動内容	気を付けること	
13:05	はじめの言葉 出席確認 めあて・活動内容の確認	名簿に記入する。()さん ()さん ()さん めあて 班のみんなと助け合いながら レインボー水をつくらう。	
13:20	話し合いや活動	↑ 協力	
5分	道具と 作り方の かきいん	ポイント ・ 塩をよくとかす。 ★ しんかんの内かわにスポイトを つけてゆっくり色水を入れる。	
20分	班ごとに 実験する。		
13:45	結果のかきいん	・ 不思議な色を見たことか? ・ どんなことがわかったか?	

③一連の活動の流れ

<事前>【情報共有の工夫】

司会グループの児童が事前に予備実験を行い、手順に加えて実験のポイントを伝えられるようにする。活動計画カードと予備実験の動画は事前に情報共有ソフトを活用し、科学クラブの全員が確認できるようにする。

<本時>【活動計画カードの活用】

活動計画カードで実験の手順やポイントを確認し、クラブ全体の目標や毎時の全体めあてを基に自分のめあてを決める。そのめあてに沿って振り返りを書く欄を設ける。担当教員は、役割分担をして一人2グループずつ活動の様子を見取り、終末の助言で具体的な価値付けや課題の投げ掛けができるようにする。

<事後>【クラブ通信の発行】

教師が見取った活動のよさ、児童が見つけた互いのよさや可能性、終末の助言で取り上げた成果や課題などをクラブ通信にまとめ児童に配布する。児童が、随時クラブ通信を見返すことができるよう、クラブカードに貼りためている。



④視点1～3の手だての検証・成果

視点1

【クラブ通信の発行】

- ・終末の助言で取り上げきれなかった成果や課題などを共有することで、児童のよさや可能性を称賛するし、価値付けすることができた。
- ・活動を重ねるごとに、具体的な友達の名前や自分自身のよかったところについての記述が見られるようになってきた。

視点2

【活動計画カードの活用】

- ・司会グループの児童が予備実験を行うことで、司会グループの児童は活動の見通しをもち、実験のポイントを児童から他の児童へ伝えることができた。
- ・第7回の活動では、予備実験の動画を見せるだけでなく司会グループの児童が各班を回ってアドバイスすることで、班の枠を超えて教え合いながら活動する姿が見られた。

視点3

【目標やめあての達成のための助言の工夫】

- ・児童自身やクラブ全体の成長に気付けるよう、パワーアップカードに具体的な姿を取り上げて紹介した。
- ・毎時のめあてについて、「協力して実験する」「班のみんなと協力する」という言葉が多く見られるが、協力するとはどのような姿や行動のことを言うのか児童に問い掛けることで、共通理解を図ることができた。

視点1から3

【情報共有ソフトの活用】

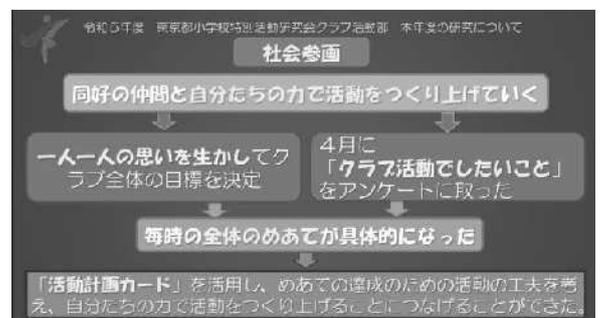
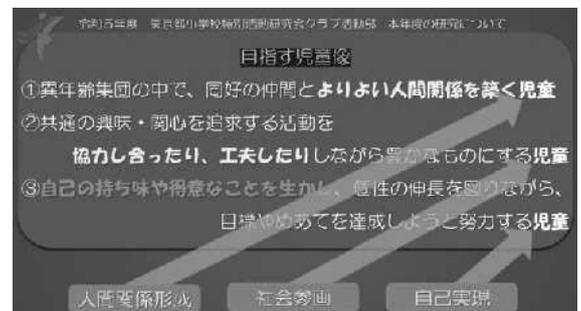
- ・自分の役割を理解したり、自他のよさに気付けるようにしたりするために、活動計画カード、予備実験の動画、クラブ通信、パワーアップカードの情報を共有した。特に予備実験の動画は、上手いかなかった時の様子も紹介することで、実験のポイントに気付くことができた。

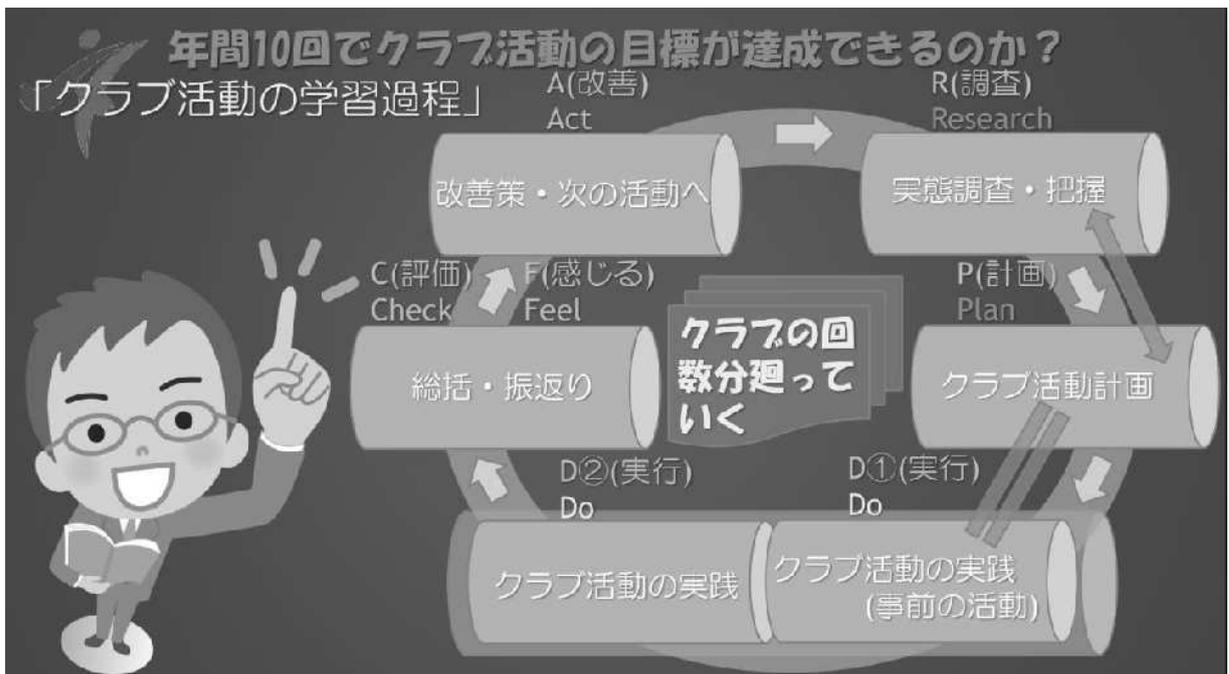
⑤講師紹介、指導講評、講師資料

有明教育芸術短期大学副学長 長田 信彦先生

<指導講評>

- ・クラブ活動は「同好の仲間」が集まる異年齢集団活動である。自分たちの手で活動を作り出し、多様な仲間の個性を受け入れ、助け合ったり協力し合ったりすることでよりよい人間関係を築こうとする態度が育まれ、自己肯定感や自己有用感の高まりが期待できる。
- ・人間関係形成は特別活動だけでなく、学級経営などにおいても最も大切にしたい。
- ・「個人で活動している」ということについて終末の助言で問い掛けていたが、会話がなくても、相手の動きを見て子供たちはよく交流していた。
- ・教師は人間関係を深めることを求めるが、子供たちは「スーパーボールを作りたい」という思いがある。それを作ることが満足感、達成感を味わうことにつながる。指導者は、その過程で人間関係が深まることをねらう必要がある。





⑥指導に使ったワークシート

【活動計画カード】

第 6 回 科学 クラブ活動計画 (11月6日(月)作成)

主な活動		活動場所	理科室
スーパーボールづくり		司会グループ	6班

時間	活動内容	
13:15	はじめの言葉 出席確認	気を付けること ()さん 名簿に記入する。()さん ()さん
13:20	めあて・活動内容の確認 話し合いや活動	めあて 塩の量でスーパーボールが どう変わるか調べよう。
(5分)	道具と作り方の かきいん (説明 9シート)	<ul style="list-style-type: none"> • わりばしについた洗たくのりがスーパーボールになる。 • ゆっくりませるのがポイント!
13:25	班ごとに 活動	塩の量が変わると、できあがったスーパーボールにちがいはあるのかな? よろう
13:50	結果の かきいん	<ul style="list-style-type: none"> • 気づいたこと • わかったこと • うれしかったこと、もっと知りたいこと

【パワーアップカード】

科学クラブ パワーアップカード

＜パワーアップカードとは＞

クラブ全体の目標の達成に向けて、一人一人が頑張ったり、互いの頑張りを認め合ったりすることで、科学クラブがパワーアップしていきます！

クラブ活動の とくちょう	実験や理科が好きな仲間が 集まっています。	4・5・6年生と一緒に仲よく 活動します。	自分たちの力で、協力し合っ て、工夫して活動を進め ます。
科学クラブの目標	不思議を集めてときあかす クラブ	実験しながら仲よくなるク ラブ	自分たちでいろいろな実験 に取り組むクラブ
みんなができたこと 6/28 (水)	①梅雨の時期に静電気は起 きづらいので、冬にやる など、時期を考えた方が いいと気付くことができ た。 ②乾燥した時期に毛糸や分 厚い服を使えば静電気が 起こせるかもしれないと 次に向けて考えることが できた。	①アルミホイルを押さえた り、線を引いたり、班のみ んなで協力しながら実験 道具を作ることができ た。	①雷について知りたいこと について、たくさん意見 を出すことができた。 ②雷について、本やインタ ーネットを活用して調べ たことを、クラブのみな なで情報共有することが できた。
みんなができたこと 9/27 (水)	③後期にやってみたい実験 や知りたいと思った不思議 についてたくさん意見 を出すことができた。 ④出された意見から、話し 合ってから後期に取り組むこ とを決めることができた。 ⑤前期のふり返りをもとに して、時期を考えながら 後期の活動計画を立てる ことができた。	②前期は楽しむ活動が2回 しかなかったけれど、後 期の活動に向けて「後期 はいろいろな実験に取り 組めそう」「もっと頑張り たい」と前向きに考えて いた。	③副クラブ長の（5年） さん、さんが司会グ ループのお助けをしてく れた。 ④後期の活動計画を立てる ときに、自分たちで準備 ができそうかどうか考え て活動を選ぶことができ た。
みんなができたこと 10/25 (水)	⑥（4年） さん「実験が 成功して嬉しかったで す。めあてを達成できた 気がする。」 ⑦（4年） さん「軽く振 っても混ざらないことが 分かった。」 ⑧（5年） さん「いきお いよく混ぜるとだめだど うことを知った。」	③何回かチャレンジして、 どの班もレインボー水の 実験を成功させることが できた。 ④（6年） さん「班の人 と笑顔で実験できてよか った」 ⑤（4年） さん「みんな で協力して実験成功させ ることができました。レ インボー水きれいだっ た！」 ⑥（5年） さんが振り返 りに書いていたように、 みんな役割を交代しなが ら作ることができてい た。	⑤5年生が中休みに集まっ て道具の準備、班ごとの セッティングまでしてい た。 ⑥タブレット操作が得意な （5年） さんが司会グ ループの予備実験の様子 を撮影してサポートして くれた。 ⑦司会グループが予備実験 の動画を見せながら説明 することができた。 ⑧予備実験をしていたの で、「塩をよくとかすこ と」「ゆっくり水を入れる こと」がポイントと気付 いて、みんなに伝えるこ とができた。 ⑨「班のみんなで助け合い ながらレインボー水をつ くる」めあてが達成でき た。

本研究部作成「クラブ活動で育つ力」

指導の 場面	育つ力		
	A 人間関係形成	B 社会参画	C 自己実現
1 所属決定	(1) 同好の異年齢の仲間を集めるために声を掛けたり誘ったりする。 (2) 友達と声を掛け合って、自分たちで新しいクラブをつくらうとする。 (3) 設立の条件に合うように、友達を誘ったり他のクラブを選んだりする。	(1) ポスターを作ったり、宣伝方法を考えたりするなど、自分のできることを考えて発足するために活動する。 (2) 前年度の経験を生かして、所属するクラブを選ぶ。	(1) 自分の興味・関心を追求できるクラブを選ぶ。
2 組織作り	(4) 6年生が中心になり異年齢小グループを作る。 (5) 4・5・6年生と一緒に活動できるようなグループを作る。 (6) 異年齢の新たな仲間づくりをするためにすすんで声を掛ける。	(3) 必要な役割を考え、提案する。 (4) 前年度の経験を生かして組織作りを行う。	(2) 自分の活躍できる役割を選ぶ。
3 目標の決定	(7) 全員で話し合い、クラブ全体の目標を決める。 (8) 「他の学年の友達と仲よく活動する」などの異年齢集団を意識した個人の目標を決める。	(5) 全員の願いを生かしたクラブ全体の目標を決める。 (6) 全体の目標を達成するために、毎時の全体のめあてを決める。	(3) クラブ全体の目標達成に向けて、個人の目標を決める。 (4) 個人の目標や毎時の全体のめあてを達成するために、毎時の個人のめあてを具体的に決める。
4 活動計画作り	(9) みんなで話し合ってすべての希望が入るような計画を立てる。 (10) 一人で活動するのではなく、グループの友達と一緒に活動できる内容を決める。 (11) より楽しくより豊かになる方法を考える。	(7) 計画委員会をすすんで行き、次の活動の見通しをもつ。 (8) アイディアを出し合って、活動計画を作る。 (9) みんなで役割を分担する。 (10) 計画したことをみんなに知らせる。 (11) 次の活動内容を知り、協力して準備をする。	(5) みんなが活躍できるような活動計画を考える。 (6) 自分の思いを大切に、考えを伝える。 (7) 自分のよさや力を発揮し、より楽しくより豊かになる方法を考える。
5 毎時間の活動と振り返り	【毎時間の活動】 (12) 異年齢の仲間と仲よく楽しく活動する。 (13) 互いに助け合って活動する。 (14) 異年齢の仲間と一緒に興味・関心を、実態に即した多様な方法で追求する。 (15) 高学年の児童が下学年の児童の思いや願いを生かして活動する。 (16) 下学年の児童が高学年の児童に憧れをもち、高学年のよさを自分の活動に生かす。	【毎時間の活動】 (12) 一時間の流れを理解し、すすんで活動する。 (13) 自分の役割を果たす。	【毎時間の活動】 (8) 個人の目標やめあてに向かってすすんで活動する。 (9) 自分のよさや得意なことを生かして活動する。 (10) 学級では見られない個性を発揮する。
	【振り返り】 (17) 自他のよさに気づき、伝え合う。 (18) みんなと協力するよさに気付く。	【振り返り】 (14) よかったことと課題に気付く。 (15) 課題の解決方法について考えたり話し合ったりして解決する。	【振り返り】 (11) 活動を振り返り、自分のよさや可能性に気付く。 (12) 次の活動への期待をもち、自分のできることや次回のめあてを考える。
6 学期末の振り返り	(19) 異年齢の仲間との活動における、よかったことや課題に気付く。 (20) クラブ活動で身に付けた人間関係を築く力を学級や学校の生活に生かす。	(16) 自分たちでクラブをよりよく運営する方法が分かる。 (17) クラブ全体の成長と課題に気付く、すすんで伝え合う。 (18) クラブ活動で身に付けた社会参画する力を学級や学校の生活に生かす。	(13) 自分の成長や課題に気付く。 (14) 活動を振り返り個人の目標を見直す。 (15) 次の学期、次年度への期待をもつ。 (16) クラブ活動で身に付けた自己実現する力を学級や学校の生活に生かす。
7 発表	(21) 発表を見合うことで、互いのよさに気付く。	(19) アイディアを出し合って発表方法や発表内容を考えたり伝え合ったりする。 (20) 自分たちの発表を多くの人に見てもらうためにすすんで活動する。 (21) 他のクラブの発表を、自分たちのクラブの活動に生かそうとする。	(17) 自分たちの成果を発表することで、クラブ全体の成長に気付く。 (18) 他のクラブの発表を見て、次の活動への期待をもつ。 (19) 発表の準備や発表を通して、自分の成長に気付く。

3 成果と課題

(1) 成果

視点1 みんなとともに生きていく力を育てる指導の工夫（人間関係形成）

- ・児童間のよいところ見付けをし、自他のよさや頑張りを振り返りで伝え合ったり、クラブカードに記入したりすることで、異年齢の児童のよいところをお互いに認め合う姿勢が身に付いた。また、認められる喜びを感じることで、具体的な頑張りを伝えたり記述したりできるようになった。
- ・クラブ通信を発行し、教師が見取った活動中のよさ、児童が見付けた互いのよさや可能性を児童に伝えることで、クラブ全体の成長や解決すべき課題についても児童自身が実感できた。学習者用端末を併用してクラブ通信を発行していくことで、認められる喜びをよりしていた。

視点2 よりよい集団をつくろうとする力を育てる指導の工夫（社会参画）

- ・オリエンテーションを行い、クラブ活動の目的や特質を指導することで、人間関係形成、社会参画、自己実現の3つの視点に沿ったクラブの目標を決めることができた。
- ・活動計画カードを活用し、クラブの目標と前回の活動の課題を解決するためのめあてを決める取組を積み重ねることで、みんなでクラブ活動をつくり上げる楽しさや大切さを感じながら、一人一人が役割を自覚して取り組むことができた。
- ・担当教師が活動の見通しをもち、指導・助言をしたり、情報を提供したり、司会グループと事前に一度取り組んでみたりすることで、ただ楽しむだけでなく、めあてに沿って活動することができた。

視点3 なりたい自分に向けて頑張る力を育てる指導の工夫（自己実現）

- ・〇〇クラブの目標を基に、どのようなことを頑張りたいのか、どのような成長をしたいのかを一人一人が決めて、毎回の活動後に、自分のめあてを振り返る活動を行うことで、学期や前期などの振り返りの際に自分の成長に気付かせることができた。また、クラブ全体の成長や課題についても一人一人が実感できた。
- ・個人や全体の成長、課題を実感することで、それぞれの得意なことや持ち味を生かしながら、技能や知識で活動を引っ張ったり、リーダーシップや仲間への声掛けやサポートで支えたりすることができるようになった。

3つの視点全てにかかわる指導の工夫

- ・学習者用端末を活用し、電子ホワイトボードや情報共有ソフトにアップすることで、時間をかけずに簡単に共有することができた。

(2) 課題

- ・手だての汎化を図る上で、より簡単により効果的なものを考えながら実践を重ねてきたが、パワーアップカードやクラブ通信については、児童が作成できるようにすることや、継続することが困難にならないような方法を定着させるところまでは至らなかった。そのため、研究を深めるとともに、汎化を図れるような手だてについても考えて取り組んでいきたい。

研究に携わった人				
部 長	矢部 聡	世田谷 尾山台小	大塚 怜	足 立 千寿第八小
副部長	中本 健太郎	江戸川 第四葛西小	藤井 美貴子	渋谷 上原小
〃	山口 哲郎	港 筈小	新垣 陽子	目 黒 油面小
〃	島田 泰子	墨 田 曳舟小	藤井 芳子	世田谷 桜町小
〃	高嶋 誠	足 立 保木間小	大久保 知恵	世田谷 赤堤小
会 計	大月 香織	足 立 古千谷小	安藤 夏子	世田谷 赤堤小
	加藤 葉子	元部長	米本 光希	江戸川 第四葛西小
	梶井 綾	目 黒 八雲小	平井 彩夏	足 立 古千谷小
	山下 映実	江 東 浅間堅川	押田 綾乃	足 立 古千谷小
	安岡 理佳子	国分寺 国分寺第四小		

IV 学 校 行 事 部

研究主題

「よりよい人間関係や生活をつくり、自己のよさを生かす学校行事」

1 本年度の研究について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 58

- (1) 研究構想図
- (2) 研究主題設定の理由
- (3) 研究の視点

2 実践事例・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 60

(1) 実践事例1 世田谷区立祖師谷小学校 展覧会

「(さ) (い) (こ) (う) (6) (年) ! 祖師小みんながキラリと輝く展覧会」

(2) 実践事例2 北区立浮間小学校 音楽会

「チャレンジ4組大作せん! ~音楽会でついた力を使おう~」

3 成果と課題・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 72

研究の経過

令和5年	5月25日(月)	定期総会	世田谷区立芦花小学校
	8月4日(金)	夏季集中研修 第1回学校行事部会	世田谷区立芦花小学校
	8月29日(火)	第2回学校行事部会	世田谷区立祖師谷小学校
	9月19日(火)	第3回学校行事部会	世田谷区立祖師谷小学校
	10月16日(月)	第1回検証授業	世田谷区立祖師谷小学校
	11月6日(月)	第4回学校行事部会	北区立浮間小学校
	12月5日(火)	第2回検証授業	北区立浮間小学校
令和6年	1月11日(木)	拡大研究部会	板橋区立若木小学校
	2月	研究のまとめ 研究発表大会準備	
	2月22日(金)	研究発表大会	世田谷区立芦花小学校

1 本年度の研究について

(1) 研究構想図

<p>今日的課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・予測困難な時代となる未来の社会を切り拓くための資質・能力の育成 ・将来に向けて希望や目標をもち、自分らしい生き方を実現していく力の育成 ・集団や社会の形成者としての見方・考え方の育成 	<p>目指す児童像</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分や友達のをよさを認め合える児童 (人間関係形成) ・自分の役割の意義に気付き、仲間と共に活動する児童 (社会参画) ・自分のよさに気付き、自分の可能性を広げ生かそうとする児童 (自己実現) 	<p>児童の実態</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍、少子化、SNSの普及などで、直接的なコミュニケーションが不足しがちである。 ・当番活動では役に立つ喜びを感じている。一方で自発的・自主的な活動には教師の働きかけが必要な場合が多い。 ・学校行事を楽しみにしている児童が多い。 ・将来の夢や希望が描けない児童が見られる。
<p>研究主題 「よりよい人間関係や生活をつくり、自己のよさを生かす学校行事」</p>		
<p>研究主題 学校における様々な集団の中で、自分ができることを考え、めあてをもち、仲間と共に行事に取り組んでいくことで、自他のよさや、役割の意義に気付くだけでなく、自分の可能性を広げ生かそうとするようになるだろう。</p>		
<p>研究の視点と指導の手立て</p>		
<p>視点1 みんなとともに生きていく力を育てる指導の工夫 (人間関係形成)</p>	<p>視点2 よりよい集団をつくろうとする力を育てる指導の工夫 (社会参画)</p>	<p>視点3 なりたい自分に向けてがんばる力を育てる指導の工夫 (自己実現)</p>
<p>【児童の意欲を高める事前指導】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キャリア・パスポートを活用し、これまでの行事を振り返る。 ・学年オリエンテーションを実施し、日程や目的を確認し見通しをもつようにする。・実行委員会を発足する。 ・学年のめあて(テーマ)を作る。・係活動ができるようにする。・個人目標を立てる。 		
<p>【友達のをよさを伝える時間の設定】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・行事の活動(練習や準備)の初めや終わりに、互いのよさを認め、伝え合う時間を設定する。 <p>【自分の役割を意識し、友達との関わりを深める係活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・見通しをもてる活動計画の作成 ・通常の係活動と行事を関連付けて係活動を実施することで、集団の中における自分の役割を意識できるようにする。 	<p>【スライドショーなどの資料提示の工夫】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ただの映像ではなく、活動の様子を振り返ったり、共有したりできるように、視点をもって作成する。 	<p>【自己のよさを生かそうとする事後指導】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・成長を振り返りカードに書き、(低学年は、選ぶ・色を塗る、など) 掲示する。 ・他学年、教職員、保護者からの評価を知らせる。 ・自分や仲間のよさを共有する。 ・次の行事の見通しと個人目標を立てる。 <p>【めあて実践を促す言葉掛け】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・朝の会、帰りの会等を活用して、めあての実践を促す言葉掛けを充実させ、児童の意欲を高められるようにする。
<p>【振り返りの場の工夫】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・活動の様子を記録したスライドショーを見合い、成長や課題に気付けるようにする。 ・他の学年とメッセージ交換を行い、互いのよさを実感できるようにする。 		
<p>【教室掲示・学年掲示板の活用】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学級目標、学年のめあてやテーマ、カレンダー、実行委員や係の連絡掲示板、個人のめあて・振り返り、保護者等のメッセージなどを掲示できるコーナーを作り、見通しをもたせながら、意欲を高められるようにする。 		
<p>よりよい学校行事を展開していくための手立て(時系列)</p>		
<ol style="list-style-type: none"> (1) 年度初めに年間の学校行事の見通しをもち、学年の方針(目標)等を決める。 (2) 学年・学級の掲示コーナーをつくる。 (3) 学年オリエンテーションを開く。 (4) 行事のめあて(テーマ)を作る。 (5) 行事の事前指導を行う。(意欲を高め、見通しをもち、個人の目標を立てる。) 	<ol style="list-style-type: none"> (6) 活動ごとにめあてを立て、振り返りの場を設ける。 (7) 活動の様子を映像や写真で提示し、そのときのことを思い出しながら振り返りができるようにする。 (8) 児童の願いが達成できるように行事を実施する。 (9) 行事の事後指導を行う。(成長や課題を振り返り、次の行事への期待と見通しをもつ。) (10) 自他の成長やよさを認め合えるカードを掲示する。 	

学校行事部 研究主題

「よりよい人間関係や生活をつくり、自己のよさを生かす学校行事」

(2) 研究主題設定の理由

学校行事には、みんなで力を合わせて、集団の力やよさをより高め、自分や集団の成長を実感できる場が多くある。それらを実現する児童の育成を目指すために、まずは児童が今の自分を理解することが大切である。学級や学年、学校という集団の中で今の自分にできることを考え、めあてをもって行事に取り組んでいく中で、自分の役割を果たしたり、よさを見付け合ったりして、新たな自分に気づき、新たな可能性を見出すことができる。一つの行事を通して得られる達成感や充実感によってさらなる高みを目指したいという自信や希望につなげることができる。

今年度は本研究主題で4年目となり、まとめの年である。これまでの研究で取り組んできた様々な手立てを踏まえて、誰にでも汎用性のある実践を見出し、地域・学校・学級の文化に合わせて選択していけるよう、実践授業を通して検証していく。

(3) 研究の視点

研究主題に迫るために、以下の3つの視点を設定し、研究を進めていくこととした。

視点1 みんなとともに生きていく力を育てる指導の工夫（人間関係形成）

- ・児童の意欲を高める**事前指導**（P. 61, 68 学年オリエンテーションなど）
- ・友達の**よさを伝える**時間の設定（P. 68 メッセージ交換デーなど）
- ・自分の役割を意識し、友達との関わりを深める**係活動**
（P. 69 日常の係活動とのつながりなど）
- ・教室掲示・学年**掲示板**の活用（P. 62, 68）

視点2 よりよい集団をつくろうとする力を育てる指導の工夫（社会参画）

- ・友達の**よさを伝える**時間の設定（P. 68, 69）
- ・自分の役割を意識し、友達との関わりを深める**係活動**（P. 62）
- ・スライドショーなどの**資料提示**の工夫（P. 62, 66）
- ・**振り返り**の場の工夫（P. 62, 69）
- ・教室掲示・学年**掲示板**の活用（P. 62, 68）

視点3 なりたい自分に向けてがんばる力を育てる指導の工夫（自己実現）

- ・自己のよさを生かそうとする**事後指導**（P. 62, 69）
- ・めあての実践を促す**言葉掛け**（P. 69）
- ・**振り返り**の場の工夫（P. 62, 69）
- ・教室掲示・学年**掲示板**の活用（P. 62, 68）

2 実践事例

(1) 実践事例1 世田谷区立祖師谷小学校 「展覧会の事前指導」

①日時、場所、対象、授業者

日時 令和5年10月16日(月)5校時 場所 世田谷区立祖師谷小学校
対象 第6学年 授業者 主任教諭 小山 雅人 主任教諭 森泉 瑠璃 教諭 北村 謙寛

②内容

・題材名 「㊦㊧㊨㊩㊪㊫！祖師小みんながキラリと輝く展覧会」

【主な関連項目】

学級活動(3)ア現在や将来に希望や目標を持って生きる意欲や態度の形成
学校行事の内容(2)文化的行事

・題材設定の理由

第2学年の3学期より感染症予防の観点から、様々な行事や教育活動が中止・縮小される中、学校生活を送ってきた子供たちである。人と関わることも制限され、集団で行動したり、一致団結して一つの目標に向かって取り組んだりする経験も自然と少なくなっていた。友達の気持ちを考え、自分の思いを伝えること、自分で考えて行動することに課題がある。

第6学年の学年目標を決めるに当たり、「こんな6年生になりたい」「こんな6年生は嫌だ」という両方の姿を共有した。また、4月の保護者会で集めた保護者の願い、担任の願い、祖師谷小学校の学校教育目標である「よく考え進んで学習をする子ども 明るく思いやりのある子ども 進んで体をきたえる子ども」を基に学年目標を「㊦いごまで話を聞く ㊧つでもどこでもあいさつ ㊨うどうは自分からすすんで ㊩えを目指して団結し互いに認め合おう ㊪年生として責任ある態度で ㊫度末には最強の最高学年に！！」と決め、学年集会で共有した。そして、最高学年として委員会や縦割り班活動、1年生を迎える会など、様々な場面で活躍する(リードする)立場となったことを実感して1学期を終えた。運動会や展覧会など全校が関わる行事がある2学期は、一人一人が相手意識をしっかりもって行動し、学級集団、学年集団として力を付けていく時期と捉えた。そのために、第6学年の児童の目指したい6年生像と担任3人の願いを基に、2学期の行事のめあてを「みんなのキラリを見つけて伝え合おう」とした。お互いのよいところを見付け伝え合うことで、豊かな人間関係を築いてほしいと考えている。

運動会では、自分たちの出場種目に向けて練習を重ねるだけでなく、一人一人が運動会の係活動に熱心に取り組んでいた。準備から当日までの運動会の係活動が、全校児童のために自分たちが行動していることを実感する機会となった。学年での練習の時には、ペアの友達や5人技の友達と互いの頑張りを見付け、運動会の係活動の際には、同じ係の友達とよいところを伝え合う活動を行った。友達からもらったコメントを廊下に掲示することで、「互いを認め合う」意識をもてるようになってきた。

展覧会は、児童にとって学習発表会や音楽会と比べて当日の活躍の場が少なく、行事に対する意欲や熱意が高まりにくい現状がある。担任として展覧会を通して子供たちの輝く姿が見られ、成長の大きな機会としたいと考えた。そのために、学校全体の展覧会のテーマ「いろとりどりの作品で、楽しくよさを見付け合おう～みんなが輝く展覧会～」を受け、6年生として「一人一人の作品が注目され、よさを伝えて学校全体の思い出に残る最強でさいこうな展覧会」を学年のテーマとした。「自分たちだけでなく、全校児童が輝く最高の展覧会を、最強の6年生が創り上げるんだ。」という児童の思いが込められている。最後の文化的行事となる展覧会を、自分の作品制作・鑑賞を大切にするとともに、6年生が全校児童のために様々な取組をすることで全校児童の心に残る行事にし、「6年生がいてくれたから、こんな素敵な展覧会になったんだね」と言ってもらえるような機会としたい。友達や下級生が作品に込めた思いも大切にして、子供たちが人との関わりをもち、卒業に向けて一段と成長してほしいと願い、本題材を設定した。

・展覧会について

今年度の祖師谷小学校の展覧会のねらいは、下記のとおりである。

- (1) 表現学習を主とした作品展示をすることにより、日常の学習の総合発表の場とする。
- (2) 自他の作品を鑑賞することにより、美しいもの豊かなものを作り出すことに関心を高め、自己の想像力を伸ばす場にするとともに作品鑑賞の態度を養う。
- (3) 美しいものや優れたもの、地域や母校の伝統文化等、自他のよさについて考え、触れたり発表し合ったりして、互いのよさを認め合う。
- (4) 地域・保護者との交流をはかり、教育活動への理解を深める場とする。日常の学習成果を総合的に発表することを通して、豊かな情操を養い、表現力を育てる。

また、6月に代表委員会が中心となり、全学級からどんな展覧会にしたいか言葉を集めて、検討し、展覧会のテーマが以下のように決定した。

「いろとりどりの作品で、楽しくよさを見付け合おう ～みんなが輝く 展覧会～」

本校は、昨年度までは、学習発表会と展覧会を隔年で行っていた。今年度からは、音楽会、学習発表会、展覧会を3年間に1回実施していくこととなった。展覧会は、各学年が平面作品と立体作品の2作品、高学年は家庭科の作品も展示する。全校で取り組む共同制作もあり、体育館中に個性豊かで色とりどりの作品が展示される。前回の展覧会は、コロナウイルス感染症予防の観点から展示を平面作品のみとし、展示スペースを広く確保して実施した。今年度の展覧会は、4年ぶりに従来の内容で実施することとなり、児童が作品制作・鑑賞を通して、互いのよさをより見合えることになった。また、第6学年の児童は「こどもガイド」となり、下学年や保護者・地域の方々に作品の紹介等を行うこととした。

③ 一連の活動の流れ（運動会の振り返りから展覧会に向けた取り組み）

日時	教科領域等	活動内容
1学期から	図画工作科 家庭科	作品制作 ・立体作品2点、平面作品2点 ・スウェーデン刺繍のバッグ
9月4日(月)～10月10日(火)	朝の会等 体育科 行事	・日光林間学園を振り返って ・運動会に向けてオリエンテーション ・運動会練習 ・運動会本番 ・運動会振り返り(個人)
10月11日(水)	朝の会等	・展覧会で行うことを確認する。
10月16日(月) 5校時 本時	学級活動(3) (学年)	・運動会振り返り(全体) ・展覧会に向けてオリエンテーション ・展覧会に向けて、自分のめあてを決める。
10月17日(火)～	休み時間 国語科 図画工作科	・実行委員会を中心に6年生の作品説明を考える。 ・各学年へのインタビュー活動を始める。 ・掲示用の展覧会テーマを作成する。
10月25日(水)～ 11月1日(水)	国語科 休み時間	・インタビューした内容から、説明用の文章を作る。
11月2日(木)～ 11月7日(火)	休み時間等	・作成した説明文をもとに、「こどもガイド」の練習をする。
11月8日(水)	行事	・展覧会リハーサル(前後半に分かれ、「こどもガイド」の練習)
11月9日(木)～ 11月10日(金)	行事	・展覧会当日(児童鑑賞日) ・児童鑑賞日を振り返り、学年全体で共有する。
11月11日(土) 1～3校時	行事	・展覧会当日(保護者鑑賞日) ・展覧会の感想を全員で共有する。
11月14日(火)	朝の会等	・保護者からのメッセージカードの内容を共有する。 ・展覧会を振り返り、今後の自分の取組を決める。
11月15日(水)～	朝の会等	・11月14日に決めた取組を確認し、実践する場面等を指導する。
11月15日(水)～	帰りの会等	・11月14日に決めた取組に対する振り返りを行う。

・本時の展開

時間	活動	○児童の活動内容	・指導上の留意点	□評価
0分	つかむ	① めあてを確認する。	・めあてや振り返りの大切さに触れる。	
5分	さぐる	② 運動会での成長（身に付けた力）を振り返る。 ③ 運動会で身に付けた力の中で展覧会に活用できそうな力を考える。 ④ 展覧会で新たに付きそうな力を出し合う。	・児童が主体的に行動する様子を写真や映像で振り返ることができるようにする。 ・個人の振り返りは、運動会直後に記入しておくようにする。 ・事前にアンケート調査を行い、テキストマイニングを活用し、一目で分かるようにする。 ・事前に展覧会について説明をし、イメージを具体的にもてるようにする。 ・運動会の「みんなのキラリ」の掲示物を参考にして考えるように促す。	
15分	見付ける	⑤ 「こどもガイド」でどんなことを頑張りたいか考える。 ⑥ 頑張りたいことをグループで話し合う。 ⑦ 話し合ったことを発表する。	・グループは縦割り班のメンバーで構成し、実際の場面を想定しながら話し合えるようにする。 ・自分の取組が決められない子には、キャリア・パスポートの「なりたい自分」の記述や、今までの行事の振り返り等を参考にするように促す。	□話合いで自分の考えを伝えている。 (思考・判断・表現) 【行動観察】
30分	決める	⑧ 自分の取組を決める		□話合いの内容を参考にしながら、自分のめあてを立てている。 (思考・判断・表現)
40分		⑨ 自分の取組を発表する。		【ワークシート・学習支援ソフトの記述】
45分		⑩ 教師の助言を聞く。		・今後の学校生活に期待がもてる話、行事を通して身に付けた力を活用して欲しい等の話をする。

④ 視点1～3の手だての検証・成果

視点① 「みんなとともに生きていく力を育てる指導の工夫（人間関係形成）」

○児童の意欲を高める事前指導

・学年オリエンテーション

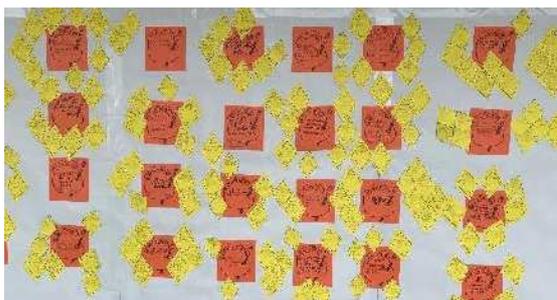
1学期より、日光林間学園や運動会等の行事に向けて、学年でのオリエンテーションを実施してきた。展覧会のオリエンテーションについてもこれまでと同様に学年でのオリエンテーションを行い、展覧会のねらいや内容を確認し、6年生としてどのように取り組んでいきたいかを意思決定する場とした。オリエンテーションの事前には、実行委員会を開き、各学級で「どんな展覧

会にしたいか」を話し合い、学年のテーマ「一人一人の作品が注目され、よさを伝えて学校全体の思い出に残る最強でさいこうな展覧会」を決めて発表した。また、どんな取組をしたいか意見を出し合い、6年生として取り組むことを決めた。取組の内容については、各学級でオリエンテーションの前に確認しておくことで、全員が展覧会へのイメージを共有した状態で自分のめあてを考えることができるようにした。

○友達のよさを伝える時間の設定

- ・教室掲示・学年掲示板の活用

学校の展覧会のテーマ、学年の展覧会のテーマにもあるように「よさを見つけ合い、伝え合う」ことを児童が意識して行事に取り組むことができるように、学年の廊下掲示スペースを活用し、友達の頑張っている姿「キラリ」を伝え合い、積み重ねられるようにした。



視点2 「よりよい集団をつくろうとする力を育てる指導の工夫（社会参画）」

○スライドショーなどの資料提示の工夫

- ・行事への取組記録動画の作成

行事での活動の様子を写真や動画で記録した。担任が記録するだけでなく、校内の様々な場面で6年生が活躍している様子を校内の先生方の協力を得ながら記録していった。特に、なかなか目に触れることのない陰で努力する姿に焦点を当てて動画にまとめた。自分たち一人一人が行事をつくり上げ、全校児童のために力を発揮していることを実感させるとともに、これからの学校生活への意欲につながった。

○自分の役割を意識し、友達との関わりを深めるグループ活動

- ・グループで活動する「こどもガイド」

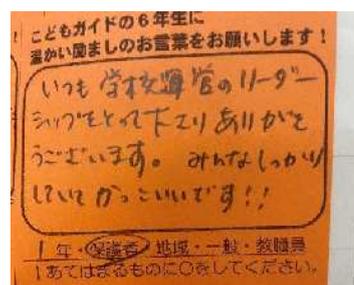
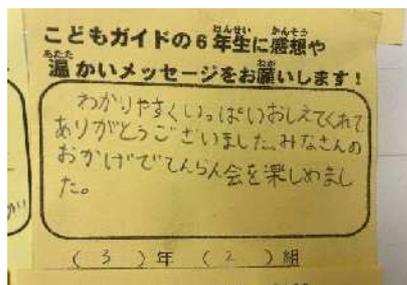
「こどもガイド」では、事前に縦割り班の下級生に向けて、作品についてのインタビュー調査を行い、それをもとに原稿を作成した。グループで活動することで互いに声を掛け合い、役割分担をしながら、協力して準備をすすめることができた。当日もグループで担当学年を交代しながらガイドする姿が見られた。

視点3 「なりたい自分に向けてがんばる力を育てる指導の工夫（自己実現）」

○振り返りの場の工夫

- ・在校生・保護者・地域からのメッセージカード

展覧会の鑑賞時に、在校生・保護者・地域の方々にメッセージカードを書いてもらう取組を実施した。6年生の子供たちに向けて、感想や励ましの言葉がたくさん集まり、振り返りの際に見ることができように掲示をした。自分たちの活動が多くの人を喜ばせ、意義のあるものと実感できようにした。



⑤講師紹介、指導講評

元東京都小学校特別活動研究会学校行事部部长 齋藤 厚代先生

〈本時〉

- ・どの活動に対してめあてを立てるのかを焦点化することにより、分かりやすい授業だった。
- ・今までに見たことも実施したこともない「こどもガイド」については、事前に方法を見せておく、知らせておく、示しておくことがとても大切になる。展覧会のこどもガイドは初めての試みだから、子供たちは絶対に楽しみだと思う。
- ・具体的な例を出しておくことで、活動している様子を想像してイメージがしやすくなる。めあてを具体的に決められた子もいるが、抽象的なめあてを立てている子については、イメージを提示することにより、具体的に考えられるようになる。
- ・導入がとてもよい。目的をぱっと言ったことで、時間を有意義に使うことができた。
- ・みんな一斉に同じ体験をする場をつくるのが学校のすべきことである。
- ・終末の助言では、運動会ができたから展覧会ができるという振り返りをもとにしたことで、次の行事へとつながっていく。
- ・児童の発言を想定して準備をしていくのもよいが、T2（学年の先生）と役割分担をして、児童の言葉をそのまま掲示することができるとうよかった。共通の気持ちで指導していくことが学年としては大切になる。
- ・意欲を高めるためには、具体的な場の設定をたくさん用意し、選ぶことができるとよい。
- ・キャリア教育を学級活動（3）の授業だけで負う必要はない。特別活動であるが、その他学校教育活動全体で行われるものである。そのために引き出しを増やしてあげることが大切である。

〈ICTの活用〉

- ・動画を見せたり、実際にやって見せたりしたことはとてもよかった。動画を子供たちがよく見ていた。動画の5分間はかけがえのない時間だった。
- ・一人1台学習者用端末を使うことで全員が書ける。抽象的でも言葉にすることが大切である。
- ・具体的に書いている子のどこがよかったかを詳しく褒めていけるとよかった。

〈学校行事の内容と教育的意義〉

- ・展覧会のテーマはとても大切である。好きなことはより好きに、好きではない子は1が2にでもなればよい。一人一人の作品のよいところを見てほしい。去年よりどうよくなったのかは、作者にしか分からない。そのため、インタビューする必要がある。どのように伝えるかは、相手意識によって変わってくる。こどもガイドは様々な能力の向上につながる。制作過程を説明し、鑑賞する人にどう伝えるかが重要なことになる。
- ・「文化的行事である展覧会」は、学校生活を楽しく豊かにするための教育活動である。しかし展覧会は、このねらいを十分に到達させるには、困難な行事でもあると言わざるを得ない。
 - ①専科の授業であることが多い。
 - ②作品制作に長時間費やすことが多い。
 - ③児童がもつ図画工作の才能や技術が優先されることも多く、作品の出来の良し悪しが明らかになってしまうことがある。
 - ④担任の意思や技量・意欲があまり活用されない。
 - ⑤学校行事が成功したというゴールが分かりづらい。

そこで学校行事としての意義の確認とアイデアが必要となる。

ア：友達同士の努力が見えるようにする工夫 イ：お互いのよさ分かるようにする工夫

ウ：自分の成長に気付くための工夫 エ：身に付いた力を活かし、伸ばそうとする工夫

オ：完成度の高い作品や能力を理解できるようにする工夫

〈学校行事と高学年〉

- ・学校行事の規模が大きければ大きいほど、教師だけの力でその行事を成立させることが困難になる。高学年としての力を試せるのが学校行事である。
- ・展覧会では、最高学年としてどのような力を周りは期待をしているのかについて、子供たちと共有をする。過去の展覧会を比較して考えることも大切である。

⑥資料（6年生や委員会が取組）

学年での展覧会 オリエンテーション



展覧会 オープニングイベント



オープニングイベントでは、
6年生が劇やカウントダウンを行い、
展覧会が始まりました。

展覧会のテーマ作成



展覧会のテーマを大きく掲示し、
全学年が意識できるようにしました。

展覧会を盛り上げる 体験コーナー



展覧会を盛り上げようと
顔はめパネルを作成し、みんなが楽し
める体験コーナーをつくりました。

指導に使ったワークシート

今までの行事
や生活との
つながりを
意識できる
ようにする

活動ごとに
具体的な
めあてを
書けるように
する

学年 6年 期 夏 巻 1日

〇「はてどこまでを体験して来ましたか？」「これから、どんなことを学びますか？」

準備したこと

目的

活動内容

振り返り

感想

〇「はてどこまでを体験して来ましたか？」

〇「これから、どんなことを学びますか？」

〇「はてどこまでを体験して来ましたか？」

〇「これから、どんなことを学びますか？」

学年 6年 期 夏 巻 1日

〇「はてどこまでを体験して来ましたか？」

〇「これから、どんなことを学びますか？」

〇「はてどこまでを体験して来ましたか？」

〇「これから、どんなことを学びますか？」

〇「はてどこまでを体験して来ましたか？」

〇「これから、どんなことを学びますか？」

〇「はてどこまでを体験して来ましたか？」

〇「これから、どんなことを学びますか？」

明日からの
生活や次の
行事につなげ
られるように
する

(2) 実践事例2 北区立浮間小学校「音楽会の事後指導」

①日時、場所、対象、授業者

日時 令和5年12月5日(火) 場所 北区立浮間小学校
対象 3年4組 授業者 松本 明子

②内容

- ・題材名 「チャレンジ4組大作せん!～音楽会でついた力を使おう～」

【主な関連項目】

学級活動(3)ア 現在や将来に希望や目標をもって生きる意欲や態度の形成
学校行事の内容(2) 文化的行事

- ・題材設定の理由

集団の中で「みんなで力を合わせること」「集団の力やよさをより高めること」「自分や集団の成長を実感すること」ができる学校行事は、その活動やそれに伴う指導を通して、研究主題「よりよい人間関係や生活をつくり、自己のよさを生かす」力を育成するために大変重要な場と言える。

今回、「音楽会」の取り組みを通して、意図的に励まし合う活動を設定し、「みんながんばっているんだ、自分もがんばってみんなで音楽会を大成功させよう」という気持ちを育てていく中で、よりよい人間関係を形成していきたいと考える。また、練習後の教師の助言や視点をもたせた振り返りを行うことによって、自分や集団の成長に気付かせたいと考える。

7月に実施された児童会行事「浮間大まつり」、10月に実施された学校行事「運動会」に続き、3回目の大きな行事である「音楽会」は、1年間の行事の集大成となると考える。よって「音楽会」の事前指導では、「浮間大まつり」や「運動会」で付けた力を「音楽会」で生かしていけるような取組を考え、事後指導では、今までの行事で自分たちに付いたたくさんの力を共有し、これからの生活に生かしていけるような取組を実施したいと考えた。

- ・音楽会について

音楽会は、児童にとって3年に1度の学校行事である。(北区では、文化的行事である音楽会・学芸会・展覧会を3年間に1回ずつ実施する。)3年前の音楽会は、コロナウイルス感染症下のため、各学年合奏のみで、児童も保護者も映像での鑑賞であった。今年度は、各学年、合唱と合奏を行い、児童鑑賞日は、前半(1, 3, 5年生と特別支援学級)、後半(2, 4, 6年生)に分かれての実施となる。よって、3年生は、後半(2, 4, 6年生)の演目は、オンラインでの鑑賞となる。

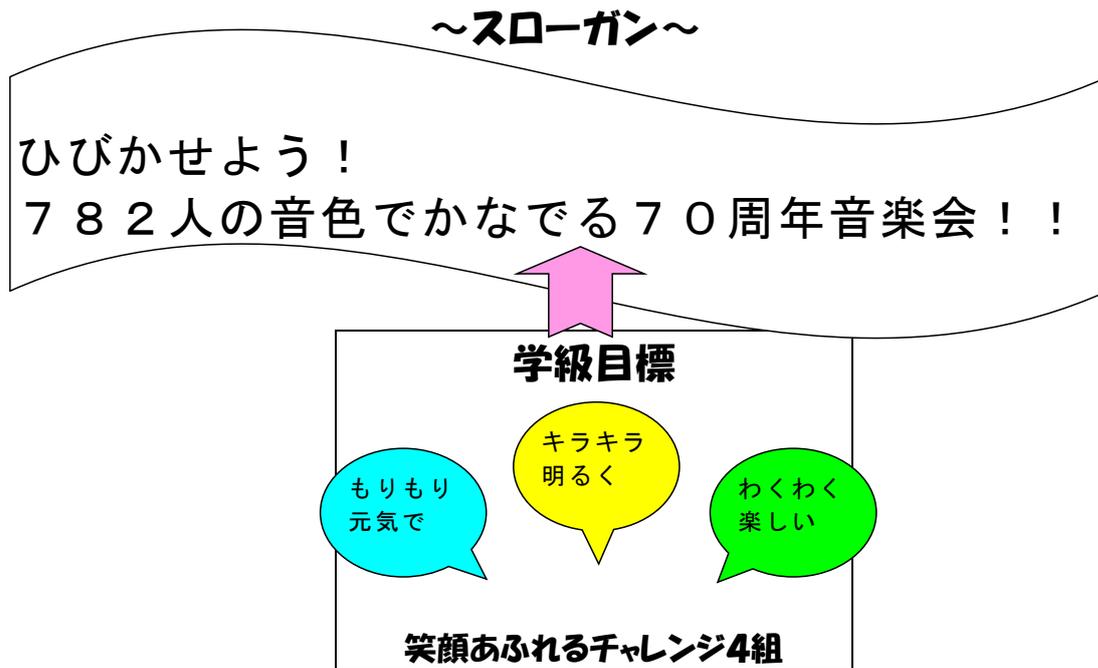
今年度の本校の音楽会のねらいは、次の4点である。

- ①日常の学習の成果を発表し、演奏の表現の能力を高め、**音楽活動に対する意欲を高める。**
- ②**練習の過程を大切に**し、他学年の演奏を味わって聴くとともに、正しい鑑賞の態度を身に付けさせる。
- ③音楽を通じて**心の交流を図り、学校全体を明るく潤いのあるものにしようとする**態度や習慣を身に付ける。
- ④『70周年 記念音楽会』とし、全校で70周年をお祝いし**愛校心を育てる。**

特別活動の役割

学校行事における特別活動の役割は大きく、練習を通して意図的に、教え合い・励まし合う活動を取り入れたり、友達によさや頑張りを見付けたりする場を設定していくことが重要であると考えます。

また、3年生にとっては、文化的行事は今年の「展覧会」のみで、「音楽会」は初めての経験である。入学してから新型コロナウイルス感染症下であったことから、みんなで歌ったり、みんなで演奏したりする経験は非常に少ない。音楽会の練習の中で、「みんなで気持ちを合わせてがんばったら楽しかった」「自分の役割をがんばったら友達がほめてくれた」「みんなもがんばっているから自分もがんばろう」のような友達との認め合いや励まし合いがみられるのではないかと考えた。



運動会で付けた力を生かし、学級目標の「キラキラ明るく」を特に意識させ、自分も友達も、先生もご家族の方もみんなが笑顔あふれる音楽会にするために、自分は何をどのように頑張っていくのかを具体的に考えさせた。

③一連の活動の流れ

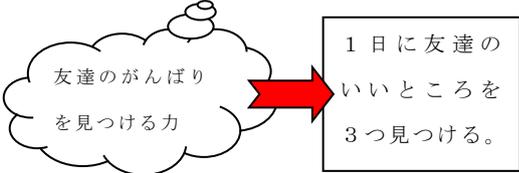
・指導計画

11月 6日 (月) 5校時 体育館割り当て始まり	音楽 (学年) 音楽会オリエンテーション
11月 13日 (月)	練習日記開始
11月 22日 (水)	メッセージ交換デー 1回目
11月 29日 (水)	リハーサル
11月 30日 (木)	メッセージ交換デー 2回目
12月 1日 (金)	音楽会 1日目 (児童鑑賞日)
12月 2日 (土)	音楽会 2日目 (保護者鑑賞日)
12月 5日 (火) 本時	学級活動 (3) 「チャレンジ4組大作戦！～音楽会で付いた力を使おう～」
12月 6日 (水) ～12日 (火)	1週間チャレンジ実施

- ・本時の展開
ねらい

音楽会でみんなに付いた力を共有し、付いた力がこれからの生活や学習にどう生かせるのかを考え、「チャレンジ大作戦！」で取り組むことを決める。

展開

	○児童の活動内容	・児童上の留意点	□評価
つかむ 10分	①音楽会を振り返る。 ②本時の活動を知る。	<ul style="list-style-type: none"> ・今までの練習風景や当日の写真を見たり、保護者からの称賛を伝えたりする。  <ul style="list-style-type: none"> ・今までの頑張りが分かる、「練習ひとこと日記」や「音楽会コーナー」に触れ、自分たちの頑張りをみんなで共有する。 	<p>□音楽会で自分たちに付いた力をこれからの生活や学習に生かすことが、自分の成長につながることを理解している。</p> <p>(知・技) 【観察】</p>
<div style="border: 2px solid black; padding: 10px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p>チャレンジ4組大作戦！ ～音楽会で付いた力を使おう～</p> </div>			
さぐる 見つける 25分	③音楽会でどんな力が付いたのか考え、出し合う。 ④付いた力をこれからの生活のどんなところに生かせるのかを話し合う。 ⑤4年生からのメッセージを紹介する。	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽会で自分たちについて力を発表し合って共有していく。 ・「この力を使って何をがんばれるかな？」というように、具体的に考えられるようにする。  <ul style="list-style-type: none"> ・あと3ヶ月で4年生になることを意識できるような励ましのメッセージをもらって、自分の取り組むことを決める参考にさせる。 	<p>□音楽会で自分たちに付いた力をこれからの生活や学習にどのように生かしていかせるのかを考え、「チャレンジ大作戦」で自分が取り組むことを決めている。</p> <p>(思・判・表) 【発言・カード】</p>

決める 10分	⑥自分の取組を決め、みんなで励まし合う。 ⑦教師の励ましを聞く。	・「チャレンジカード」を交換し合い、励ましのコメントを書き合う。 ・音楽会で付けた力を使って、「4年生に1歩近付こう！」という意識をして1週間チャレンジに取り組んでいけるように温かい励ましを行う。		□「チャレンジ大作戦」で決めた取り組むことを、みんなで応援し合い意欲的に取り組もうとしている。 (態度) 【観察・カード】
------------	---	---	--	---

④視点1～3の手立ての検証

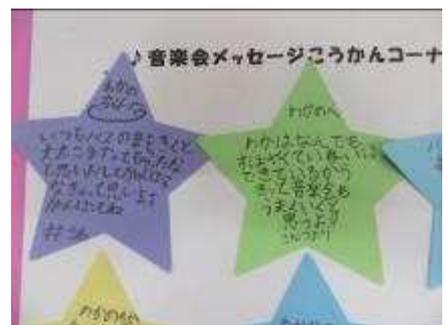
視点① みんなとともに生きていく力を育てる指導の工夫（人間関係形成）

○事前指導の充実

3年生にとって、音楽会は初めての経験となる。そのため音楽会オリエンテーションを実施し、音楽会の意義や、運動会で付けた「みんなの力と心を合わせる力」のパワーアップを目指し、「自分の役割を責任をもって果たす力」など、みんなに付けて欲しい力を伝える場を設定した。また、音楽会までの見通しをもたせたり、スローガンや運動会で付けた力を生かして自分のめあてを決めたりすることで、みんなの力で音楽会を成功させようという意欲を高めることにつながった。

○メッセージ交換デーの実施

メッセージ交換デーとして、友達のよさやこれからの活動への応援メッセージを交換する時間を設定した。友達のよさを見付ける視点を示し、もらった児童が次への活動の意欲を高められるようにしたいと考え、メッセージ交換コーナーを活用し、もらったメッセージをいつでも見られるようにした。メッセージ交換デーは2回設定するが、書きたいことがあったらいつでも書いていいこととし、自主的に友達のよさを見つけた児童を称賛した。



視点② よりよい集団をつくろうとする力を育てる指導の工夫（社会参画）

○事前・事後指導を通して

事前においては、音楽会オリエンテーションを通して、「音楽会成功に向けてめあてをもち、自分の役割を果たしていこう」という思いを高めるようにした。事後においては、「音楽会で付いた力を使っていこう」という取組を通して、自分やクラスを成長させようという意欲を高めるようにした。



○音楽会コーナーの設置

スローガンや練習日程、カウントダウンカレンダー、練習風景の写真や励ましのコメントなどを掲示し、みんなががんばっていることを実感できるようにした。また、図工や総合の時間にも音楽会と関連した取組を行い、様々な場面で音楽会へ向けて、学年での連帯感を高めるようにした。

○日常の係活動とのつながり

行事の指導が始まると、子供たちの日常が慌ただしくなりがちだが、日常の係活動と音楽会を関連付けることで、子供たちが楽しみながら計画実行できた。また同時に、より一層、児童一人一人の主体性や学級集団の協力しようとする力が高まった。

例 ニュース係→音楽会新聞 本の紹介係→音楽会ブック

飾り係→教室の飾り（音楽会バージョン）

ミュージック係→朝の歌を盛り上げる活動、「がんばったねスタンプカード」の作成係活動が音楽会に関連した係活動を計画実行したことをきっかけに、係以外にも自主的にポスターを作成した子もいた。

○学級目標を生かして

学級目標の「キラキラ明るく」を取り入れて、クラスでは、スローガンに加えて、「キラキラ明るい音楽会にしよう！」と意識させて練習に取り組ませるようにした。

視点③ になりたい自分に向けてがんばる力を育てる指導の工夫（自己実現）

○めあて・振り返りカードの活用

スローガンや自分のめあてを意識できるカードを活用し、音楽会の成功に向けてスローガンを達成するために、自分ができることを具体的に考えられるようにした。また、同じカードを活用し、自分のめあてに対して具体的に振り返りを行うことができるようにした。

○練習ひとこと日記の活用

音楽会2週間前から練習ひとこと日記を始め、音楽会までの見通しをもたせたり、自分の成長を感じられるようにしたりした。書く視点を示し、毎時間の練習後の振り返りでは、児童が自分や集団の成長を具体的に感じられるような助言を行った。また、できるだけ温かく具体的なコメントを書いて、次の練習への意欲を高められるようにした。



○事後指導の充実（本時）

学級活動（3）において、音楽会で付いた力をみんなで共有し、付いた力をこれからの生活や学習に生かせるような取組「1週間チャレンジ」を実施した。保護者からの称賛を伝えて自分たちに付いた力を実感させたり、1学年上の4年生に3年生へのエールをもらったりして活動への意欲につながられるようにした。なお、3年生と4年生は児童鑑賞日にはお互いオンラインでの鑑賞となるので、リハーサル時に見合う場を設定した。

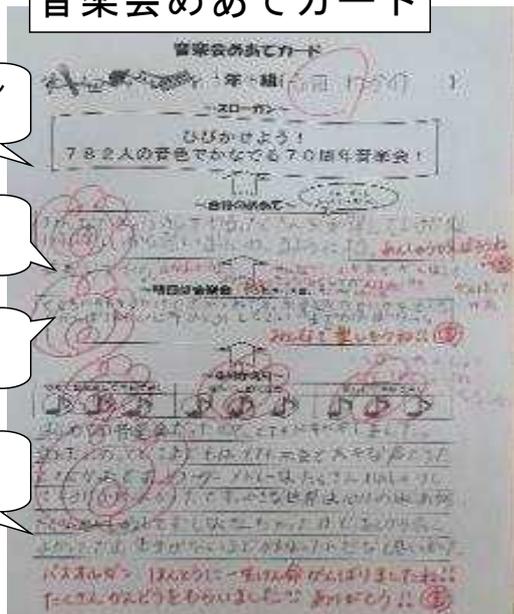
⑤講師紹介、指導講評

元東京都小学校特別活動研究会 会長
 北区立西浮間小学校長 小島 みつる先生

- ・ 行事をそれだけで終わりにするのではなく、行事を通して身に付けた力を明確にし、これからの生活や次の行事、来年の行事につなげて指導していくことが大切である。
- ・ 本時で行っていた友達へのコメント交換のように、友達のよさや頑張りを見つけ、伝え合う機会を他教科や日常の中で設定していくことが人間関係形成につながっていく。
- ・ 身に付けた力を使っていくことが自分の成長につながっているんだということが分かる言葉かけが必要であった。また、身に付けた力をどう使うかだけでなく、使うことによってどうなっていきたいのかを意識させたい。
- ・ 学級目標が具体的で、みんなで目指していくことが分かりやすく、子供たちがしっかりと理解できていた。学級目標は「みんなで頑張ったら学級がよくなる目標」「自分だけでなく、みんながともに成長できる目標」のような、相乗効果のあるものが望ましい。教師の思いを伝え作っていくことはもちろんだが、子供たち自身の言葉であり、一人一人がその言葉に納得している必要がある。
- ・ 本時で次の学年を意識させるには少し早い時期であった。ここでは、「浮間大まつり」や「運動会」など、自分たちの今までの頑張りを振り返る時間にするのがよかった。

⑥指導に使ったワークシート

音楽会めあてカード



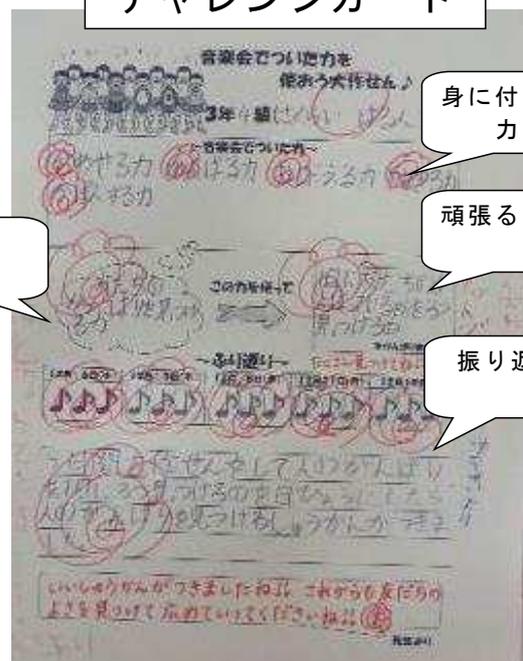
スローガン

自分のめあて

明日は音楽会

振り返り

チャレンジカード



身に付いた力

頑張ること

振り返り

使う力

練習ひとこと日記



メッセージこうかんコーナー



3 成果と課題

(1) 成果

視点1 みんなとともに生きていく力を育てる指導の工夫（人間関係形成）

ワークシートや学年の掲示板を活用し、互いの良さや頑張りを見付け伝え合う活動を継続して取り入れたことで、一人一人が活動への意欲を高めることができた。

視点2 より良い集団を作ろうとする力を育てる指導の工夫（社会参画）

児童が主体的に活動する様子を写真や動画に記録し、スライドショー等で提示することで、自分たちの頑張りを実感させることができ、「自分たちの力で行事を作りあげていこう」「自分や学級をさらに成長させていこう」とする意欲を高めることができた。

視点3 なりたい自分に向けて頑張る力を育てる指導の工夫（自己実現）

自分や集団の成長を実感できるあたたかなメッセージを、教師、他学年、保護者など様々な立場から募ったことで、自分たちの成長や可能性を実感させ、それらを発揮していこうとする姿を引き出すことができた。

(2) 課題

視点1 みんなとともに生きていく力を育てる指導の工夫（人間関係形成）

行事を通して身に付いた力や、友達のよさ、頑張りを見付け合う機会を、他教科や日常の中でどのように設定し指導していくかについて、さらに検証していく必要がある。

研究に携わった人

部長	竹田 桃子	中野・鷺宮小	部員	本橋 治	練馬・大泉学園小
副部長	四本 真美	大田・志茂田小	部員	久原 千恵	練馬・北原小
副部長	松本 明子	北・浮間小	部員	中村 正伸	練馬・北原小
会計	湯沢 芽生	練馬・上石神井北小	部員	上野 純	足立・千寿小
授業者	松本 明子	北・浮間小	部員	鈴木 沙和	足立・足立小
授業者	小山 雅人	世田谷・祖師谷小	部員	原 千晶	大田・入新井第五小
部員	伊勢 祐美子	世田谷・若林小	部員	橋本 希美	大田・入新井第五小
部員	榎本 誠太	世田谷・塚戸小	部員	白石 遼	大田・中萩中小
部員	平 裕子	世田谷・武蔵丘小	部員	藤井 美貴子	渋谷・上原小
部員	塩川 恵	世田谷・喜多見小	部員	五十嵐 弥生	町田・南第四小
部員	平山 かおり	目黒・鷹番小	部員	小田 麻衣	八王子・横山第二小
部員	中西 くみ子	北・西が丘小	部員	萩原 初	調布・若葉小
部員	檜山 真理子	北・西浮間小	事業部員	原田 恵子	北・西浮間小
部員	石井 純子	北・第四岩淵小	担当副会長	吉田 有子	清瀬・清瀬第七小
部員	江川 慶伍	北・西ヶ原小	研究部長	平松 隆行	板橋・若木小
部員	池畠 準一郎	中野・平和の森小	講師	斎藤 厚代	元学校行事部部長
部員	船倉 大輔	板橋・蓮根小	講師	小島 みつる	北・西浮間小
部員	石坂 広大	板橋・若木小	アドバイザー	田所 貴美子	中野・みなみの小

研究の成果と今後の課題

研究部長 平松 隆行(板橋区立若木小学校長)

東京都小学校特別活動研究会(以下、都小特活)では、令和2年度より、研究主題「よりよい人間関係や生活をつくり、自己のよさを生かす特別活動」の下、研究を重ね、今年度はその最終年度であった。

この間、新型コロナウイルス感染症への対応に、社会全体で苦慮してきた。教育の分野では、全国一斉臨時休業、その後の分散授業、リモート授業など、これまでの教育活動から大きな転換を求められる対応が続いた。感染症拡大防止のため、「人と人の関わり合い」が大きく制限される事態は、やむを得ないながらも、子供たちの健やかな成長への影響が懸念された。

特に、「関わり合う」活動を通して、「人間関係形成」「社会参画」「自己実現」の力の育成を目指す特別活動については、活動そのものの中止、縮小・制限という厳しい状況に置かれた。

このような中、それらの活動を「できない」と諦めるのではなく、「工夫してできる」ことを子供とともに模索し、つくり上げてきた。まさに、特別活動の指導原理である「なすことによって学ぶ」を体現した4年間であった。

○成果【4年間を総括して】

- ・コロナ禍を経て、「人間関係形成」「社会参画」「自己実現」の力の育成を目指す特別活動の重要性が注目され、都小特活として、特別活動を深めるだけでなく、広げていく視点を共有できた。
- ・4研究部それぞれで、目指す児童像を「人間関係形成」「社会参画」「自己実現」の3つの視点で設定し、その育成のための手だてとの関連を示すことにより、それぞれの活動の特質を明らかにした。
- ・目指す児童像を育成するための手だてを、再現性があり、取り組みやすい形で提案できた。(汎化)
- ・ICT機器の活用により、効率的な意見集約、活動のめあての共有化など、授業の質を高める手法について選択肢を増やすことができた。
- ・活動の目的を明確にし、目的を達成するために、どのような工夫をすればよいかという視点をもって活動に取り組みせる意識が、指導する教員に高まった。

○今後の課題

- ・来年度より新しい研究主題を設定して、研究を推進するにあたり、現在の教育課題や子供たちの実態、今後の日本社会の変化や求められる人材について適切に把握する。
- ・目指す児童像の育成に向けて、「研究仮説→手だて→検証→手だての改善や仮説の見直し」という研究推進の基本サイクルを徹底する。
- ・働き方改革の名の下、特別活動の削減や縮小が行われている現場が増えている。特別活動の育む力の重要性とそのため指導方法について、さらに多くの教員に知らせていく必要がある。
- ・限られた指導時間の中で、特別活動のねらいを達成するために、「これまで」にとらわれず、「何のために」を明確にして活動内容の焦点化を図ることや、誰もが取り組みやすい指導方法の一般化をさらに進める。「時間がかかる」「面倒」などのイメージを払拭することにもつなげていく。

新型コロナウイルス感染症は、人と人が関わり合うことから学ぶ特別活動の指導が重要であることを教えてくれた。その一方で、喫緊の教育課題である教員の働き方改革を推進するために、特別活動が業務削減のターゲットになっていることは憂うべき事態である。

とはいえ、以前のような特別活動に戻ることはあり得ない。特別活動の理念を継承し、これまで積み重ねてきた研究の成果を大切にしつつも、新しい時代にふさわしい「特別活動」の指導方法を追究し、広げていくことが都小特活のこれからの使命である。その「特別活動」の力で、子供たちの幸せな未来を創造したい。

東京都小学校特別活動研究会会則

第1章 総 則

- 第1条 この会は、東京都小学校特別活動研究会といい、事務局を会長校に置く。
- 第2条 この会は、東京都23区、市、郡、島しょにおける小学校特別活動研究団体の連合機関とし特別活動の振興を図ることを目的とする。
- 第3条 この会は、前条の目的を達成するために、次のことを行う。
- ① 東京都23区、市、郡、島しょ研究会との連絡連携に関すること。
 - ② 特別活動の研究、及びその助成に関すること。
 - ③ 研究物・機関誌の発行に関すること。
 - ④ この会と同じくする研究団体との連絡連携に関すること。
 - ⑤ その他、この会の目的を達成するために必要なこと。

第2章 役 員

- 第4条 この会は、東京都23区、市、郡、島しょを単位とする研究会・学校及び特別活動に関心をもつ個人をもって組織する。

- 第5条 この会に次の役員をおく。

①会長1名、副会長若干名 ②庶務・会計・研究・事業・編集の各正副部長 ③学級活動・児童会活動・クラブ活動・学校行事の各部長 ④会計若干名 ⑤参与 ⑥相談役

- 第6条 会長・副会長及び会計監査は理事会において選出する。理事は23区、市、郡、島しょから選出する。庶務・会計・研究・事業・編集の各正副部長は会長が委嘱する。また各部長は各活動部の推薦を受けて会長が委嘱する。

- 第7条 会長は、会務を総理し、この会を代表する。副会長は会長を補佐し、会長に事故あるときは、その会務を代理する。理事は重要事項の審議をする。

- 第8条 役員任期は1年とする。ただし、重任することができる。役員に欠員が生じた場合、補欠役員任期はその残任期間とする。

- 第9条 (1) この会に、顧問をおく。顧問は歴代の会長とし、現職にある間は参与とする。
(2) この会に、相談役をおく。相談役は、会長が役員経験者で再任用校長の中から委任する。

第3章 会 議

- 第10条 この会の会議は、次の通りとする。①総会 ②理事会 ③役員会

- 第11条 総会は会長が招集し、毎年1回開催する。ただし、必要に応じて臨時に開くことができる。総会の議長は会員から選出する。

- 第12条 総会に付議する事項は、次の通りとする。

①予算の決議及び決算案の承認 ②会則の変更 ③その他重要な事項

- 第13条 理事会・役員会は会長が招集し、会議の議長は会長が当たる。

第4章 会 計

- 第14条 この会の経費は、都小研連からの配当金とその他の収入で支弁する。

- 第15条 この会の会計年度は、毎年4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

- 〈付則〉
1. この会則は、令和3年5月より実施する。(令和3年5月20日一部改正)
 2. この会の運営に関する細則は、必要に応じて定めることができる。

各業務分担

庶務部	<ul style="list-style-type: none"> ・年間計画の作成と推進 ・顧問、参与、相談役、役員、理事、部員名簿の作成 ・役員会、理事会、総会、研究発表会等の案内状の作成と発送 ・上記諸会合の進行と運営
周年担当部	<p>10年ごとの周年時に設置する。 ※令和4年度は、60周年担当部を設置した。 今回は、70周年時に、70周年担当部を設置する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・〇周年記念ページの作成 ・歴代会長のお祝いメッセージの依頼と集約 ・〇年のあゆみの作成
会計部	<ul style="list-style-type: none"> ・年間予算計画の立案と予算執行 ・都助成金申請及び決算報告書提出 ・帳簿管理 ・決算事務（会計監査との連絡）
研究部	<ul style="list-style-type: none"> ・研究基調提案の策定と提案（研究主題の基本的な方向性について） ・年間研究計画の立案と推進 ・4活動部による研究推進 <ul style="list-style-type: none"> (1) 学級活動部 (2) 児童会活動部 (3) クラブ活動部 (4) 学校行事部 ・4活動部との連絡、調整（研究部会・拡大研究部会の開催） ・関係研究団体との連携、協力の窓口 ・一日研修会の研究推進業務 ・研究出版等に関わる内容の業務 ・各地区の研究活動の把握
事業部	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページの運営・管理 ・ICTの推進 ・一日・宿泊研修会等の立案と運営 ・各種懇談会、懇談会の企画と運営（総会・研究発表後の懇談会等） ・研究紀要の発送業務 ・研究出版物の頒布に関する業務
編集部	<ul style="list-style-type: none"> ・会報の編集、発送業務 ・総会、研究発表会の記録、編集 ・一日・宿泊研修会の記録、編集

令和5年度 東京都小学校特別活動研究会

顧問・役員・本部幹事名簿

1 顧問（歴代会長）

	代	氏名
顧問	1	高杉 新作
〃	2	斉藤 敏夫
〃	3	保科 明敏
〃	4	山田 明
〃	5	白井 健二
〃	6	小谷 威
〃	7	久納 六郎
〃	8	小島 明
〃	9	中田 英義
〃	10	広瀬 英二
〃	11	外村 近
〃	12	小河 一久
〃	13	古橋 宏
〃	14	岩園 敏明
〃	15	佐藤 弘
〃	16	小川 國壽
〃	17	小野 眞澄
〃	18	松野 彰夫
〃	19	小池 宏
〃	20	沖山 重次
〃	21	大谷 徹夫
〃	22	星野 隆治
〃	23	米本 滋雄

	代	氏名
顧問	24	小川 進一
〃	25	高松 和彦
〃	26	中川 健二
〃	27	森山 裕夫
〃	28	川嶋 武司
〃	29	小野 莞一
〃	30	藤縄 清
〃	31	鹿海 治
〃	32	井上 和芳
〃	33	棚田 政治
〃	34	藤本 仁
〃	35	長田 信彦
〃	36	若林 彰
〃	37	関 幸治
〃	38	上野 研二
〃	39	石井 友行
〃	40	山口 祐一
〃	41	清水 晶子
〃	42	赤羽根 智
〃	43	(参与欄)
〃	44	(参与欄)
〃	45	(参与欄)
〃	46	(参与欄)

2 参与（歴代会長）

代	氏名	地区・校名	学校電話	F a x 番号
43	小島みつる	北・西浮間小	03-5915-0133	03-3967-1135
44	木田 明男	小平・小平第三小	042-321-0189	042-321-0164
45	岡野 範嗣	大田・入新井第五小	03-3762-6438	03-3762-8313
46	秋山 美栄子	目黒・下目黒小	03-3491-0332	03-5496-4859

3 役員

◎校長

○副校長

◇主幹教諭

◆指導教諭

□主任教諭

役職名	氏名	地区・校名	学校電話	Fax番号
会長	◎石田 孝士	世田谷・芦花小	03-3303-3301	03-3303-6431
副会長	◎出町桜一郎	国分寺・第一小	042-322-0041	042-322-2049
〃	◎田村亜紀子	練馬・大泉南小	03-3922-1160	03-5387-2191
〃	◎吉田 有子	清瀬・清瀬第七小	042-493-4317	042-495-6037
庶務部長	◎酒井 敬子	大田・おなづか小	03-3753-2615	03-3753-2616
庶務副部長	◎佐藤 美徳	府中・府中第二小	042-361-9002	042-334-0865
〃	○角田 恒一	中野・啓明小	03-3330-2325	03-3330-2326
会計部長	◎吉田 有子	清瀬・清瀬第七小	042-493-4317	042-495-6037
会計副部長	○田所貴美子	中野・みなみの小	03-3381-7250	03-3381-7259
会計(学級活動)	□奥山 優子	中央・月島第三小	03-3531-7225	03-3531-2253
会計(児童会)	□山野奈央子	世田谷・玉川小	03-5497-0262	03-3703-1688
会計(クラブ)	大月 香織	足立・古千谷小	03-3855-3161	03-3855-3162
会計(学校行事)	湯沢 芽衣	練・上石神井北小	03-3920-1011	03-3929-9053
研究部長	◎平松 隆行	板橋・若木小	03-3550-0348	03-3934-2007
研究副部長	○米持 淳一	小平・上宿小	042-345-0041	042-345-0056
〃	○藤田 寛樹	新島町立・新島小	04992-5-0009	04992-5-0948
〃	◆大蔵 久美	小平・小平六小	042-341-0356	042-341-7467
〃	◆大野 和代	足立・千寿第八小	03-3888-7826	03-3888-7827
〃	◆宮内 有加	中央・有馬小	03-3666-5702	03-3668-2364
研究部員	◇佐藤 真美	小平・小平第十二小	042-342-1761	042-342-1760
〃	◆中嶋 規子	世田谷・経堂小	03-3420-3278	03-3420-2903
事業部長	◎神谷なおみ	江東・第一大島小	03-3684-4314	03-3636-9730
事業副部長	◎森嶋 正行	府中・府中第五小	042-361-9005	042-334-0868
〃	○猪岡 仁	世田谷・桜丘小	03-3429-1375	03-3429-1339
事業部員	□原田 恵子	北・西浮間小	03-5915-0133	03-3967-1135
〃	□兼古 勇佑	江東・有明西学園	03-3527-6401	03-3527-6407
〃	□梶井 綾	目黒・八雲小	03-3718-6306	03-3718-5752
〃	佐藤 麻美	豊島・高松小	03-3956-8157	03-3959-9607
〃	鈴木絵里子	国分寺・第二	042-572-8192	042-571-3318
編集部長	◎関 拓也	品川・延山小	03-3781-3806	03-3781-3942
編集副部長	○星野 哲朗	小金井・南中	042-383-1105	042-382-0405
編集部員	□藤井美貴子	渋谷・上原小	03-3467-4273	03-3467-3260
〃	□伊勢祐美子	世田谷・若林小	03-3413-0654	03-3413-0770
〃	□関田 裕子	世田谷・芦花小	03-3303-3301	03-3303-6431
学級活動部長	◇高橋 美衣	中央・月島第二小	03-3531-7268	03-3531-2213
児童会活動部長	◆渋井 洋子	東久留米・神宝小	042-474-4108	042-472-7990
クラブ活動部長	□矢部 聡	世田谷・尾山台小	03-3701-2183	03-3701-2355
学校行事部長	□竹田 桃子	中野・鷲宮小	03-3330-7371	03-3330-7372
会計監査	◎木田 明男	小平・小平第三小	042-321-0189	042-321-0164
〃	◎岡野 範嗣	大田・入新井第五小	03-3762-6438	03-3762-8313
相談役	◎新井 正一	新宿・天神小	03-3358-3769	03-3358-3775
〃	◎伊藤 幸一	東久留米・第七小	042-471-0114	042-477-5677
〃	◎今田 喜紀	板橋・板橋第八小	03-3963-4181	03-5375-5766
〃	◎篠遠 信行	文京・駒本小	03-3827-5451	03-5685-4928
〃	◎橋本 弥記	国分寺・第五小	042-322-0045	042-325-4912

4 理事・副理事（上段が理事、下段が副理事）

No.	区市町村	校名	氏名	学校電話番号	No.	区市町村	校名	氏名	学校電話番号
1	千代田	和泉	◎茅野 克俊	03-3866-3939	24	八王子	元八王子	◇大森 道久	042-623-0728
		千代田	◇寺田 美弥	03-3256-6768					
2	中央	有馬	◎小林 一輝	03-3666-5702	25	立川	第二	◎寺田 良太	042-523-4438
		有馬	◆宮内 有加	03-3666-5702			上砂川	久良木優有	042-534-6948
3	港	港南	◎吉川 浩一	03-3474-1501	26	武蔵野	第五	◎鈴木 恒雄	0422-51-2196
4	新宿	天神	◎新井 正一	03-3358-3769	27	三鷹	羽沢	◎高橋 奨	0422-32-8431
		四谷	◆菊池 友也	03-5369-3776					
5	文京	駒本	◎篠遠 信行	03-3827-5451	28	青梅	第四	○岡田信一郎	0428-22-7268
		昭和	小谷野 航	03-3944-0471					
6	台東	谷中	◎増嶋 広曜	03-3828-9218	29	府中	府中第五	◎森嶋 正行	042-361-9005
		松葉	◇川又 大樹	03-3841-2627			本宿	○奥井寿美子	042-365-2652
7	墨田	横川	◎近藤 幸弘	03-3625-0335	30	昭島	つつじが丘	◎大友 基裕	042-546-1170
		業平	□戸部 陽子	03-3625-0331			光華	○佐藤真由美	042-541-0313
8	江東	第一大島	◎神谷なおみ	03-3684-4314	31	調布	若葉	◇其田 晶子	042-3308-5256
		枝川	赤松 栄介	03-3644-4941			柏野	◎浅野 正臣	042-488-2861
9	品川	小山	◎上田 享志	03-3781-0044	32	町田	大蔵	○榎本 雄太	042-734-2321
		立会	◎滝淵 正史	03-3474-3424			七国山	◆坂本 理恵	042-791-2171
10	目黒	下目黒	◎秋山美栄子	03-3491-0332	33	小金井	東	○紅谷 昌元	042-383-1145
		八雲	□梶井 綾	03-3718-6306			東	菊地 佑太	042-383-1145
11	大田	入新井第五	◎岡野 範嗣	03-3762-6438	34	小平	小平第三	◎木田 明男	042-321-0189
		おなづか	◎酒井 敬子	03-3753-2615					
12	世田谷	京西	◎菅谷万里子	03-3700-1128	35	日野	日野第八	◎船山 徹	042-591-2411
		桜丘	○猪岡 仁	03-3429-1375			日野第五	◇二本木 基	042-581-0407
13	渋谷	千駄谷	◎中野有一郎	03-3401-1707	36	東村山	南台	○小熊 隆一	042-391-8117
		千駄谷	○三浦 利美	03-3401-1707			南台	菅野 彬	042-391-8117
14	中野	北原	□宮口 大介	03-3330-2411	37	国分寺	第一	◎出町桜一郎	042-322-0041
							第五	◎橋本 弥記	042-322-0045
15	杉並	高井戸第四	◎本橋 忠旗	03-3333-7828	38	国立	国立第四	○清原 周栄	042-572-4197
		荻窪	○田中あかね	03-3333-6628					
16	豊島	要	◎渡部貴美子	03-3956-8151	39	狛江			
		豊成	◆日向野 緑	03-3918-2315					
17	北	西浮間	◎小島みつる	03-5915-0133	40	東大和	第六	◎飯塚 庫健	042-562-1158
		浮間	□松本 明子	03-3969-0491			第六	○高井 亮	042-562-1158
18	荒川	峡田	◎津田 利枝	03-3891-2051	41	清瀬	清瀬第七	◎吉田 有子	042-493-4317
		第六日暮里	◎島埜 秀男	03-3800-3474					
19	板橋	若木	◎平松 隆行	03-3932-6325	42	東久留米	第七	◎伊藤 幸一	042-471-0114
		向原	◎浅見 智則	03-3956-8134			本村	◎赤羽根 智	042-474-0404
20	練馬	大泉南	◎田村亜紀子	03-3922-1160	43	武蔵村山	第十	◎中村 清敬	042-560-1710
		北町	◇神山 卓也	03-3932-3296			第一	□久保田晃司	042-561-1751
21	足立	東栗原	◎伊地知広竹	03-3883-4215	44	多摩	東落合	◎野々村 剛	042-376-6214
		保木間	高島 誠	03-3884-0416					
22	葛飾	奥戸	◎吉塚由紀子	03-3692-5911	45	稲城	第四	◎高橋 裕之	042-377-4443
		住吉	◇和田雄一郎	03-3607-2349			第五中	○小林 孝夫	042-378-6121
23	江戸川	本一色	◇浅山 孝子	03-3654-6030	46	羽村			
		平井	◇本多 泰夫	03-3613-9311					
47	あきる野	前田	□石川 萌香	042-559-7611	48	西東京	保谷第二	◎三澤 亘潤	042-463-4515
		五日市	○三浦 祐介	042-596-0017					
49	島嶼部	大島つつじ	○佐藤 芳晴	04992-4-0184	49	島嶼部	大島さくら	□日下部 和哉	04992-2-8021

※ 47は、あきる野市のみです。
 (福生市・日の出・瑞穂・檜原は理事不在のため別送)

◎校長 ○副校長 ◇主幹教諭 ◆指導教諭 □主任教諭

あ と が き

副 会 長 ^{いずるまち} 出 町 ^{おういちろう} 桜 一 郎
(国分寺市立第一小学校長)

令和6年の三が日は、能登半島での地震や羽田空港での航空機事故等、立て続けに自然災害や事故が起きました。どれもタイミング次第で、自分自身が当事者になり得る事案であり、決して他人事とは思えません。特に飛行機からの限られた時間での脱出は、報道されている内容からすると、乗務員と乗客が全体の安全を優先させ行動した結果、全員が無事に脱出できたのではないかと推測されます。平常時のみならず緊急時に個の利益より全体の利益を優先しなければならない場面では、特別活動の目標に掲げられている事項が、しっかりと身に付いていることが大きなポイントとなると考えます。「社会の形成者としての見方・考え方を働かせる」「自主的、実践的に取り組む」「行動の仕方を身に付ける」「合意形成を図ったり、意思決定したりする」これらの経験を通して、様々な既習事項を組み合わせながら、その時点での最善の判断ができるようになることが大切です。

3年前から都小特活では、学級活動部、児童会活動部、クラブ活動部、学校行事部の研究の視点を共通のものとし、それぞれの関連性も意識しながら、研究を深めて参りました。4つの活動のそれぞれの特長を生かしながら、具体的な実践を積み重ねました。本来、研究は狭く深く行うものですが、そうなると、とかく独善的になったり、排他的になったりする場合もあります。視点を共通のものとする事で、各内容間での関連性が高まり、都小特活として研究主題に迫れたと考えています。今後も、多くの教員が特別活動に関心をもち、創意工夫のある活動がどの学級でも展開されることを願っています。

次年度は、新しい研究主題で、研究を深める年になります。次の研究主題へと円滑に移行できるように研究をすすめ、「人間関係形成」「社会参画」「自己実現」という3つの視点を手がかりに、特別活動で身に付ける資質・能力の育成を着実に図って参ります。

結びに、本研究をすすめるにあたり御支援・御協力を賜りました東京都教育委員会、各地区の教育委員会及び理事の皆様、研究の場を提供いただきました各校の校長先生、教職員の皆様方に感謝を申し上げます。また、文部科学省初等中等教育局視学官 安部 恭子先生をはじめ、御指導・御助言いただきました関係の皆様方に心よりお礼を申し上げます。

東京都小学校特別活動研究会 研究紀要第60号

「よりよい人間関係や生活をつくり、

自己のよさを生かす特別活動」

印 刷 令和6年2月22日

発 行 令和6年2月22日

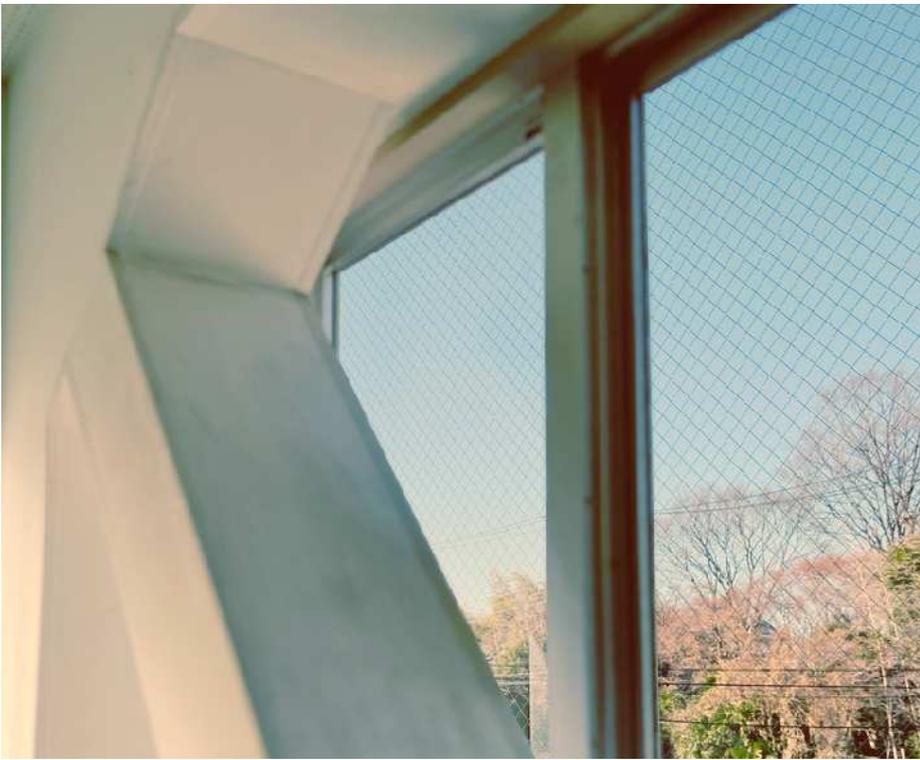
編 集 東京都小学校特別活動研究会

発行者 会長 石田 孝士

世田谷区立芦花小学校校長

印刷所 (有)二葉謄社

電話 042-479-4360



THE "TOKKATSU" PROGRAM IN JAPAN IS A UNIQUE JAPANESE STYLE OF EDUCATION THAT IS ATTRACTING ATTENTION FROM AROUND THE WORLD. THROUGH THE STUDY OF VARIOUS SPECIAL ACTIVITIES, SUCH AS CLASS MEETINGS AND DAY DUTY, WE HOPE FOR THE BETTER GROWTH OF CHILDREN.



TOKYO METROPOLITAN ASSOCIATION FOR SPECIAL ACTIVITIES IN ELEMENTARY SCHOOLS